

限ヲ有ス從テ執達吏代理カ執行力アル判決正本ニ基キ債務者ノ動産ヲ差押ヘ之ニ施シタル封印ハ刑法第七十四條第一項ニ該當ス(三七、六、三〇)  
醜ヲ差押ヘテ封印ヲ施シタル場合ニ至リテハ其容器ハ封印ノ一部ヲ爲スモノトス依テ其容器ヲ破壊シタル所爲ハ封印破棄罪ナリ(三七、一二、二)

### 第六章 逃走ノ罪

■ 本章ハ逃走ノ罪ヲ規定ス

本章ノ罪ハ囚徒自ラ逃走シタル場合ト勾禁者ヲ奪取シタル場合ト之ニ對シテ幫助セシ場合ト看守又ハ護送者ノ逃走セシメタル場合トヲ包含セシム而シテ何レモ司法權ノ執行ヲ妨害スルモノナレハ之ヲ罰スルニアリ

現行刑法ハ第二編第三章第三節ニ之ヲ規定シタルモノナレトモ之ヲ修正シタリ

現行法ハ囚徒ナル語ヲ用ヒタリ此語ハ二人以上ノ囚人タルコトヲ要スルカ如キ嫌アルヲ以テ改メテ囚人トシタリ

現行法ハ唯囚徒ニ關スル罪ノミヲ認ムモ其自由ヲ剝奪セラレ一定ノ設備中ニ拘禁セラレタル者ハ必ラスシモ囚人ニ限ラス現行法ハ是等ノ場合ヲ規定セス故ニ改正法ハ汎ク拘留セラレタル者ニ付キ之ヲ認メタリ

現行法第四百十三條ハ改正法ノ再犯ノ規定ノ結果トシテ其必要ヲ認メス又第四百十四條但書モ併合罪ノ規定ノ結果明文ヲ要セサルヲ以テ何レモ之ヲ削除ス  
同第五百十條ハ刑法ニ規定スル必要ナキヲ以テ之ヲ削除ス  
今日ノ實際ニ於テ囚人逃走スル者稍多キハ刑輕キニ過クルヲ一原因トス故ニ改正法ハ此弊ヲ防ク爲メ少シク其刑ヲ重クシタリ

### 第九十七條 既決、未決ノ囚人逃走シタルトキハ一年以下ノ懲役ニ處ス

■ 本條ハ囚人逃走シタルトキノ規定トス

既決トハ裁判確定シタル後ヲ云ヒ未決トハ未タ裁判ヲ受ケサルモノ及ヒ假令裁判ヲ受クルモ未タ確定ニ至ラサルモノヲ云フ而シテ何レモ獄舎ニ拘禁セララル者ヲ云フ其囚人カ間隙ヲ得テ逃走シタルトキニアリ其逃走トハ不法ニ拘禁監督ノ區域ヲ脱スル行爲ニシテ獄舎ヨリ出ツルト外役先キヨリ走ルトハ論セサルモノナリ

現行刑法第四百十二條第一項第四百十四條ヲ合セテ修正シタルモノナリ而シテ現行法ハ未決ノ囚人ニ付キ入監中ナル文字アリト雖モ之ヲ削除ス囚人ハ既決未決ヲ問ハス監獄ニ在ルヘキ身分ノ者ヲ示ス意義ナルヲ以テナリ

第九十八條 既決、未決ノ囚人又ハ勾引狀ノ執行ヲ受ケタル者拘禁場又ハ械具ヲ損壞シ若クハ暴行、脅迫ヲ爲シ又ハ二人以上通謀シテ逃走シタルトキハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス

註 本條ハ囚人又ハ勾禁者ノ複雑ナル逃走ノ場合ヲ規定ス  
既決未決ノ囚人又ハ勾引狀ノ執行ヲ受ケ勾禁セラレタル者等ニ於テ其拘禁場又ハ械具ヲ損壞シテ逃走シ又ハ暴行脅迫シテ逃走シ又ハ二人以上通謀シテ逃走シタル者ノ如キハ其情實ニ重シ之レ前條ヨリ重キ刑ヲ科スル所以ナリ  
拘禁場トハ一時タルト永久タルトヲ問ハス留置スル屋舎ナリ監獄ノ如キ警察署ニ設ケアリ裁判所ニ設ケアル留置場ノ如シ又械具トハ拘束セシ用具ニシテ捕繩ノ如キ連鎖ノ如キ施錠ノ如キ類ナリ

現行刑法第四百十二條第二項及ヒ第四百十五條ヲ合セテ修正シ一層其適用ヲ大ニシ被拘禁者ニ付キテ規定シタリ現行法ハ三人以上通謀シトアルモ之ヲ二人以上ト改メタリ是特ニ三人以上ノ場合ニ限ラス二人以上ナルトキニ於テ已ニ犯シ易ク防キ難ケレハナリ

第九十九條 法令ニ因リ拘禁セラレタル者ヲ奪取シタル者ハ三月以

上五年以下ノ懲役ニ處ス

註 本條ハ拘禁者ヲ奪取シタル者ヲ罰スル規定トス  
法令ニ因リ拘禁セラレタル者即チ既決未決ノ囚人ヲ論セス苟モ法律命令ニ因リテ勾禁セラレタル者ヲ奪ヒ取リタル者ハ本條ノ刑ニ處スヘキモノトス  
現行刑法第四百十七條ノ一部ヲ分割シテ規定シタリ而シテ現行法ニ於テハ劫奪ト爲シタリシカスノ如ク文字ヲ示ストキハ或ハ狹隘ノ意義ト爲ルノ恐レアルヲ以テ之ヲ奪取シ意義ヲ廣ク爲シタリ

第一百條 法令ニ因リ拘禁セラレタル者ヲ逃走セシムル目的ヲ以テ器具ヲ給與シ其他逃走ヲ容易ナラシム可キ行爲ヲ爲シタル者ハ三年以下ノ懲役ニ處ス

前項ノ目的ヲ以テ暴行又ハ脅迫ヲ爲シタル者ハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス

註 本條ハ逃セシメタル者ヲ罰スルモノトス  
第一項 法令ニ因リ拘禁セラレタル者ヲ逃走セシムル目的ヲ以テ器具ヲ給與シ其他

逃走ヲ容易ナラシムヘキ行爲例ヘハ拘禁場又ハ械具ヲ損壞スヘキ器具ヲ給與スルカ  
如キ又ハ逃走スル方法ヲ指示スルカ如キ類ニシテ拘禁者ヲ逃走セシメタル者ナリ  
第二項 若シモ前項ノ逃走セシムル目的ヲ以テ暴行脅迫ヲ爲シ逃走ヲ助ケ目的ヲ達  
セシメタルモノハ其罪前項ヨリ重シ之レ刑ヲ重クシタリ  
現行刑法第四百四十六條第四百四十七條ノ一部ヲ修正シタルモノトス現行法ハ逃走ノ方法  
ヲ指示シトアルハ逃走ヲ容易ナラシムル行爲ノ一例ナリ改正法ハ之ヲ逃走ヲ容易ナ  
ラシムヘキ行爲ヲ爲シタリト改ム又第四百四十六條ノ末文ハ其必要ナキヲ認メ之ヲ刪  
除セリ

第一百一條 法令ニ因リ拘禁セラレタル者ヲ看守又ハ護送スル者被拘  
禁者ヲ逃走セシメタルトキハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス

本條ハ看守ノ任アル者カ逃走セシメタル場合ヲ規定ス

看守又ハ護送者ハ拘禁者ヲシテ逃走ナカラシムルノ責任アル者ナルニモ拘ラス之ヲ  
逃走セシムルハ其責輕カラス依テ重ク科スルニアリ

現行刑法第四百四十八條ニ同シ

第一百二條 本章ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

本條ハ未遂罪ヲ罰スルコトヲ示ス  
本章ノ罪ハ何レモ情狀ニ於テ重シ故ニ未遂罪ノ場合ニ於テ之ヲ罰シ以テ豫防スルニ  
アリトス

### 第七章 犯人藏匿及ヒ證憑湮滅ノ罪

本章ハ犯人藏匿及ヒ證憑湮滅ノ罪ヲ規定ス

犯罪ヲ庇陰スル方法中ノ一ナル犯人ヲ藏匿シ及ヒ證憑ヲ湮滅スル罪ヲ定ム學者之ヲ  
事後ノ從犯ト稱シタリシモ近世諸國ノ立法例ニ倣ヒ之ヲ獨立ノ罪ト爲シタルモノト  
ス

現行刑法ハ第二編第三章第三節中ニアルモノヲ更ニ修正シテ一章ト爲シタルモノナリ  
現行法ハ本章ノ罪ニ對シ定役ニ服セサル刑ヲ科シタルモ往々盜賊ヲ使役シ不法ノ利  
得ヲ圖ル如キ者アルヲ以テ改正法ハ之ニ懲役ヲ科スコト、セリ之ニ反シ知己老幼ヲ  
庇陰スル爲メ犯シタル者ノ如キハ其情狀極メテ輕キヲ以テ此等ノ犯人ニハ罰金ヲ科  
スル餘地ヲ遺シタリ

第一百三條 罰金以上ノ刑ニ該ル罪ヲ犯シタル者又ハ拘禁中逃走シタ  
ル者ヲ藏匿シ又ハ隱避セシメタル者ハ二年以下ノ懲役又ハ二百圓

以下ノ罰金ニ處ス

註 本條ハ罪人ヲ藏匿又ハ隱避シタル罪ヲ定ム

罰金以上ノ刑ニ該ルヘキ罪ヲ犯シタル者又ハ拘禁中逃走シタル者ヲ藏匿シ又ハ隱避セシメタル者ヲ罰スルモノトス其藏匿トハ其者ヲ「カクマフ」ト云フ意義ニシテ隱匿ノ場所ヲ給與スルニアリ例ヘハ犯人ヲ自己ノ家ニ潜伏セシムルカ如シ又隱避トハ犯人ノ潜伏セントスル行爲ヲ援クモノニシテ例ヘハ旅費ヲ與ヘテ逃走セシメ若クハ隱匿ニ適當ナル場所又ハ方法ヲ指示スルノ類ナリ

現行刑法第五十一條ヲ修正シタルモノナリ現行法ハ廣ク犯人ノ藏匿隱避ニ付テ規定ヲ設クルモ改正法ハ拘留又ハ科料ノ如キ罪ニ付テハ事態極メテ輕微ナルヲ以テ所罰ノ必要ナク依テ罰金以上ノ刑ト定メタリ又監視ノ如キハ之ヲ廢シタル結果削除シタルモノトス

判決例

犯罪人ヲ藏匿シ若クハ隱避セシムル犯罪ハ積極的ノ行爲ヲ必要トス(三一、六、一〇) 自ら隱避ノ行爲ヲ行ハサルモ犯人ニ隱避ノ便ヲ與ヘタルニ依リテ成立ス(三五、五、一九)

第四百四條 他人ノ刑事被告事件ニ關スル證憑ヲ湮滅シ又ハ偽造、變造シ若クハ偽造、變造ノ證憑ヲ使用シタル者ハ二年以下ノ懲役又ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス

註 本條ハ證憑湮滅ノ罪ヲ規定ス

他人ノ刑事被告事件ニ付キ其證憑ヲ湮滅シ又ハ證憑ヲ偽造シ變造シ若クハ其偽造變造ナルコトヲ知リテ之ヲ使用シタルモノハ何レモ他人ヲシテ刑事ノ責任ヲ免レシメント謀ルモノナリ故ニ之ヲ罰セサレハ眞實ノ裁判ヲ爲スコトヲ得サルカ故ナリ

而シテ自己ノ被告事件ニ付テハ之ヲ隱蔽スルハ自然ノ情ニ出ツルヲ以テ罰セス又證憑トハ證據ト徵憑トヲ包含シ例ヘハ被告人ノ自狀檢證調書證據物件證人ノ供述、鑑定書ノ如キハ證據ニシテ被告ノ告訴狀盜難屆書被告人ノ供述共犯人ノ供述參考人ノ供述ノ如キハ徵憑ナリ茲ヲ以テ證憑ト云ヒシナリ

現行刑法第五十二條ヲ修正シタリ現行法ハ單ニ罪證隱蔽ノ場合ノミヲ規定シ其適用甚タ狹キニ失スルヲ以テ改正法ハ之ヲ修正シ總テ他人ノ刑事被告事件ニ關スル有罪若クハ無罪ノ證憑ヲ湮滅シ又ハ偽造變造シ若クハ偽造變造ノ證憑ヲ使用シタル場合ニ關シテ廣ク其規定ヲ設ケタリ

第一百五條 本章ノ罪ハ犯人又ハ逃走者ノ親族ニシテ犯人又ハ逃走者ノ利益ノ爲メニ犯シタルトキハ之ヲ罰セス

■ 本條ハ犯人又ハ逃走者ノ親族ニ係ル場合ヲ規定ス

犯人又ハ逃走者ノ親族ニシテ其犯人又ハ逃走者ノ利益ノ爲メニ藏匿シ又ハ隱避シ又ハ證憑ヲ湮滅シ證憑ヲ偽造變造シ若クハ偽造變造ノ證憑ヲ使用シタルトキハ大ニ恕スヘキモノナリ故ニ之ヲ罰セス

現行刑法第五十三條ト全ク同一ノ趣旨ナリ唯改正法ハ前條ニ述ヘタルカ如ク廣汎ニ規定シタル結果本條ニ於テ假令被告人又ハ逃走者ノ親族タリトモ被告人又ハ逃走者ノ不利益ノ爲メニ犯シタル場合ヲ明ラカニ除外シタリ

### 第八章 騷擾ノ罪

■ 本章ハ騷擾ノ罪ヲ規定ス

抑モ騷擾ノ罪トハ多數衆合シテ暴行又ハ脅迫ヲ爲シタル場合ヲ云フ

現行刑法第二編第三章第一節ヲ修正シタルモノニシテ現行法ハ本章ノ罪ヲ兇徒聚衆ノ罪ト稱シ兇徒多衆ヲ嘯集シテ暴動ヲ爲ス場合ヲ規定シタリト雖モ唯其用語不當ナルノミ其趣旨ニ至リテハ廣ク内亂ノ目的ヲ除キ總テ其他ノ目的ヲ以テ多衆聚合シテ暴

行又ハ脅迫ヲ爲ス場合ニ適用セントスルコト明白ナリ故ニ改正法ハ其趣旨ニ依リテ語句ヲ改メタリ次ニ第三百三十八條ハ其必要ナキヲ以テ之ヲ删除セリ

第三百六條 多衆聚合シテ暴行又ハ脅迫ヲ爲シタル者ハ騷擾ノ罪ト爲

シ左ノ區別ニ從テ處斷ス

一 首魁ハ一年以上十年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

二 他人ヲ指揮シ又ハ他人ニ率先シテ勢ヲ助ケタル者ハ六月以上

七年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

三 附和隨行シタル者ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス

■ 本條ハ騷擾ノ罪ノ何タルコト及ヒ其處罰ヲ定ム

多數ノ人民衆合シテ暴行又ハ脅迫ヲ爲ス之ヲ騷擾ノ罪ト稱ス其如何ナル目的ヲ以テ衆合スルカハ例示セサルモ何レモ一定ノ目的ヲ有シタルモノナルヘシ從テ此暴行又ハ脅迫ハ必ラス彼等ノ有シタル目的ヲ達センカ爲メニ外ナラサルナリ而シテ法律ハ之ヲ明ラカニ示サス事實裁判官ノ認定ニ任シタリ

騷擾ノ罪ニ付テハ本條列記ノ如ク三段ニ區別シ以テ各々事情ニ照シ其刑ヲ差別シタ

ルモノトス

現行刑法第三百二十七條ヲ修正シタルモノナリ現行法ハ暴動ヲ例示スト雖モ是全ク不必  
要ノ規定ナルヲ以テ之ヲ削リ暴動ノ教唆者ヲ處罰スト雖モ其必要ナシトシテ之ヲ刪  
除セリ

判決例

兇徒嘯集罪ハ多數ノ人カ暴動行爲ヲ爲スモ暴動者間ニ意思ノ合同ナキトキハ本罪ヲ  
構成セス當初平穩ナル多衆ノ集合ト雖モ多衆ノ意思如何ニ依リ何時ニテモ兇徒嘯集  
ニ變シ得ヘキモノトス(三五、五、一一)

第七條 暴行又ハ脅迫ヲ爲ス爲メ多衆聚合シ當該公務員ヨリ解散  
ノ命令ヲ受クルコト三回以上ニ及フモ仍ホ解散セサルトキハ首魁  
ハ三年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處シ其他ノ者ハ五十圓以下ノ罰金ニ  
處ス

本條ハ暴徒ノ解散セサル場合ヲ規定ス

暴行又ハ脅迫ヲ爲スカ爲メニ多衆ノ人民カ聚合シ爲メニ其筋ノ公務員ヨリ解散スヘ  
キノ命令ヲ受ケタルニモ拘ハラヌ解散セサルハ蓋シ其目的ヲ達セントスルニアリテ

社會ノ安寧秩序ヲ害シ公權ヲ蔑如スルモノナリ故ニ首魁及ヒ其他ノ者ヲ處罰スルモ  
ノナリ而シテ三回マテ餘地ヲ與ヘタルハ事情ヲ斟酌シタルニ外ナラス

現行刑法第三百二十六條ト同一ノ趣旨ニシテ教唆者ヲ刪除シタルハ其必要ナキヲ以テノ  
故ナリ

### 第九章 放火及ヒ失火ノ罪

本章ハ放火及ヒ失火ノ罪ヲ規定ス

放火トハ火ヲ放ツコト即チ火ヲ或ル物體ニ傳フルコトヲ云ヒ失火トハ火氣ヲ過失ニ  
シテ物體ニ傳フルコトヲ云フ即チ一ハ故意ヲ以テシ又ハ過失ヲ以テスルニアリ而シ  
テ此二個ノ罪ヲ規定シタリ

現行法ハ放火失火ノ罪ヲ以テ財産ニ對スル罪ト爲シ之ヲ第三編第二章第七節ニ規定シ  
タリ然レトモ放火失火ハ寧ロ靜謐ヲ害スル罪ニ屬スヘキモノナルヲ以テ之ヲ第九章  
ト爲シ多少ノ修正ヲ加ヘタリ

其修正ノ要旨ハ元來放火失火ハ我國ニ在テハ頗ル多ク其危害モ亦極メテ大ナルヲ以  
テ現行法ニ於テモ稍詳細ナル規定ヲ設ケタリト雖モ尙ホ脱漏セルモノ少ナカラサル  
ノミナラス其規定モ亦稍明瞭ヲ欠ク嫌ナキニアラサルヲ以テ改正法ハ一方ニハ其規

定ノ趣旨ヲ明ラカニスルト共ニ一方ニハ其不備ヲ補修シタルモノアリ

第二百八條 火ヲ放テ現ニ人ノ住居ニ使用シ又ハ人ノ現在スル建造物、汽車、電車、艦船若クハ鑛坑ヲ燒燬シタル者ハ死刑又ハ無期若クハ五年以上ノ懲役ニ處ス

註 本條ハ現ニ人ノ住居スル建造物其他ノモノニ放火シタル場合ヲ規定ス

現ニ人ノ住居ニ使用シタル建造物ハ勿論人ノ現在スル建造物、汽車、電車、艦船、鑛坑ニ火ヲ放チ之ヲ燒燬シタルモノヲ罰スルモノトス

現ニ人ノ住居ニ使用スル建造物トアルヲ以テ放火ノ當時其建造物内ニ人ノ現住シ居ルコトヲ必要トセス例ヘハ我々ノ住居スル家屋ノ如シ現ニ我々カ其屋内ニ居ラサルモ之ニ火ヲ放テハ本條ノ罪ヲ構成スヘシ其財産ヲ燒キ社會ニ危害ヲ加フルハ人ノ現居スルト否トニ於テ變更ナキモノトス只其情狀ニ於テ人ノ現住ト否トヲ區別スルニアルノミ又人ノ現在セサルヲ以テ普通スルモノニシテ人ノ現在スル場合ニ於テハ此點ニ於テ本罪ヲ構成スルモノナリ即チ學校官公署衙ノ如キ、穀物納屋ノ如キ汽車、電車、軍艦、商船若クハ鑛坑ノ如シ

以上其建造物以下ノ物カ犯人ノ所有ニ係ルト否トハ問ハサルナリ其人ノ現在スルニ

於テハ犯人自己以外ノ人サヘ居ルトキハ之ニ該當セシム

燒燬ノ程度ニ於テハ學者各說ヲ爲セリ然シテ其已遂ト未遂トハ其目的物件ノ存在ヲ亡失セシムルノ程度ニ至ラスンハ已遂トスルコトヲ得ストスルヲ以テ多數ナリトス

現行刑法ハ第四百二條及ヒ第四百五條第一項ヲ合シテ之ヲ修正シタルモノナリ現行法ハ家屋、船舶及ヒ汽車ノ燒燬ニ付テノミ規定スルヲ以テ改正法ハ之ヲ擴張シ廣ク建造物、汽車、艦船トシ更ニ電車鑛坑ヲ加ヘタリ最汽車ノミヲ保護シテ電車ヲ保護セサル理由ナク鑛坑ニ至リテハ放火ノ危害却テ家屋ニ勝ルモノアルニ拘ハラヌ不幸ニシテ往々實際ニ生スル事實ナルヲ以テ其保護ハ刻下ノ急務タレハナリ又現行法ハ本罪ニ對シ單ニ死刑ノミヲ科スルモ其刑ノ範圍狹キニ過キ從テ其情狀輕キモノニ對シテモ尙ホ無益ノ酷刑ヲ科スル結果ヲ生シ現時其害弊ニ困ムヲ以テ改正案ハ刑ノ範圍ヲ廣クシ情狀ニ應シ其刑ヲ定メシムルコト、爲シタリ

判決例

本屋ヲ燒燬スル目的ヲ以テ納屋ニ放火シタルハ其手段中ニ包含スルヲ以テ別ニ一罪トシテ問擬スヘキニ非ス(二三、一二、二五)

所有主カ其所有家屋ヲ他人へ貸渡中ニ放火シタルトキハ人ノ住居シタル家屋ヲ燒

燬シタルモノナリ(二四、四、一五)

人ノ住居シタル家屋ヲ燒燬スルノ目的ヲ以テ其家ニ接近シタル木小屋ニ放火シ遂ニ其目的ヲ達セシハ刑法第四百二條トス(二四、九、一七)

人ノ住居シタル家屋トハ親屬他人ノ別ナク總テ人ノ住居ヲ指稱シタルモノニシテ家族若クハ家長ヲ包含スルコト勿論ナリ(二八、三、一九)

自己ノ所有ニ屬スル家屋ト雖モ他人ニ貸與シテ現ニ住居スル場合ニ於テ之ニ放火シタル所爲ハ刑法第四百二條ノ犯罪ヲ構成ス(三二、五、一六)

人ノ住居シタル家屋ニ火ヲ放チテ之ヲ燒燬セシメ猶ホ小屋雪隠ヲモ延燒ニ至ラシメタル所爲ハ人ノ住居シタル家屋ヲ燒燬シタル一罪ナリ(三四、一二、一六)

自己ノ家屋ト雖モ他人ノ住居スル家屋ニ放火シタルトキハ刑法第四百二條トス(三五、三、一〇)

放火ハ火ヲ建造物ニ放チ火ノ燃上リ爲メニ危險ヲ惹起スルニ依リテ成立ス(三五、一〇、二七)

住居シタル家ト住居セサル家ト密接シタルモノヲ共ニ燒カント放火シ同時ニ燒ケタルトキハ人ノ住居シタル家ヲ燒キタル重キ内ニ包括シ別ニ一罪ヲ成サス(三六、四、一七)

一七)

苟モ他人カ住居トシテ平常使用スル建物ハ其住居者カ一時外出シテ不在ナルトキト雖モ刑法第四百二條ノ家屋ナリ現在人ノ有無ヲ問ハス(三八、八、一七)

第百九條 火ヲ放テ現ニ人ノ住居ニ使用セス又ハ人ノ現在セサル建造物、艦船若クハ鑛坑ヲ燒燬シタル者ハ二年以上ノ有期懲役ニ處ス

前項ノ物自己ノ所有ニ係ルトキハ六月以上七年以下ノ懲役ニ處ス但公共ノ危險ヲ生セサルトキハ之ヲ罰セス

註 本條ハ人ノ住居ニ使用セス又ハ現居セサル物件ニ放火シタル場合及ヒ自己ノ物件ニ放火シタル場合ヲ規定ス

第一項 人ノ住居ニ使用セサル建造物又ハ例令人ノ住居ニ使用スルト否トヲ問ハス苟モ人ノ現在セサル建造物、艦船若クハ鑛坑ニ火ヲ放ツテ燒燬シタル者ヲ罰スルニアリ而シテ建造物ハ前條已ニ述ヘタルカ如ク神社佛閣學校倉庫等ヲ包含ス

第二項 前項ノ建造物、艦船、鑛坑ニシテ犯人自己ノ所有ニ係ルトキハ其情狀輕シ



而シテ又其燒燬スルモ公共ノ危険ヲ生セサルトキハ之ヲ罰セス蓋シ自己一身ノ損害ノミニ係レハナリ例ヘハ山中ニ炭燒小屋アリテ他ノ物件ニ延燒ノ恐レナキトキ自己之ヲ不用トシ放火シテ燒失シタルトキノ如シ

現行刑法ハ第四百三條第四百五條第二項及ヒ第四百七條ニアリ之ヲ合シテ修正ス而シテ改正法第一項ハ前條ト同一ノ理由ニシテ汽車電車ニ付テハ必要ナキヲ以テ之ヲ除キ第二項ハ現行法ハ家屋ノミナリシモ前條ト同シク他ノ物件ヲモ加ヘタリ  
判決例

凡ソ家屋ノ構造ヲ以テ一定ノ場所ニ建設シタル堂宇ノ如キ堂宇其物ノ廣狹大小ニ依リ建造物ナルト否トヲ區分スルヲ得ス故ニ稻荷堂ノ如キハ其形狀ヲ小且狹ナルニモセヨ建造物ナルコト言フ俟タサレハ之ヲ燒燬スルノ所爲ヲ刑法第四百三條ニ間擬セシハ相當ナリ(二七、一〇、二二)

第一百十條 火ヲ放テ前二條ニ記載シタル以外ノ物ヲ燒燬シ因テ公共ノ危険ヲ生セシメタル者ハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス  
前項ノ物自己ノ所有ニ係ルトキハ二年以下ノ懲役又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

本條ハ前二條以外ノ物ニ放火シタル場合ヲ規定ス

第一項 火ヲ放テ前二條以外ノ物件例ヘハ廢屋、柴草、肥料、山林ノ竹木、田野ノ穀麥、露積シタル柴草竹木等ヲ燒燬シタルモノナリ而シテ此燒燬カ公共ノ危険ヲ生セシメタル場合ニ於テ罪ヲ構成セシメタリ公共ノ危険ヲ生セサルトキハ民事ノ損害トシテ罰セス之ヲ放任セリ

第二項 第一項ノ物件ニシテ自己ノ所有ニ係ルトキハ自己ノ處分權トシテ行使シタルヲ以テ同罪トスルハ酷ニ失ス故ニ多少靜謐ヲ害シタルニ依リ輕キ刑ヲ科スルモノトス

現行刑法第四百四條第四百六條ヲ合シテ修正シタリ而シテ改正法第二項ハ新設セリ  
判決例

刑法第四百四條柴草肥料等ヲ貯フル屋舎トアル法文等ノ文字中ニハ柴草肥料ト同等ナル物件ヲ包含スルモノナリトス石炭製造小屋ハ同第四百三條ニ當ルヘキ程ノモノニ非ラス柴草肥料ヲ貯ル屋舎ト同視スヘキモノトス(二五、一〇、二四)  
山林ニ露積シタル薪柴ニ放火シ延テ附近ノ柴山ヲ燒燬シタルハ放火罪ノ結果ニシテ別ニ失火罪ヲ構成セス(三三、一一、三三)

第百十一條 第百九條第二項又ハ前條第二項ノ罪ヲ犯シ因テ第百八條又ハ第百九條第一項ニ記載シタル物ニ延焼シタルトキハ三月以上十年以下ノ懲役ニ處ス

前條第二項ノ罪ヲ犯シ因テ前條第一項ニ記載シタル物ニ延焼シタルトキハ三年以下ノ懲役ニ處ス

本條ハ延焼シタルトキノ罪ヲ定ム

第一項 犯人自己ノ所有ニ係ル人ノ住居ニ使用セス又ハ現居セサル建造物、艦船若クハ鑛坑ヲ燒燬シ之カ延焼シテ自己以外ノ現ニ人ノ住居ニ使用シ又ハ人ノ現在スル建造物、汽車、電車、艦船若クハ鑛坑ヲ燒キ又ハ自己ノ所有ニアラサル人ノ住居ニ使用セス又ハ人ノ現在セサル建造物、艦船若クハ鑛坑ヲ燒燬シタルトキハ害ヲ他人ニ及ホスヲ以テ本項ノ如ク罰スルモノトス

第二項 火ヲ放テ自己ノ所有ニ係ル廢屋其他柴草竹木等前條第二項ニ記載スル物件ヲ燒キ爲メニ延焼シテ他人ノ所有物ヲ燒キタルトキモ亦他人ヲ害ス併シ其情ニ於テ輕キヲ以テ本項ノ如ク罰スルモノトス

現行刑法ニ於テハ本條ノ如キ條文ナシ蓋シ新設ニ係ルモノトス

第百十二條 第百八條及ヒ第百九條第一項ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

本條ハ未遂罪ヲ罰スル規定トス

第百八條第百九條第一項ノ罪ハ其情重シ依テ未遂罪ヲ罰スルニアリ

第百十三條 第百八條又ハ第百九條第一項ノ罪ヲ犯ス目的ヲ以テ其豫備ヲ爲シタル者ハ二年以下ノ懲役ニ處ス但情狀ニ因リ其刑ヲ免除スルコトヲ得

本條ハ放火罪中豫備ヲ罰スルコトヲ規定シタリ

第百八條又ハ第百九條第一項ノ罪ハ實ニ重大ニシテ人命且財産ニ對シ危險ヲ加フルモノナレハ其豫備ノ行爲ヲモ罰シ危害ヲ未然ニ防クニアリ但シ其情狀ニ因リテ刑ヲ免除スルコトヲ得セシム

現行刑法ニ於テハ之ヲ規定セス建造物、艦船、鑛坑ノ如キハ人ノ住居若クハ現在スル虞アリ且重要ナル財産ナルヲ以テ之ニ放火スルカ如キハ重大ナル罪ナレハ未然ニ防ク爲メニ豫備ヲモ罰スルコト、爲シタルニアリ

第一百四十四條 火災ノ際鎮火用ノ物ヲ隱匿又ハ損壞シ若クハ其他ノ方法ヲ以テ鎮火ヲ妨害シタル者ハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス

■ 本條ハ鎮火ヲ妨害シタル罪ヲ規定ス

火災ノ際之ヲ鎮火スルハ社會ノ安寧ヲ維持シ人々ヲシテ安全ナラシメ殊ニ其當事者ニ於テハ人命ト財産ノ危害ヲ助クルモノナレハ實ニ公益上忽諸ニ付スヘカラサルモノナリ然ルニ鎮火用ノ物件例ヘハポンプ、龍吐水、水桶其他荷モ消防用具ヲ隱匿シ又ハ損壞シ若クハ其他ノ方法ヲ以テ鎮火ヲ妨害シタル所爲ハ實ニ不法トス之レ本條ニ於テ重ク罰スル所以ナリ

現行刑法ハ此罪ヲ欠如シタリ故ニ改正法ヲ以テ補充ス

第一百五條 第九條第一項及ヒ第十條第一項ニ記載シタル物自己ノ所有ニ係ルト雖モ差押ヲ受ケ、物權ヲ負擔シ又ハ賃貸シ若クハ保險ニ付シタルモノヲ燒燬シタルトキハ他人ノ物ヲ燒燬シタル者ノ例ニ同シ

■ 本條ハ他人ノ抵償ト爲リタル自己ノ物ヲ放火スル場合ヲ示ス

第九條第一項ノ建造物、艦船若クハ鑛坑及ヒ第十條第一項ノ以上以外ノ物ニシテ例令自己ノ所有ニ係ルト雖モ已ニ差押ヲ受ケアル場合、又ハ動産ナルトキハ留置權先取特權質權ヲ設定シアリ不動産ナルトキハ先取特權質權抵當權ヲ設定シアル場合、又ハ賃貸シ又ハ保險ヲ付スル等何レモ他人ニ對シテ抵償ノ權利ヲ設ケアリシトキハ之ヲ燒燬スルトキハ他人ノ權利ヲ害スルニ至リ損害ヲ負ハシムルニアレハ殆ント他人ノ物件ヲ燒燬シタルト同一ナリ故ニ本條ヲ設ケ同一ノ處罰ヲ加フル旨ヲ規定シタルモノトス

現行刑法ニ於テハ本條ノ如キ規定ナシ其危害ヲ慮ハカリ之ヲ新設シタリ

第十六條 火ヲ失シテ第八條ニ記載シタル物又ハ他人ノ所有ニ係ル第九條ニ記載シタル物ヲ燒燬シタル者ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス

火ヲ失シテ自己ノ所有ニ係ル第九條ニ記載シタル物又ハ第九條ニ記載シタル物ヲ燒燬シ因テ公共ノ危險ヲ生セシメタル者亦同シ

■ 本條ハ失火罪ヲ規定ス

第一項 失火トハ過失ニテ火ヲ出シタルヲ云フ而シテ過失ヲ以テ現ニ人ノ住居ニ使用シ又ハ人ノ現在スル建造物、汽車、電車、艦船若クハ鑛坑ヲ燒燬シタルトキハ假令其物カ自己ノ所有ニ係ルトキト雖モ危險ナルヲ以テ本罪ヲ科シ第百十條ノ現ニ人ノ住居ニ使用セス又ハ人ノ現在セサル建造物、艦船若クハ鑛坑ハ他人ノ所有ニ係ル場合ニ於テ失火シ燒燬シタルトキニ罰スルモノトス之レ危險ノ稍前ヨリ輕キカ爲メナリトス而シテ其自己ノ所有ニ係ルトキハ次項ニアリ

第二項 過失ニテ自己所有ニ係ル第百九條ニ記載シタル物又ハ第百十條ニ記載シタル物ヲ燒燬シ因テ公共ノ危險ヲ生セシメタル者モ亦第一項ト同罪トス

人或ハ第百十五條ノ場合ニ於ケル失火罪ハ如何爲スヘキヤヲ問ヘリ第百十五條ノ場合ハ自己ノ所有ニ係ル物ナリ依テ本項ニ於テ自己ノ所有ニ係ル第百九條及ヒ第百十條トアルヲ以テ之ヲ包含セシムヘク而シテ他人ノ低價ト爲リタルトキニ於テ之ヲ燒燬スルハ公共ノ危險ヲ生セシメタル者ニハアラサルカ果シテ公共ノ危險ヲ生セシメタルモノナリトセハ別ニ明文ヲ要セス明治三十五年議會ニ提出セシ草案ニ於テハ第百十五條ノ場合ヲモ加ヘアリシ然ルニ其草案ニハ公共ノ危險ヲ生セシメタルトノ明文ナシ而シテ此公共ノ危險トハ延燒スルカ如キ場合ヲ多ク慮ハカリテ彼ノ債權者ノ

如キハ之ヲ包含セシメサルヲ正解トス左レハ第百十五條ノ場合ノ如キニシテ公共ノ危險ノ生セサルトキハ一ノ過失トシテ損害賠償ノミニ止メタル立法ノ精神ナラン記シテ大家ノ教示ヲ俟タン

現行刑法第四百九條ノ修正シ其趣旨同一ナリトス

第百十七條 火藥、汽罐其他激發ス可キ物ヲ破裂セシメテ第百八條ニ記載シタル物又ハ他人ノ所有ニ係ル第百九條ニ記載シタル物ヲ損壞シタル者ハ放火ノ例ニ同シ自己ノ所有ニ係ル第百九條ニ記載シタル物又ハ第百十條ニ記載シタル物ヲ損壞シ因テ公共ノ危險ヲ生セシメタル者亦同シ

前項ノ行爲過失ニ出テタルトキハ失火ノ例ニ同シ

本條ハ準放火罪ヲ規定ス

第一項 火藥汽罐其他激發スヘキ物ハ大ニ注意ヲ要スヘキモノナルコトハ爆發物取締罰則ノアルアリ而シテ此等ノ危險物ヲ破裂セシメテ第百八條ニ記載シタル物ヲ損壞シ又ハ他人ノ所有ニ係ル第百九條ニ記載シタル物ヲ損壞シタルモノハ燒燬ニアラ

スト雖モ其實同一ナレハ放火ノ例ニ照シテ一ハ死刑又ハ無期若クハ五年以上ノ懲役ニ處シ一ハ二年以上ノ有期懲役ニ處ス

自己ノ所有ニ係ル第九條ニ記載シタル物又ハ第一百條ニ記載シタル物ヲ損壞シ因テ公共ノ危險ヲ生セシメタルモノモ亦同一トス故ニ一ハ六月以上七年以下ノ懲役ニ處シ一ハ一年以下ノ懲役又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二項 前項ノ行爲ニシテ過失ナルトキハ失火ノ例ニ照シ第一百十六條ノ如ク處斷スヘキモノトス

現行刑法第四百十條ト全ク同一趣旨ニ出テタルモノナリ

第一百十八條 瓦斯、電氣又ハ蒸汽ヲ漏出若クハ流出セシメ又ハ之ヲ遮斷シ因テ人ノ生命、身體又ハ財產ニ危險ヲ生セシメタル者ハ二年以下ノ懲役又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

瓦斯、電氣又ハ蒸汽ヲ漏出若クハ流出セシメ又ハ之ヲ遮斷シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害ノ罪ニ比較シ重キニ從テ處斷ス

本條ハ瓦斯類ヲ漏出、流出又ハ遮斷シタル場合ヲ規定ス

第一項 瓦斯、電氣又ハ蒸汽ノ類ハ漏出シ又ハ流出シ又ハ場合ニ依リ遮斷スルコトアリ而シテ是等ヲ扱フニハ大ニ注意ヲ要スヘキ危險物ナリトス然ルニ是等ヲ故意ニ害用シ人ノ生命、身體及ヒ財產ニ危險ヲ生セシメタルカ如キハ實ニ靜謐ヲ害スル甚シキヲ以テ罰セサルヘカラス

第二項 第一項ノ如ク之ヲ害用シ爲メニ人ヲ死亡セシメ創傷ヲ負ハシメタルトキハ傷害ノ罪ト本條ノ罪トヲ比較シ其重キニ從テ處罰スヘキモノトス

現行刑法ハ之ヲ欠如シタルヲ以テ新設シタリ即チ第一項ハ瓦斯、電氣又ハ蒸汽漏出ノ危險ヲ豫防スル目的ニ出タル規定ニシテ此等ノ器具ヲ毀損シ又ハ其他ノ方法ニ因リ瓦斯、電氣又ハ蒸汽ヲ漏泄セシメ人ノ生命身體又ハ財產ニ危險ヲ生セシム行爲ノ如キハ之ヲ不問ニ付スヘカラサルヲ以テ之ヲ規定シタリ

第二項ハ前項ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ其情狀重クシテ之ヲ過失傷害罪ト爲スハ輕ニ失スルヲ以テ特ニ傷害罪ニ問フモノトシタリ

### 第十章 溢水及ヒ水利ニ關スル罪

本條ハ溢水及ヒ水利ニ關スル罪ヲ規定ス

本章ハ其方法如何ヲ問ハス溢水セシメテ害ヲ加ヘ又ハ水利ノ妨害ヲ爲シタル等實ニ

生命、身體、財産ニ影響スルモノナルヲ以テ靜謐ヲ害ス故ニ之ヲ罰スルニアリトス  
現行刑法ハ第三編第二章第八節洪水ノ罪トシテ規定シタルモノヲ修正シタリ  
本章モ亦放火及ヒ失火ノ罪ト同シク靜謐ニ關スルモノトシテ茲ニ移シタリ現行法ハ  
洪水ノ罪トシタルヲ改メテ溢水及ヒ水利ニ關スル罪トシ其他其旨趣ニ於テハ敢テ改  
變シタルモノ少シ

第百十九條 溢水セシメテ現ニ人ノ住居ニ使用シ又ハ人ノ現在スル  
建造物、汽車、電車若クハ鑛坑ヲ浸害シタル者ハ死刑又ハ無期若  
クハ三年以上ノ懲役ニ處ス

本條ハ溢水シタル罪ヲ規定ス

溢水ノ方法ハ種々アリ決シテ例示ヲ以テ盡クスコトヲ得サルモ堤防ヲ決潰シタルカ  
如キ水閘ヲ毀壞シタルカ如キハ一種ノ方法トス而シテ其方法ノ如何ヲ論セス溢水セ  
シメテ現ニ人ノ住居ニ使用シ又ハ人ノ現在スル所ノ建造物、汽車、電車、鑛坑ヲ浸  
害シタル者ハ之ヲ罰ス其刑ハ死刑又ハ無期若クハ三年以上ノ懲役ニ處スヘキモノト  
ス蓋シ人命ニ關スル場合アルヲ以テ極刑ヲモ加ヘタルモノトス  
而シテ現ニ人ノ住居ニ使用シ又ハ人ノ現在スルニ付テハ已ニ第百八條ニ於テ説

述シタルヲ以テ再ヒ之ヲ述ヘス

現行刑法第四百十一條第一項ヲ修正シタルモノニシテ電車及ヒ鑛坑ヲ加ヘ又刑ノ範圍  
ヲ廣クシタルコトハ已ニ之ヲ述ヘタリ而シテ本條ニ於テ死ニ致シタル場合ニアラサ  
レハ死刑ニ處スルコトヲ得サラシメタルハ蓋シ刑ノ過酷ヲ避クルカ爲メナリ

判決例

堤防ノ附近ニ人家アリテ其堤防ヲ決潰セハ人家ノ漂失スルハ理ノ當然ナル場合ニ其  
堤防ヲ決潰シタルトキハ人家ノ漂失ヲ豫知シタルモノト云フヲ得ヘシ(三六、二二八)

第百二十條 溢水セシメテ前條ニ記載シタル以外ノ物ヲ浸害シ因テ  
公共ノ危險ヲ生セシメタル者ハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス  
浸害シタル物自己ノ所有ニ係ルトキハ差押ヲ受ケ、物權ヲ負擔シ  
又ハ賃貸シ若クハ保險ニ付シタル場合ニ限り前項ノ例ニ依ル

本條ハ前條以外ノ物ヲ浸害シタル罪ヲ規定ス

第一項 前條ノ如ク溢水セシメテ前條例示以外ノ物ヲ浸害シ而シテ其度カ公共ノ危  
險ヲ生セシメタル場合ニ於テハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處スルモノトス  
第二項 第百十九條及ヒ本條第一項ノ物ニシテ自己ノ所有ニ係ルトキハ別ニ他人ヲ

害セサルヲ以テ罰スルノ必要ナシト雖モ若シモ所有物ニシテ他人ヨリ債權ノ爲メニ差押ラレ又ハ其物ハ質又ハ抵當ニ差入レアリ、又ハ他人ニ賃貸ヲ爲シ、又ハ自ラ保險ニ付シアリタルトキハ之ヲ罰ス蓋シ斯ノ如ク爲ストキハ債權者ヲ害シ保險契約者ヲ害スルヲ以テノ故ナリ之レ第百十六條ト同一權衡ヲ取リタルモノトス

現行刑法ニハ本條ノ第一項ノ規定ハ現行法第四百十二條ヲ修正シタルモノナリ而シテ同條ハ溢水ノ場合ヲ制限シタルモ本條ハ之ヲ採ラス概括ニ各場合ニ關スル規定ヲ設ケタルナリ又現行法ハ礦坑ノコトヲ規定シタルモ前條ニ於テ已ニ之ヲ設ケタレハ之ヲ删除ス

又第二項ハ自己ノ所有物ヲ浸水セシメタル場合ニ其物カ差押ヲ受ケ、物權若クハ賃貸ノ目的物ト爲リ又ハ保險ニ付シタルトキハ他人ノ物ヲ浸水シタル例ニ依ルノ規定ニシテ其理由ハ第百十六條ニ同シ

**第二百一十一條** 水害ノ際防水用ノ物ヲ隱匿又ハ損壞シ若クハ其他ノ方法ヲ以テ水防ヲ妨害シタル者ハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス  
本條ハ防水用器ヲ隱匿又ハ損壞シ水利ヲ妨害シタルモノヲ規定ス

水害アルトキハ之ヲ防キ生命又ハ身體又ハ財産ヲシテ安全ナラシメサルヘカラス然

ルニ水害アルニ際シテ防水用ノ物例ヘハ儀又ハ丸太其他水害ヲ防止スルニ用ユル必要器具ヲ隱匿シ又ハ損壞シ若クハ其他種々ナル方法ヲ以テ水害ヲ防止スルヲ妨害シタル者ナレハ之ヲ罰スルコトハ當然ニシテ第百十五條ノ權衡ニ依リタルモノトス

**第二百一十二條** 過失ニ因リ溢水セシメテ第百十九條ニ記載シタル物ヲ浸害シタル者又ハ第百二十條ニ記載シタル物ヲ浸害シ因テ公共ノ危險ヲ生セシメタル者ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス

本條ハ過失ノ場合ヲ規定ス

本條ハ水害カ過失ヨリ生スル場合ヲ慮ハカリ例ヘハ水閘ノ番人カ過失ヨリ水害ヲ生セシメ又ハ霖雨ノ際ハ堤防ヲ監守セサルヘカラサルニ之ヲ怠リ爲メニ水害ヲ起シタルトキノ如シ之レ失火ノ例ニ依リテ本條ヲ設ケタリ

現行刑法第四百十四條ヲ修正シタルモノニシテ其刑ヲ重クシタルニアリトス

**第二百一十三條** 堤防ヲ決潰シ、水閘ヲ破壞シ其他水利ノ妨害ト爲ル可キ行爲又ハ溢水セシム可キ行爲ヲ爲シタル者ハ二年以下ノ懲役若クハ禁錮又ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス

本條ハ水利ニ關スル規定ナリ

本條ノ罪ハ二種アリ一ハ水利ノ妨害ト爲ルヘキ行爲ヲ爲シ(一)一ハ溢水セシムル行爲ヲ爲シ(二)タルモノトス其水利ノ妨害ハ其方法種々アルモ例示ノ如ク堤防ヲ決潰シ又ハ水閘ヲ破壊シタルカ如シ其溢水セシムル行爲モ亦種々アリ水堰ヲ切り又ハ樋ヲ破壊シ堤防ヲ潰ス等多シ而シテ其目的ハ他人ノ便益ヲ損害スルモノアルヘク又ハ自己ノ利益ヲ圖ル爲メナルヘク其目的ニ付テハ決シテ限定セサルモノトス

現行刑法第四百十三條ト同一趣旨ナリ其目的ヲ他人ノ便益ヲ損シ又ハ自己ノ便益ヲ圖ル爲メトシタルモ全ク其必要ヲ見ス依テ之ヲ削除セリ

判決例

自己ノ田畔ヲ崩潰シタルハ當然ノ行爲ナルヤ否ヤ又田畔ヲ崩潰スヘカラサル義務アリヤ否ヤヲ明ニセスシテ其行爲ハ他人ノ水車運轉ヲ停止スル目的ニ出テ他人ノ權利ヲ侵害シタリトシテ直チニ刑法第百十三條ヲ適用シタルハ不當ナリ(二四、六、一九) 刑法第四百十三條後段ノ法意ハ前段明記セル堤防決潰毀壞ノ外其手段方法ノ何タルヲ問ハス總テ水利ヲ妨害スル者ヲ包括ス本案旱魃ニ際シ被告等ノ居村ヲ通過シテ下流各村ノ田地ニ灌溉スル用水路ノ幾部ヲ堰止メテ汲水器ノ附著セル水車ヲ利用シテ

自村ノ田地ニ注水シ下流各村ノ水利ヲ妨害シタルノ事實ヲ認メ該法案ヲ適用シテ處斷シタルハ相當ナリ(二七、五、一五)

水利妨害罪ノ成立ニハ水ノ使用ニ付他人ノ有スル權利ヲ妨害スルノ事實アルヲ必要トス從テ他人ノ權利ナクシテ擅ニ使用スルニ際シ自己ノ權利ヲ行使シタル結果其使用ヲ妨クルコトアルモ犯罪ヲ構成セス(三二、一、二、一五)

排水路ニ設ケタル水閘ヲ毀壞スルニ於テハ水利ヲ妨害スルコトハ普通ノ結果ナリ從テ特別ノ事由ヲ存セサル限りハ此行爲ヲ以テ水利ヲ妨害スルノ意思ナシト云フヲ得ス(三二、五、一、二、一五)

水利ヲ妨害ヲ爲スニハ他人ノ水利妨害トナルヘキ所爲カ水利ニ關スル他人ノ權利ヲ侵害スルコトヲ要ス土地所有者ヲシテ其所有地内ニ井泉ヲ穿ツコトヲ得サラシムル權利ハ現行法上土地役權ノ設立ニ依リテ之ヲ創設シ得ルノ外物權トシテ保護ヲ受クヘキモノニ非ス此種ノ慣習ハ其效力ヲ有セス(三七、三、七)

水利妨害トナルヘキ行爲カ權利ノ實行ニ過キサルトキ又ハ行爲者ニ於テ權利ノ實行ナリト信スヘキ正當ノ理由アルトキハ刑事上ノ責任ナシ刑法第四百十三條ヲ適用スルニハ其行爲カ水利ヲ妨害スヘキ性質ノモノナルコトヲ必要トス既ニ水利ヲ妨害シ



タルヤ否ヤハ犯罪成立ニ關係ナシ(三七、一〇、一〇)

### 第十一章 往來ヲ妨害スル罪

本章ハ往來ヲ妨害スル罪ヲ定ム

往來ヲ保護スル主旨ヲ以テ本章ヲ設ケタリ往來ニ付テハ政府之ヲ監督シ人民皆之ニ依リテ便利ヲ得實ニ政治上、經濟上、社交上、軍事上及ヒ通信上欠クヘカッサルモノナルニ之ヲ妨害スルニ於テハ靜謐ヲ害スルモノナリ故ニ之ヲ罰スルニアリトス  
現行刑法ハ第二編第三章第六節ト第三編第二章第九節トニ規定シタリ今之ヲ合シテ修正ス

現行法ハ船舶覆没ノ罪ヲ以テ單ニ財産ニ對スルモノト爲スモ改正法ハ放火及ヒ失火ノ罪、溢水及ヒ水利ニ關スル罪ト同シク之ヲ本章ニ移シタリ

現行法第六十三條及ヒ第六十四條ハ之ヲ特別法ニ讓ル又過失ニ出テ之ヲ犯シタルモノニ付テハ現行法欠如セルヲ以テ之ヲ補ヒタリ

**第二百二十四條 陸路、水路又ハ橋梁ヲ損壞又ハ壅塞シテ往來ノ妨害ヲ生セシメタル者ハ二年以下ノ懲役又ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス**  
前項ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害ノ罪ニ比較シ重

キニ從テ處斷ス

本條ハ往來ヲ妨害シタル罪ヲ定ム

**第一項 往來ノ便利ハ陸路アリ水路アリ又河川ニハ橋梁ヲ架ス然ルニ此陸路、水路又ハ橋梁ヲ損壞シ又ハ此等ノモノヲ壅塞シ以テ往來スルヲ妨害シタル者ハ本項ニ依リテ罰スルニアリトス**

**第二項 第一項ノ如ク往來ヲ妨害シタル結果人ヲ死傷ニ致シタルトキハ傷害ノ罪ニ比較シ何レカ其重キカ其重キニ從テ處斷スルモノトス**

現行刑法第六十二條ハ本條第一項ヲ修正シ同第六十八條ハ本條第二項ト同一トス  
現行法ハ道路橋梁河溝港埠ト例示シタルモ改正法ハ之ヲ改メ廣ク公共ノ用ニ供スル陸路、水路トシ尙ホ損壞ノ外ニ壅塞ヲ加ヘ完全ナラシメタリ

**第二百五條 鐵道又ハ其標識ヲ損壞シ又ハ其他ノ方法ヲ以テ汽車又ハ電車ノ往來ノ危險ヲ生セシメタル者ハ二年以上ノ有期懲役ニ處ス**  
**燈臺又ハ浮標ヲ損壞シ又ハ其他ノ方法ヲ以テ艦船ノ往來ノ危險ヲ**

生セシメタル者亦同シ

本條ハ汽車電車及ヒ艦船ヲ妨害スル罪ヲ規定ス

第一項 鐵道ヲ損壞シ又ハ鐵道用ノ標識ヲ損壞シ又ハ其他如何ナル方法ヲ以テスルモ汽車又ハ電車ノ往來ニ危險ヲ生セシメタル者ハ本項ニ依リテ罰ス蓋シ場合ニ依リ汽車又ハ電車ハ衝突シ又ハ脱線スル等實ニ危險ノ大ナルモノトス

第二項 燈臺又ハ浮標ハ艦船ノ往來ノ便ナルカ爲メニシテ汽車電車ノ鐵道又ハ其標識ニ同シ之ヲ損壞シ其他ノ方法ヲ以テ往來ノ危險ヲ生セシメタルカ如キモ前項ト其害同一トス之レ同罪トシタル所以ナリ

現行刑法第六十五條ハ本條ノ第一項ニ第六十六條ハ第二項ニ當リ修正ス而シテ第一項ニハ新タニ電車ヲ加ヘ第二項ニハ一々方法ヲ例示セス只燈臺ト浮標トノミヲ記シ他ハ之ヲ删除シタリ

判決例

汽車カ軌上ノ石ヲ割ルヤ否ヤヲ試験センカ爲メ軌上ニ石ヲ置キタル行爲ハ其直接ノ目的ハ往來ヲ妨害スルカ爲メニ非サルモ之ヲ知リナカラ其所爲アリタル上ハ汽車往來妨害罪ナリ現ニ妨害ヲ爲シタルコトヲ要セス(三五、四、四)

汽車往來妨害罪ハ其往來ヲ妨害スルノ意思ヲ以テ障礙ヲ爲スニ因リ成立ス現實ニ汽車ノ往來ヲ妨害シタルコトヲ必要條件トセス(三九、一〇、二六)

第二百二十六條 人ノ現在スル汽車又ハ電車ヲ顛覆又ハ破壞シタル者ハ無期又ハ三年以上ノ懲役ニ處ス

人ノ現在スル艦船ヲ覆沒又ハ破壞シタル者亦同シ

前二項ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死ニ致シタル者ハ死刑又ハ無期懲役ニ處ス

本條ハ船車ノ顛覆又ハ破壞シタル罪ヲ規定ス

第一項 人ノ現在スル汽車又ハ電車ヲ顛覆シ又ハ破壞シタル者ハ本項ニ依リテ罰スルモノトス而シテ其顛覆ト破壞トハ方法手段ノ如何ヲ問ハサルナリ

第二項 人ノ現在スル艦船ヲ覆沒シ又ハ破壞シタルトキモ第一項ノ如ク處罰セリ而シテ覆沒トハ顛覆ト沈没トヲ包含ス

第三項 第一項第二項ノ罪即チ人ノ現在スル汽車又ハ電車ヲ顛覆又ハ破壞シタル艦船ヲ覆沒又ハ破壞シタル爲メニ人ヲ死ニ致シタルトキハ死刑又ハ無期懲役ニ處スヘ

キモノトス

現行刑法第四百十五條ハ本條第二項ト同一ノ趣旨ニシテ現行法ハ衝突其他ノ所爲ト云

ヒ覆没ノ方法ヲ例示スルモ其必要ナキヲ以テ之ヲ删除ス而シテ覆没ノ外破壊ノコトヲ加ヘ且第一項ノ新設ヲ必要トシタルヲ以テ之ヲ加ヘタルモノトス

本條ニ於テ人ノ現在スルコトヲ以テ一ノ條件トシタルハ本章ハ往來ヲ妨害スルノ罪ナレハ人ノ現在セサレハ往來ノ妨害トナラサルカ故ナリ

判決例

船舶覆没ハ河海ニ於テ船舶ヲ覆没シタルトキニ成立ス而シテ航海中ノ船舶ニ限ルニ非ラス又河川ノ大小深淺ニ依リテ區別ヲ爲スヘキモノニ非ス(二四、五、一七)

加害者ノ其船頭ナルト否トヲ問ハス(三七、一〇、四)

第二百二十七條 第二百二十五條ノ罪ヲ犯シ因テ汽車又ハ電車ノ顛覆若クハ破壊又ハ艦船ノ覆没若クハ破壊ヲ致シタル者亦前條ノ例ニ同シ

註 本條ハ往來ノ危險ヲ生セシメタル結果船車ヲ覆没破壊シタル罪ヲ定ム

第二百二十五條ノ罪ヲ犯シ因テ汽車又ハ電車ヲ顛覆シ若クハ破壊シ又ハ艦船ヲ覆没シ

破壊シタルトキハ前條ノ例ニ同シク無期又ハ三年以上ノ懲役ニ處シ若シ人ヲ死ニ致シタルトキハ死刑又ハ無期懲役ニ處スヘキモノトス

現行刑法第六十九條ハ同一趣旨トス

第二百二十八條 第二百二十四條第一項、第二百五條及ヒ第二百二十六條第一項、第二項ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

註 本條ハ未遂罪ノコトヲ定ム

第二百二十四條第一項、第二百五條及ヒ第二百二十六條ノ各本條ハ其狀重キヲ以テ未遂罪ヲ罰スルコトヲ規定シタル

現行刑法第七十條ト同一トス

第二百二十九條 過失ニ因リ汽車、電車又ハ艦船ノ往來ノ危險ヲ生セシメ又ハ汽車、電車ノ顛覆若クハ破壊又ハ艦船ノ覆没若クハ破壊ヲ致シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

其業務ニ従事スル者前項ノ罪ヲ犯シタルトキハ三年以上ノ禁錮又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

註 本條ハ過失ニ因ル船車ノ往來妨害ノ罪ヲ定ム

過失ニ因リテ汽車・電車又ハ艦船ノ往來ノ危険ヲ生セシメ又ハ汽車電車ヲ顛覆シ若クハ破壊シ又ハ艦船ヲ覆没シ若クハ破壊シタルモノハ五百圓以下ノ罰金ニ處セラル、モノトス

而シテ其業務ニ從事スル者例ヘハ汽車電車ニ於ケル機關手技手又ハ車掌ノ如キ艦船ニ於ケル艦船長機關士運轉士事務員等ニシテ前項ノ罪ヲ犯シタルトキハ其情實ニ重シ故ニ其刑モ亦重クス

現行刑法ニ於テハ本條ノ規定ナシ故ニ新タニ之ヲ設ク而シテ第一項ハ常人ノ犯シタル場合ニシテ第二項ハ業務ニ從事スル者ノ犯シタル場合ナリトス

### 第十二章 住居ヲ侵ス罪

註 本章ハ住居ヲ侵ス罪ヲ規定ス

大日本帝國憲法第二十五條ニ於テ住居ハ法律ニ定メタルモノ、外侵スコトヲ得サル旨ヲ保障ス故ニ法律ニ於テ規定シタル犯罪搜查家宅搜查等ノ如キ場合ノ外ハ決シテ人ノ住居ニ侵入スルコトヲ許サ、ルモノトス之レ住居内ノ平安ヲ維持スルカ爲メナリトス

民法ニ於テハ住所ハ人ノ生活ノ中心ナリト定メ其住所ナキトキハ居所ヲ以テ住所ト同一ニ看做ス旨ヲ規定シタリ本章住居トハ住所及ヒ居所ヲ包含シ苟モ人ノ現在スル場所ナルトキハ住居ナリトス

現行刑法ハ第二編第三章第七節ニ人ノ住居ヲ侵ス罪トシテ規定シタリ本章ハ之ヲ修正ス即チ現行法規定ハ狹隘ニ失シ住所ノ安寧ヲ十分ニ保護スルニ足ラサルヲ以テ稍其規定ヲ補充シ且改正法ハ刑ノ範圍ヲ擴張セル結果現行法ノ如ク特ニ加重ノ情狀ヲ列記スル必要ヲ減シタルヲ以テ全部之ヲ删除シタリ

第三百三十條 故ナク人ノ住居又ハ人ノ看守スル邸宅、建造物若クハ艦船ニ侵入シ又ハ要求ヲ受ケテ其場所ヨリ退去セサル者ハ三年以下ノ懲役又ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス

註 本條ハ住居其他ノ場所ニ侵入シ又ハ退去セサル場合ヲ規定ス

故ナク即チ正當ノ理由ナクシテ人ノ住居又ハ人ノ看守スル邸宅建造物若クハ艦船ニ侵入スルモノハ實ニ其平安ヲ害スルヲ以テ之ヲ罰セサルヘカラス其住居トハ場所ヲ論セス苟モ人ノ現在スル所ヲ云フ故ニ一家ハ勿論一室内ニテモ故ナク入ルヘカラス又邸宅建造物ト云ヒテ廣ク邸内ハ勿論學校、病院、官公衙、製造場等ヲ包含セシ

メタリ

次ニ其住居、邸宅、建造物若クハ艦船内ニ一旦正當ノ理由アツテ入りタリトスルモ其住居スル人又ハ看守人等苟モ其場所ニ居ル者ヨリ退去ノ要求アリタルトキハ速ニ其場所ヨリ退去スヘキカ正當ナリトス然ルニ故ナク退去セサルトキモ亦同罪トス其場所ニ付キ安全ヲ維持スルニ當リテハ入りタルトキモ又退去セサルトキモ同一ナルハナリ

現行刑法ハ第七十一條及ヒ第七十二條ニ於テ規定シタリシカ今之ヲ一條トシテ修正セリ而シテ現行法ハ晝夜ニ於テ其刑ニ輕重ヲ加ヘタルモ其必要ナク又人ノ住居シタル邸宅トアルカ爲メ往々其意義ヲ狹ク解シ室内ノ如キハ罪トナラスト曲解シタリ故ニ之ヲ改メ人ノ住居トシ其住居ノ場所ヲ問ハサルコト、シ又從來ハ艦船内ニ侵入スル罪ハ欠如シ實際不便ヲ感シタルコトアリシヲ以テ新タニ之ヲ加ヘタリ次ニ現行法ハ侵入ノ行爲ノミヲ罰シテ假令正當ニ入りタルモノト雖モ要求ヲ受ケテ退去セサル場合ヲ規定セス故ニ此不備ヲ補ヒタルモノトス

**第二百一十一條** 故ナク皇居、禁苑、離宮又ハ行在所ニ侵入シタル者ハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス

神宮又ハ皇陵ニ侵入シタル者亦同シ

本條ハ皇居其他貴重スヘキ場所ニ侵入シタル罪ヲ規定ス

第一項 正當ノ理由ナクシテ皇居、禁苑、離宮又ハ行在所ニ侵入シタルモノハ普通ノ建造物又ハ場所ニ入りタルモノヨリ其情狀重シ故ニ其刑モ亦重シトス  
第二項 神宮又ハ皇陵ニ侵入シタル場合モ亦同一トス神宮又ハ皇陵ニ付テハ已ニ第七十四條第二項ニ於テ之ヲ説キタレハ再ヒセス

現行刑法第七十三條ニ同シ

**第二百二十二條** 本章ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

本條ハ未遂罪ノコトヲ定ム

本章ノ各條ニアル罪ハ實ニ危險ナルヲ以テ未遂ノ場合ニ於テモ之ヲ罰セリ

### 第十三章 祕密ヲ侵ス罪

本章ハ祕密ヲ侵ス罪ヲ定ム

祕密ヲ侵スニ付テハ信書ノ祕密ト委託ノ祕密トアリ一ハ帝國憲法ニ於テ保障セラレ一ハ道義ニ反ス而シテ何レモ人ノ祕密ニ係ルヲ以テ人ハ之ヲ守ラサルヘカラサルニ却テ之ヲ侵ス故ニ之ヲ罰セサルヘカラス

現行法ニ於テハ秘密ニ關スル罪ヲ以テ誹毀罪ト爲スト雖モ元來秘密ヲ侵スコト、人ヲ誹毀スルコト、ハ其性質同一ナラス故ニ改正法ハ之ヲ分離シ以テ本章ヲ設ケ現行法第三百六十條ノ罪ノ外尙ホ信書ノ秘密ヲ保護スル規定ヲ新設シタリ

第三百三十三條 故ナク封緘シタル信書ヲ開披シタル者ハ一年以下ノ懲役又ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス

○ 本條ハ信書ヲ開披スル罪ヲ規定ス

故ナク他人名義ノ信書ヲ開披シタルモノハ人ノ秘密ヲ發キタルニ外ナラス封緘シタルハ其名義人ノ外ノ者ニ對シテ秘スルニアリ名義人以外ノ人ハ決シテ開クコトヲ許サス然ルニ正當ノ事由ナクシテ緘ヲ開クモノナレハ之ヲ罰スルヲ以テ至當トス

現行刑法ニ於テハ之ヲ規定セス本條ノ目的トスル所ハ信書ノ秘密ヲ保護スルニアリ尤トモ郵便法ニ二三ノ定アルモ憲法上住所同シク保障スル點ヨリシテ本條ヲ規定セサルヲ得ス而シテ本條ノ開披ノ外隱匿又ハ毀棄ノ如キハ郵便法ニ依リテ之ヲ處分スヘキモノトス

第三百三十四條 醫師、藥劑師、藥種商、產婆、辯護士、辯護人、公證人又ハ此等ノ職ニ在リシ者故ナク其業務上取扱ヒタルコトニ付

キ知得タル人ノ秘密ヲ漏泄シタルトキハ六月以下ノ懲役又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

宗教若クハ禱祀ノ職ニ在ル者又ハ此等ノ職ニ在リシ者故ナク其業務上取扱ヒタルコトニ付キ知得タル人ノ秘密ヲ漏泄シタルトキ亦同シ

○ 本條ハ陰私ヲ漏告スル罪ヲ規定ス

第一項 凡ソ他人ノ醜事ヲ漏告スルハ道義ニ反スルモノナリ況ンヤ他人ヨリ聞知シタル秘密ヲ漏スニ於テハ自己ノ職業ノ信用ヲ損シ又公益ヲ害ス故ニ之ヲ罰スルニアリトス

本項ニ依レハ七種ノ職業業務者ニシテ現在其業務ヲ取扱ヒツ、アル人ハ勿論此等ノ職ニ在リテ今現ニ其業務ヲ止メ居ル人モ亦包含ス而シテ其業務上取扱ヒタル事柄ニシテ其人ヨリ敢テ他人ニ漏泄セサルコトヲ口止メセラレタルト否トヲ問ハス苟モ其人ノ秘密ナルコトヲ知ルニ於テ他人ニ之ヲ漏告シタルトキハ本罪ヲ構成ス其漏泄ノ言語、文書ニ因ルヲ問ハス公然ト陰然トヲ論セス又其人數ノ多少ニ關セサルモノト

ス例ヘハ醫師カ治療ヲ爲スカ爲メ患者ヨリ創傷ノ原因カ犯罪タルコトヲ知得シタル  
場合ノ如キ類ナリ又産婆カ出産ヲ助クルニ當リ産婦ノ陰部ニ故障アルコトヲ知リタ  
ルトキノ如シ之ヲ他人ニ漏ストキハ本罪ニ依リテ罰スルモノトス

第二項 宗教若クハ禱祀ノ職ニ在ル彼ノ神官僧侶ノ如シ此等ノ人ニ於テモ前項ト同  
シク知得シタル祕密ヲ漏告シタルトキハ亦同一ナリトス

現行刑法第三百六十條ト同一ニシテ唯其文字ヲ修正シタルニ止マルノミ

### 第二百二十五條 本章ノ罪ハ告訴ヲ待テ之ヲ論ス

本條ハ親告罪ナルヲ規定ス

他人ノ信書ヲ開披シ又ハ他人ノ祕密ヲ漏泄スルハ實ニ其者ノ信用ト公私益トヲ害ス  
ルヲ以テ之ヲ罰スルハ當然ナルモノ一面ヨリ云ヘハ全ク其被害者ニ依リテ成立ヲ知ル  
モノナリ即チ被害者ニ於テ信書ヲ開披セラル、モ又ハ知得ノ事實ヲ漏告セラル、モ  
敢テ祕密ヲ侵サル、モノト爲サ、ル場合アリ殊ニ場合ニ於テハ却テ便利ナルコトモ  
アルヘシ又一方ヨリ云ヘハ之ヲ直チニ摘發スルトキハ被害者ノ名譽ヲ傷クコトモア  
ルヘク一方ヲ保護セントシテ一方ヲ害スルノ恐レアルヘシ之レ親告罪ト爲シタル所  
以ナリ

現行刑法第三百六十一條ト同一ノ趣旨トス

### 第十四章 阿片煙ニ關スル罪

本條ハ阿片煙ニ關スル罪ヲ規定ス

元來阿片煙ハ之ヲ吸食スルトキハ神心恍トシテ愉快ヲ感スルモノニシテ一度之ヲ吸  
食スルトキハ慣習ト爲リ決シテ廢スヘカラス終ニ其慣習ハ性ト爲リ生命ヲ傷フニ至  
ル故ニ阿片煙ハ人ヲ殺シ延ヒテ國家ヲ亡スニ至リ實ニ恐懼スヘキモノタリ阿片煙ノ  
根本タル清國ニ於テモ漸ク之ヲ悟リ吸食ヲ廢セントスル傾向ト爲レリ

現行刑法ニ於テハ第二編第五章第一節ニ之ヲ規定ス而シテ彼此之ヲ比較スルニ改正法  
少シク其刑ヲ輕クシタルノミ蓋シ現行法ハ他ノ罪ニ比シ少シク酷ニ失スルヲ以テナ  
リ

### 第二百二十六條 阿片煙ヲ輸入、製造又ハ販賣シ若クハ販賣ノ目的ヲ以テ之ヲ所持シタル者ハ六月以上七年以下ノ懲役ニ處ス

本條ハ阿片煙ヲ輸入、製造販賣及ヒ所持スル者ノ罪ヲ規定ス

阿片煙ヲ帝國以外ヨリ輸入シタル者、阿片煙ヲ製造シタル者、阿片煙ヲ販賣シタル  
者又ハ販賣ノ目的ヲ以テ所持シタル者ハ總テ之ヲ罰ス蓋シ阿片煙ノ害ヲ流ス根本ナ

レハナリ

現行刑法第二百三十七條ニ同シ現行法ニ於テハ販賣ノ目的ヲ以テ之ヲ所持スル者ヲ欠クヲ以テ之ヲ加ヘタルノミ

判決例

阿片煙ヲ輸入スルトハ外國ヨリ來レル阿片煙ヲ我國ニ陸上ケスルノ云ヒニシテ阿片煙ヲ積載シタル船舶カ單ニ我領海ニ入りタリトテ未タ陸上ケセサルトキハ輸入シタリト云フヘカラス(三七、一、二八)

第三百二十七條 阿片煙ヲ吸食スル器具ヲ輸入、製造又ハ販賣シ若クハ販賣ノ目的ヲ以テ之ヲ所持シタル者ハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス

本條ハ吸食ノ器具ニ付テ規定ス

阿片煙ヲ吸食スル器具例ヘハ煙管、ランプ其他針等種々ナル器具ノ入用ナルコトハ余ハ實地ニ於テ之ヲ見タリ其吸食スル器具ヲ輸入シ製造シ又ハ販賣シ若クハ其販賣ノ目的ヲ以テ所持シタル者ハ本條ニ依テ罰スルモノトス

現行刑法第二百三十八條ト同一トス而シテ販賣ノ目的ヲ以テ所持スル者ニ付テハ之ニ欠クヲ以テ加ヘタルノミ

第三百二十八條 税關官吏阿片煙又ハ阿片煙吸食ノ器具ヲ輸入シ又ハ其輸入ヲ許シタルトキハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス

本條ハ税關官吏ニ對スル罪ヲ規定ス

阿片煙及ヒ阿片煙吸食ノ器具ヲ輸入スルヤ否ヤヲ看破スルハ常ニ税關官吏ニ據ラサルヘカラス即チ輸入セハ必ラス税關ニ於テ検査ヲ受ケサルヘカラサルヲ以テナリ然ルニ其税關ノ官吏ニシテ自ラ之ヲ輸入シ又ハ他人ノ輸入ヲ爲スヲ許スカ如キハ實ニ大害アルモノナリ故ニ之ヲ重ク罰スルモノトス

現行刑法第二百二十九條ニ同シ而シテ現行法ハ輸入セシメタルトキノミヲ規定シタルモ輸入スル場合ノ規定ナキヲ以テ之ヲ加ヘタルノミ

第三百二十九條 阿片煙ヲ吸食シタル者ハ三年以下ノ懲役ニ處ス  
阿片煙ヲ吸食スル爲メ房屋ヲ給與シテ利ヲ圖リタル者ハ六月以上七年以下ノ懲役ニ處ス

本條ハ阿片煙ノ吸食者ト房屋ノ給與者トヲ罰スル規定トス

第一項 阿片煙ヲ吸食スル者ハ本項ノ如ク罰スルニハ其前三箇條ヨリ刑ノ輕キハ



前三箇條ノ犯罪者アリテ初メテ吸食スル場合ヲ生スルモノニシテ之カ吸食ヲ防止セ  
ントセハ前三箇條ノ犯罪ヲ重クシテ吸食ノ便ヲ與ヘシメサルヲ要ス之レ比較上前三  
箇條ノ事情重ク從テ刑モ重クシタル所以ナリ

第二項 阿片煙ヲ吸食スル爲メニ房屋ヲ給與シテ利ヲ圖ルカ如キハ阿片煙ノ吸食ヲ  
致唆スルモノナリ若シモ房屋ノ給與者ナキトキハ自家ニテ吸食スルカ又ハ街路等ニ  
テ吸食セサルヘカラス斯ノ如キハ到底爲テ得サルモノナリ況ンヤ利ヲ圖ルカ如キハ  
惡ムヘキ所爲トス故ニ第一項ヨリ刑ヲ重クシテ罰スルモノトス

現行刑法第二百四十條第一項及ヒ第二百四十一條ヲ合セテ規定シタルモノトス其主旨  
同一タリ

### 第四百十條 阿片煙又ハ阿片煙吸食ノ器具ヲ所持シタル者ハ一年以 下ノ懲役ニ處ス

本條ハ阿片煙及ヒ其器具ヲ所持シタル者ヲ罰スル規定トス  
本條ノ事實ハ單ニ阿片煙又ハ阿片煙吸食ノ器具ヲ所持シタルノミヲ以テ可ナリ或ハ  
他人ヨリ預カリタルコトアルヘク又ハ買取リタルコトモアルヘシ而シテ其實ハ或ハ  
之ヲ自ラ吸食スルカ又ハ他人ニ販賣贈與等ヲ爲シ又ハ他人ヲシテ吸食セシムル等終

ニ他ノ犯罪ヲ爲スニ至ルヘシ故ニ之ヲ罰ス

現行刑法第二百四十二條ニ同シ現行法ハ受寄シタル者ヲ加ヘタルモ受寄シタル者モ結  
局所持者ナリ故ニ之ヲ删除スルニ於テモ敢テ異ナラサルカ爲メナリ

判決例

刑法第二百四十二條ハ意思ノ如何ヲ問ハス阿片煙ナルコトヲ知リテ之ヲ所有スルノ  
行爲アレハ之ヲ處罰スルノ法意ナリ(三三、一〇、一八)

### 第四百十一條 本章ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

本條ハ本章ノ未遂罪ヲ罰スルコトヲ定ム  
本章ノ罪ハ其害甚シキヲ以テ未遂ノ場合ニ於テ已ニ之ヲ罰スル必要アレハナリ

### 第十五章 飲料水ニ關スル罪

本章ハ飲食水ニ關スル罪ヲ規定ス

飲料ノ淨水ニハ一人ノ私人ニ屬スルモノト公衆ニ屬スルモノトアリ而シテ刑法ハ其一人  
人ハ勿論公衆一般ノ健康ヲ顧ミ茲ニ之ヲ規定セリ

現行刑法ハ第二編第五章第二節ニ於テ飲料ノ淨水ヲ汚穢スル罪トシテ規定シタリ而シ  
テ今之ヲ修正シ現行法ニ於テハ公衆用ノ水道ヲ保護スル規定ナキヲ以テ茲ニ之ヲ加

へ且危険頗ル重大ナルヲ以テ一般ニ刑ヲ重クシタルモノトス

第四百二十二條 人ノ飲料ニ供スル淨水ヲ汚穢シ因テ之ヲ用井ルコト能ハサルニ至ラシメタル者ハ六月以下ノ懲役又ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス

註 本條ハ淨水ヲ汚穢シタル罪ヲ規定ス

人ノ飲料ニ供スル淨水ヲ汚穢シ因テ之ヲ飲料ニ供スルコト能ハサルニ至ラシメタルトキ例へハ井戸ニ泥土、塵芥等ヲ投シ又ハ水底ヲ攪亂スル等飲料ニ用ユルコト能ハサルニ至ラシメタルニアリ實ニ衛生上害アリ且飲料ノ欠乏ヲ來タシ爲メニ害ヲ加フルヲ以テ本條ノ如ク罰スルモノトス

現行刑法第二百四十三條ト全ク同一トス

第四百二十三條 水道ニ由リ公衆ニ供給スル飲料ノ淨水又ハ其水源ヲ汚穢シ因テ之ヲ用井ルコト能ハサルニ至ラシメタル者ハ六月以上七年以下ノ懲役ニ處ス

註 本條ハ水道ノ水ヲ害スルモノヲ罰スルヲ規定ス

水道ノ水ハ公衆ノ飲料ニシテ若シモ之ヲ汚穢シタルトキハ一私人ノミニアラシテ幾千萬ノ人ヲシテ健康ヲ害セシメ衛生上爲メニ非常ノ害ヲ生シ且飲料水ノ欠乏ヲ見ル實ニ大ナリトス其淨水又ハ水源等ニ至リテハ情狀ニ輕重アルヘキヲ以テ刑ノ範圍ヲ廣クシタリ

現行刑法ハ之ヲ欠ク蓋シ公衆ノ用ニ供スル水道ヲ保護スルカ爲メニシテ必要ナレハ之ヲ加ヘタリ

第四百二十四條 人ノ飲料ニ供スル淨水ニ毒物其他人ノ健康ヲ害ス可キ物ヲ混入シタル者ハ二年以下ノ懲役ニ處ス

註 本條ハ人ノ健康ヲ害スヘキ物ヲ淨水ニ混入シタル罪ヲ規定ス

飲料ノ淨水ニ毒物其他劇藥毒藥等凡テ人ノ疾病ヲ醸スヘキ有害ノ物品ヲ混入シ以テ水質ヲ不良ナラシメ又ハ腐敗セシメタル所爲ハ三年以下ノ懲役ニ處スヘキモノトス

現行刑法第二百四十四條ト同一トス

第四百二十五條 前二條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害ノ罪ニ比較シ重キニ從テ處斷ス

本條ハ人ヲ死傷シタル場合ヲ規定ス

飲料水ヲ汚穢シ水道ノ淨水及ヒ水源ヲ汚穢シ又ハ淨水ニ有害物ヲ混入シタルカ爲メ  
人ヲ死傷ニ致シタルトキハ傷害ノ罪ニ比較シ前三條ト何レカ重キカラ見其重キニ從  
テ處斷スヘキモノトス

現行刑法第二百四十五條ト同一トス

第四百十六條 水道ニ由リ公衆ニ供給スル飲料ノ淨水又ハ其水源ニ  
毒物其他人ノ健康ヲ害ス可キ物ヲ混入シタル者ハ二年以上ノ有期  
懲役ニ處ス因テ人ヲ死ニ致シタル者ハ死刑又ハ無期若クハ五年以  
下ノ懲役ニ處ス

本條ハ第四百十四條ノ場合ニ有害物ヲ混入シタル罪ヲ規定ス

第四百十二條ニ對シテ第四百十四條ヲ設ケタルト同シク第四百十三條ニ對シテ本條  
ヲ設ケタリ其趣旨トスル所ハ第四百十四條ト同一トス其刑期ノ重キハ其害ノ大ナル  
カ爲メノミ

現行刑法ニ欠如シタルヲ以テ新タニ規定シタリ

第四百十七條 公衆ノ飲料ニ供スル淨水ノ水道ヲ損壞又ハ壅塞シタ  
ル者ハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス

本條ハ水道ヲ損壞又ハ壅塞シタルモノヲ規定ス

公衆ノ飲料ニ供スル淨水ノ水道ヲ損壞シ又ハ之ヲ壅塞シタルトキハ飲料ノ淨水ヲ留  
メ飲料ニ欠乏ヲ來タスヲ以テ之ヲ罰スルニアリトス

現行刑法ハ之カ規定ヲ欠クヲ以テ補ヒタリ

### 第十六章 通貨偽造ノ罪

本章ハ通貨偽造ノ罪ヲ規定ス

通貨トハ帝國ニ通用スル貨幣銀行券チリ之ヲ偽造又ハ變造スル罪ヲ規定スルモノナ  
リ  
元來貨幣製造權ハ政府ノ特權ニ屬ス人民敢テ之ヲ製造スルコトヲ許サズ彼ノ煙草、  
火藥又ハ阿片煙ノ製造權ヲ政府カ有スルト同一ノ性質タリ然ルニ人民ニ於テ私ニ通  
貨ヲ偽造又ハ變造スルトキハ社會一般カ眞僞ヲ判別スルニ苦ミ却テ眞貨ヲシテ不安  
ナラシメ公ノ信用ヲ害ス故ニ之ヲ罰シテ懲戒セサルヘカラス

現行刑法ハ第二編第四章第一節ニ貨幣ヲ偽造スル罪ト題シ之ヲ規定シタリ而シテ今之

ヲ修正シタルハ現行法ハ偽造又ハ變造ノ行爲ト行使ノ行爲トノ二要素ヲ必要トシ單ニ偽造ノ場合ニハ刑ヲ減輕スルコト、爲セリ然レトモ本章ニ於テハ通貨ノ偽造又ハ變造ノ成リタルトキニ成立スヘキモノト爲シタリ

現行法ハ貨幣ノ種類ヲ金銀貨及ヒ紙幣ト銅貨トニ分チ罪ヲ輕重シタレトモ改正法ハ其必要ナシトシ此區別ヲ廢シタリ

現行法第百八十七條第百八十八條及ヒ第百九十二條ハ總則ニ於テ支配スヘキ個條ナルヲ以テ改正法ニテハ何レモ刪除ス

第百四十八條 行使ノ目的ヲ以テ通用ノ貨幣、紙幣又ハ銀行券ヲ偽造又ハ變造シタル者ハ無期又ハ三年以上ノ懲役ニ處ス

偽造、變造ノ貨幣、紙幣又ハ銀行券ヲ行使シ又ハ行使ノ目的ヲ以テ之ヲ人ニ交付シ若クハ輸入シタル者亦同シ

註 本條ハ通貨ヲ偽造變造シ又ハ之ヲ行使シタル場合ヲ規定ス

第一項 通用ノ貨幣ハ金貨、銀貨、銅貨及ヒ白銅貨アリ又紙幣ハ法律ニ依リテ銀行ヨリ發行スル兌換ニシテ一圓五圓十圓百圓等種々アルヘシ又政府ヨリ直接ニ發行スル紙幣アリ而シテ何レモ行使スル目的ヲ以テ之ヲ偽造又ハ變造シタル者ハ直チニ罪

ト爲リ本項ニ依リテ罰スヘキモノトス

第二項 偽造又ハ變造ノ貨幣又ハ紙幣又ハ銀行券ヲ行使シ又ハ行使ノ目的ヲ以テ他人ニ渡シ若クハ外國ヨリ輸入シタル者モ亦同一ノ刑ヲ科スヘキモノトス

現行刑法ニ於テハ本條第一項ハ其第百八十二條、第百八十四條及ヒ第百八十五條ノ規定ヲ合シテ修正シタルモノナリ已ニ述ヘタルカ如ク現行法ハ偽造又ハ變造シタル行爲ト行使ノ行爲トノ二要素ヲ必要トシタルモ改正法ハ行使ノ所爲ハ一ノ目的トシテ成立條件トハ爲サ、ルノミ

判決例

銅貨ノ命貨等ヲ削除シ水銀ヲ以テ銀貨ニ代ヘ使用セシハ銀貨偽造ヲ以テ論ス(二四、四、一一)

貨幣偽造ハ假令同貨ナラス又ハ粗造ナルモ他人ヲ欺罔スルニ足レハ其罪成立ス(二二

五、二、二九)

正貨ノ命貨量目ヲ増減スルハ貨幣ノ變造ニシテ新ニ正貨ニ模擬シタルモノヲ製造スルハ偽造ナリ而シテ銅貨ノ命貨量目ヲ増減セスシテ銀貨模造ノ原料即チ地金トシテ之ヲ使用シタルハ銀貨偽造ナリ(二六、一一、二八)

同質ノ貨幣ヲ變更スルノ所爲ヲ變造トシ他質ノ貨幣ヲ改削シ水銀ヲ鍍スル等ノ所爲ヲ偽造トス(二八、一一、二二)

五十錢二十錢十錢ハ各法益ノ附著セルモノ異ナルヲ以テ偽造セハ各銀貨ノ固有ノ法益ヲ侵害スルヲ以テ一銀貨毎ニ一罪ヲ構成ス(三六、一一、二四)

貨幣ノ變造トハ正當ノ貨幣ヲ材料トシテ同質ノ貨幣ヲ造成ス故ニ五厘銅貨ヲ材料トシテ二十錢銀貨ヲ造成スルハ偽造ナリ又方法拙劣ナルカ爲メ未タ他人ヲ欺クコトヲ得サルトキハ刑法第百八十六條ノ未タ成ラサルモノナリ(三八、三、二四)

貨幣ノ變造ハ同一種類ノ貨幣ノ間ニ於テノミ成立シ得ヘク銅貨ヲ用ヒテ銀貨ヲ偽造シ銀貨ヲ用ヒテ金貨ヲ偽造スルノ所爲ハ銅貨銀貨ヲ材料トシ新タニ特種ノ貨幣ヲ製造シタルモノナレハ刑法第百八十二條トス(三九、六、二八)

第百四十九條 行使ノ目的ヲ以テ内國ニ流通スル外國ノ貨幣、紙幣又ハ銀行券ヲ偽造又ハ銀行券ヲ偽造又ハ變造シタル者ハ一年以上ノ有期懲役ニ處ス

偽造、變造ノ外國ノ貨幣、紙幣又ハ銀行券ヲ行使シ又ハ行使ノ目的ヲ以テ之ヲ人ニ交付シ若クハ輸入シタル者亦同シ

註 本條ハ内國通用ノ外國ノ通貨ヲ偽造變造又ハ輸入シタル場合ヲ規定ス

第一項 行使ノ目的ヲ以テ内國ニ於テ流通スル外國ノ貨幣、紙幣又ハ銀行券ヲ偽造又ハ變造シタルモノヲ罰ス

第二項 本項ハ恰モ前條第二項ト同一ニシテ其内國ト外國ト異ナルノミ其他ニ至リテハ同一トス

現行刑法第百八十三條及ヒ第百八十四條ノ規定ヲ修正シタルモノトス

第百五十條 行使ノ目的ヲ以テ偽造、變造ノ貨幣、紙幣又ハ銀行券

ヲ收得シタル者ハ三年以下ノ懲役ニ處ス

註 本條ハ偽造變造ノ貨幣ヲ收得シタルモノヲ罰スル規定トス

内國ノモノ及ヒ内國ニ於テ流用スル外國ノモノニシテ偽造、變造ノ貨幣紙幣又ハ銀行券ヲ收得シタルモノハ其目的行使ナルニ於テハ本條ニ於テ之ヲ罰ス而シテ其行使ノ目的ナラサルトキ例ヘハ參考品トシテ又ハ玩弄品トシテ收得スル場合ハ此限リニアラサルモ此場合ニ於テハ之ヲ證明スルノ責任アリトス

現行刑法第百九十條ト同一ノ趣旨トス

判決例

行使ノ目的ヲ以テ偽造紙幣ヲ窃カニ取出シタル所爲ハ刑法第九十條第一項ニ所謂  
取受ナリ(三一、六、二)

第一百五十一條 前三條ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

本條ハ未遂罪ノコトヲ規定ス

前三箇條ハ其未遂ノ場合ニ於テ害大ナルニ依リ之ヲ罰スルモノトス

現行刑法第八十六條第一項末段ト同一趣旨トス

第一百五十二條 貨幣、紙幣又ハ銀行券ヲ收得シタル後其偽造又ハ變  
造ナルコトヲ知テ之ヲ行使シ又ハ行使ノ目的ヲ以テ之ヲ人ニ交付  
シタル者ハ其名價二倍以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス但一圓以下ニ降  
スコトヲ得ス

本條ハ收得後偽造變造タルコトヲ知テ爲シタル場合ヲ規定ス

本條ハ始メ偽造又ハ變造タルコトヲ知ラスシテ自己ニ收得シタルモ後偽造又ハ變造  
ナルコトヲ知リテ自ラ之ヲ行使シ又ハ行使ノ目的ヲ以テ自己以外ノ人ニ渡シタルト  
キハ其名價二倍以下ノ罰金又ハ科料ニ處スルニアリ之レ本條ノ犯罪ハ經濟上最モ重

大ナル影響ヲ有スルヲ以テノ故ナリ而シテ名價トハ其偽造又ハ變造シタル貨幣、紙  
幣又ハ銀行券ノ價格ナリ故ニ二十錢ノ偽造銀貨ナルトキハ其三倍六十錢ノ科料ナル  
カ如キモ但書ニヨリテ一圓ノ科料ニ處スヘキモノトス

現行刑法第九十三條ニ同シ其罰金ノ額ヲ増加シタルノミ

第一百五十三條 貨幣、紙幣又ハ銀行券ノ偽造又ハ變造ノ用ニ供スル  
目的ヲ以テ器械又ハ原料ヲ準備シタル者ハ三月以上五年以下ノ  
懲役ニ處ス

本條ハ器械又ハ原料ヲ準備シタルトキノ規定トス

貨幣、紙幣又ハ銀行券ヲ偽造又ハ變造スルノ目的ヲ以テ之ニ用ユル器械又ハ原料例  
ヘハ模型、印刷器械、色インキ、印肉、鐵、鉛、亞鉛、紙等苟モ偽造又ハ變造スル  
ニ必要ナルモノヲ準備シタルモノハ之レ偽造又ハ變造スルモノニシテ大ニ害ヲ生ス  
ルニアレハ未發ニ防ク爲メ之ヲ罰スルニアリトス

現行刑法第八十六條第二項ト同一ノ主旨トス  
判決例

刑法第八十六條第二項ノ所謂偽造ノ器械トハ貨幣偽造ニ直接必要ナル器械ヲ指ス

モノニシテ其機械ヲ製造スル器具等ヲ指スモノニアラス故ニ石版印肉及彫刻針等ヲ購求スルニ止ルモノナレハ紙幣偽造ニ直接ノ器械ヲ豫備シタリト云フヲ得ス(二六、五、二五)

刑法第八十六條第二項ニ偽造ノ器械ヲ豫備スルトアルハ偽造ニ必要ナル諸器械悉皆ヲ豫備スルノ意ニアラスシテ其偽造ノ用ニ供スヘキ器械ノ幾分ヲ豫備スルモ又同條項ノ犯罪ハ成立スルモノトス(二八、四、二五)

貨幣偽造ノ器械ヲ備ヘタル上ハ其完備スルト否トヲ問ハス偽造ノ器械ヲ豫備シタルモノトス而シテ其偽造用ニ供スルヲ得ヘキヤ否ヤハ事實ノ認定ニ屬ス(二八、七一〇)貨幣偽造ノ器械ヲ豫備シタル上ハ其器械ノ偽造ニ直接主要ノ關係ヲ有スルト否トヲ問ハス豫備罪ヲ成立ス(二八、一二、五)

### 第十七章 文書偽造ノ罪

本章ハ文書偽造ノ罪ヲ規定ス

元來文書ノ偽造罪ニ付テハ定義種々アリテ困難ナリシカ今日ニ於テハ惡意ヲ以テ文書ノ眞實ヲ變更シ以テ人ニ害ヲ與ヘ又ハ害ヲ與ヘ得ヘキ方法ヲ以テスルヲ云フト故ニ必ラス眞實ヲ變換スルコト他人ニ害ヲ加フルノ意思又ハ害ヲ生スルコトヲ得ヘキ

事アルヲ要ス而シテ文書中ニハ詔書アリ官公文書アリ又ハ繪圖アルヘク又公ケノ文書ト私ノ文書ノ區別アリ各本條ニ於テ之ヲ詳悉ス

現行刑法ハ第二編第四章第三節第四節及ヒ第五節ニアリシヲ今之ヲ併合シ修正ヲ加ヘタルモノトス其主要ナル點ハ

- 一 現行法ハ文書ノ偽造ノミヲ罰シ繪圖ノ偽造ヲ豫想セスト雖モ檢證調書ニ添付シタル繪圖ノ如キハ之ヲ罰シテ偽造ヲ防止セサルヘカラス
- 二 現行法ハ文書偽造罪ノ成立ニハ原則トシテ偽造ノ行爲ト行使ノ行爲トノ二要素ヲ必要トセリ從テ單ニ偽造シタルノミニテハ未タ罪ト爲ラス改正法ハ文書偽造罪ハ行使ヲ待タスシテ既ニ偽造ノ時ニ成立スト爲シ行使ノ有無ヲ問ハサルコト、爲シタリ
- 三 現行法ハ其第二百二條末段、第二百三條第二項及ヒ第二百五條第二項ニ於テ官文書毀棄罪ノ規定ヲ設クルモ改正法ハ本罪ハ少シモ文書ノ偽造ト關係ナキヲ以テ之ヲ刪除シ財物毀棄罪ニ移シタリ
- 四 現行法ハ其官文書偽造罪ニ於テ單ニ官吏ニ關スル規定ノミヲ設クルヲ以テ改正法ハ之ヲ補修シ官吏ノミナラス廣ク其他ノ公務員ニモ共通スル規定ヲ加ヘタリ

五 現行法ハ公務員カ其職務上虚偽ノ文書ヲ作り又ハ不正ニ官ノ文書ヲ増減變換シタル場合ヲ以テ等シク官文書ノ偽造變造ト爲スト雖モ改正法ハ之ヲ改メ虚偽文書ノ作製又ハ文書ヲ不正ニ増減變換シタル罪ト爲シタリ

六 現行法ニハ公務員ニ對シ虚偽ノ申立ヲ爲シ戸籍其他ノ公正證書ニ不實ノ記載ヲ爲サシメタル場合ノ規定ナク唯已ニ實施セラレタル戸籍法等ニ之ニ關スル一部ノ規定アルノミナルヲ以テ改正法ハ新ニ之ニ關スル規定ヲ設ケタリ

七 第七十九條乃至第八十一條及ヒ第八十三條ノ罪ノ未遂ハ之ヲ罰セス是等ノ場合ニ在テハ其行爲ノ未遂ハ多クハ第十九章ノ罪ヲ構成スヘケレハナリ

八 現行法ノ文書偽造罪ニ關スル規定殊ニ官文書ニ關シテハ刑ノ範圍狹キニ過キ適用ノ際困難ヲ感スルコトナシトセス是ヲ以テ改正法ハ之ヲ改メ十分刑ノ範圍ヲ擴張シ裁判官ヲシテ情狀ニ因リ適宜ニ刑ヲ科セシムルコトト爲シタリ

第一百五十四條 行使ノ目的ヲ以テ御璽、國璽若クハ御名ヲ使用シテ詔書其他ノ文書ヲ偽造シ又ハ偽造シタル御璽、國璽若クハ御名ヲ使用シテ詔書其他ノ文書ヲ偽造シタル者ハ無期又ハ三年以上ノ懲役ニ處ス

御璽、國璽ヲ押捺シ又ハ御名ヲ署シタル詔書其他ノ文書ヲ變造シタル者亦同シ

釋 本條ハ詔書其他ノ文書ヲ偽造又ハ變造シタル罪ヲ規定ス

第一項 詔書其他ノ文書ニシテ 天皇陛下ノ御璽ヲ押捺遊ハサル、モノト日本國璽ヲ押捺セラル、モノト 天皇陛下ノ御名ヲ署セラル、場合トアリ各其種類アルモ兎ニ角ク此等ノ尊キ物ヲ使用シテ之ヲ行使スル目的ヲ以テ偽造シタルモノ即チ元ト正當ノ御璽、國璽若クハ御名ヲ使用シテ詔書其他ノ文書ヲ偽造シタルモノハ勿論已ニ不正ナル御璽、國璽若クハ御名ヲ使用シテ詔書其他ノ文書ヲ偽造シタルモノハ共ニ本項ノ處罰ヲ爲スニアリ即チ御璽、國璽若クハ御名ノ不正ヲ論セス已ニ詔書其他ノ文書ヲ偽造スルニ至リテ同一ナリトス

詔書以外ノ文書トハ法律ノ如キ勅令ノ如キ又ハ外國派遣ノ使節ニ交付スル委任狀ノ如キ外國主權者ニ贈ラルヘキ文書ヲモ包含ス

第二項 本項ノ場合ハ何レモ正當ノ詔書其他ノ文書ナルモ之ヲ變造スルモノナリ是亦害ノ及フ所ニ至リテハ敢テ第一項ト異ナルコトナシ

現行刑法第二百二條前段ト同一ノ趣旨ニシテ只偽造又ハ變造ノ手段ヲ示シタルノミ



第一百五十五條 行使ノ目的ヲ以テ公務所又ハ公務員ノ印章若クハ署名ヲ使用シテ公務所又ハ公務員ノ作ル可キ文書若クハ圖畫ヲ偽造シ又ハ偽造シタル公務所又ハ公務員ノ印章若クハ署名ヲ使用シテ公務所又ハ公務員ノ作ル可キ文書若クハ圖畫ヲ偽造シタル者ハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス

公務所又ハ公務員ノ捺印若クハ署名シタル文書若クハ圖畫ヲ變造シタル者亦同シ

前二項ノ外公務所又ハ公務員ノ作ル可キ文書若クハ圖畫ヲ偽造シ又ハ公務所又ハ公務員ノ作りタル文書若クハ圖畫ヲ變造シタル者ハ三年以下ノ懲役又ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス

本條ハ公務所又ハ公務員ノ作ル可キ文書ヲ偽造變造シタル場合ヲ規定ス

第一項 本項ハ行使スルノ目的ヲ以テ

一 公務所又ハ公務員ノ印章若クハ署名ハ正當ノモノニシテ之ヲ不正ニ使用シテ

公務所又ハ公務員ノ作ル可キ文書若クハ圖畫ヲ偽造シタルモノ

二 不正ノ公務所又ハ公務員ノ印章若クハ署名ヲ使用シテ公務所又ハ公務員ノ作ル可キ文書若クハ圖畫ヲ偽造シタルモノ

ナリ即チ一ハ隙キヲ以テ盗用スルカ如キニハ偽造シタルモノヲ用ヒタルカ如シ

第二項 公務所又ハ公務員ノ捺印若クハ署名シタル文書若クハ圖畫ヲ變造シタルモノニシテ元ト正當ノモノナレトモ之ヲ變造シテ不正ノモノトナルニアリ

第三項 前二項ノ外其印章若クハ署名ヲ使用セスシテ

一 公務所又ハ公務員ノ作ル可キ文書若クハ圖畫ヲ偽造シタルトキ

二 公務所又ハ公務員ノ作りタル文書若クハ圖畫ヲ變造シタルトキ

ナリ即チ第一第二項ノモノヨリ其情狀ノ輕キモノトス

現行刑法ハ第二百三條及ヒ第二百十三條ヲ合併シ之ニ修正ヲ加ヘタルモノナリ而シテ

本條第一項ハ公務所又ハ公務員ノ印章、署名ヲ不正ニ使用シテ官吏、公吏其他公務員ニ從事スル職員ノ作ル可キ文書若クハ繪圖ヲ偽造シ又ハ偽造シタル此等ノ印章、署名ヲ用ヒテ公務員ノ作ル可キ文書若クハ繪圖ヲ偽造シタル場合ニ關シ

第二項ハ公務員ノ捺印若クハ署名シタル文書若クハ繪圖ヲ變造シタル場合ニ關シ

第三項ハ前二項以外ノ手段ヲ以テ公務所又ハ公務員ノ作ルヘキ文書若クハ繪圖ヲ偽造若クハ其作りタル文書若クハ繪圖ヲ變造シタル場合ニシテ本項ハ印章、署名等ヲ使用スルコトナキヲ以テ犯情輕キモノナレハ前二項ト比シテ刑ヲ輕クシタリ

判決例

一旦使用シ了リタル官廳ノ呼出狀ヲ利用シ新タニ又一ノ官廳ノ呼出狀ノ如キモノヲ作成シタルハ官文書偽造ナリ(二六、一〇、二六)  
窃盜ヲ蔽ハンカ爲メ官ノ帳簿ヲ詐ハリテ記入セハ刑法第二百三條ノ罪ヲ構成ス(二七、二二、二八)

郵便爲替證書及爲替報知書ハ郵便局ニ於テ作製スヘキモノナレハ即チ官ノ文書ナルヲ以テ之ヲ偽造行使シタル時ハ刑法第二百三條ニ依リ處斷ス(二八、六、二七)

執達吏カ假差押調書ニ虛偽ノ事實ヲ記入シ之ヲ其役場ニ備付ケタル所爲ハ官文書偽造罪ナリ(二八、一一、二二)

印鑑簿ハ印章ニ非ラスシテ文書ナリ故ニ印鑑簿ノ印影ヲ塗抹シテ更ニ偽印ヲ押捺シタル所爲ハ官文書變造ノ罪ナリ(二九、一、二八)

官文書ノ存在シアルヲ變換シタルニ非スシテ全ク其文書ヲ作成スルニ當リテ拾錢ト

記スヘキヲ拾壹錢ト記シタルモ亦偽造ナリ(二九、二、五)

刑法第二百三條ニ所謂官ノ文書トハ官ノ圖書ノ意義ナリ(三二、四、六)

公賣ノ揭示札ハ之ヲ揭示セサル以前ニ在リテモ其性質上信憑力ヲ有スル文書ナリ之ヲ偽造セハ公文書偽造罪ナリ(三〇、一一、一)

村會ノ議事録謄本ヲ偽造行使ハ公文書偽造行使罪トス(三一、一、二五)

舊藩ノ家老職ノ違書ヲ偽造シタル所爲ハ官文書偽造罪ナリ(三二、二、二四)

郵便爲替證書ハ官文書ナリ(三三、二、五)

金庫ハ大藏大臣ノ管理ニ係ル官署ナリ(三三、五、三一)

海外旅行券ハ免狀鑑札ニアラスシテ官文書ナリ(三四、六、四)

文書偽造罪ハ信用ヲ害スル罪ナルヲ以テ或ル目的ヲ以テ偽造變造ノ文書ヲ行使スルニ因リ成立シ結局ノ目的ヲ達シ得ルト否トハ犯罪構成ニ影響ナシ(三五、一、一七)

電報送達紙ヲ偽造シ之ニ必要ナル文言ヲ記入シテ配達ノ手續ヲ爲シタルトキハ假令

日付印ノ押捺ナシト雖モ官文書偽造行使ヲ成立ス(三五、二、二〇)

私人ヨリ官ニ差出シ官ニ於テ保存スヘキ文書ナル以上ハ官ノ記録又ハ官ノ帳簿ニ外ナラス官文書トス(三六、六、二三)

刑法第二百三條ハ公法上ノ關係ニ於テ作製スヘキ文書ト私法上ノ關係ニ於テ作製スヘキ文書ナルトヲ區別セス(三六、七、三)

文書偽造罪ヲ構成スルニハ偽造セラレタル文書カ形式的有效ナルヲ以テ足レリトシ實體的有效ナルコトヲ要セス(三七、五、一三)

官報ハ官ノ報告書ニシテ官文書ナリ(三七、六、三〇)

官吏ノ出張旅費内譯明細表ハ旅費請求ノ爲メ出張日數及ヒ金額等ヲ詳記セル疏明書ニ外ナラス其職務上作成シタルモノニ非ラスシテ自己ノ權利ニ關スル私文書タルニ過キス虛偽ノ内譯明細表ハ官文書ニアラス(三七、一〇、二七)

苟モ人ヲシテ官文書トシテ信セシムルニ足ルヘキモノヲ偽造行使セハ其文書ニ表示セラレタル作成者カ虛無ノ人タルト將タ其行使當時ニ於テ其文書ニ表示セラレタル官職ヲ有スルト否トヲ問ハス官文書偽造行使罪トス(三九、四、一九)

官文書ナルヤ否ヤノ事實ヲ確定スルニハ其文書カ官廳ニ依リ作成セラレタル事實又ハ其保管者カ官廳ナル事實ノ外尙其文書ハ官廳所管事務ニ直接關聯シテ作成シ又ハ保有セラレタル事實ノ存スルト否トニ依リ區別ス(三九、一一、二)

### 第二百五十六條 公務員其職務ニ關シ行使ノ目的ヲ以テ虛偽ノ文書若

クハ圖畫ヲ作り又ハ文書若クハ圖畫ヲ變造シタルトキハ印章、署名ノ有無ヲ區別シ前二條ノ例ニ依ル

本條ハ虛偽ノ文書圖畫ヲ作り又ハ變造シタル場合ヲ規定ス

本條ハ公務員カ其職務ニ關シテ虛偽ノ文書若クハ圖畫ヲ作り又ハ正當ノ文書若クハ圖畫ヲ變造シタルモノニシテ其文書圖畫ニ印章、署名ノ有無ニ依リ區別シ前二條ノ例ニ依リテ處斷スヘキモノトス

現行刑法ハ第二百五條第一項及ヒ第二百十四條第二項ニ規定シアリテ本條ハ之ヲ併セテ一條トシタリ

現行法ハ官吏カ其職務上虛偽ノ文書ヲ作ル場合ヲ以テ管掌ニ係ル文書ヲ偽造スル場合ト爲スモ其文書タルヤ形式ニ於テハ官吏ノ職務上作リタル文書ナルヲ以テ假令實質ニ於テ瑕瑾アリト雖モ之ヲ以テ文書ノ偽造ト爲スハ不當ノ規定ナリト云ハサルヘカラス是ヲ以テ改正法ハ新タニ本條ノ如ク設ケタリ

第二百五十七條 公務員ニ對シ虛偽ノ申立ヲ爲シ權利、義務ニ關スル公正證書ノ原本ニ不實ノ記載ヲ爲サシメタル者ハ二年以下ノ懲役又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

公務員ニ對シ虚偽ノ申立ヲ爲シ免狀、鑑札又ハ旅券ニ不實ノ記載ヲ爲サシメタル者ハ六月以下ノ懲役又ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス

前二項ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

本條ハ公務員ニ虚偽ノ申立ヲ爲シタル場合ヲ規定ス

第一項 公務員ニ對シ虚偽ノ申立ヲ爲シ權利、義務ニ關スル公正證書ノ原本ニ不實ノ記載ヲ爲サシメタル者例ヘハ戸籍吏ニ虚偽ノ申立ヲ爲シテ身分登記簿ニ不實ノコトヲ記載セシメ又ハ登記官吏ニ對シ虚偽ノ申立ヲ爲シテ登記簿ニ不實ノコトヲ記載セシメタル場合ノ類ナリ

第二項 公務員ニ對シ虚偽ノ申立ヲ爲シテ免狀鑑札又ハ旅券ニ不實ノ記載ヲ爲サシメタル者例ヘハ營業差止めラレタル者カ他人ノ名義ヲ騙リテ鑑札ヲ受ゲ又ハ海外渡航旅券ヲ受クルニ際シ住所氏名ヲ詐ハルカ如キ前科者ナルニモ拘ラス偽リテ教員免狀ヲ受クルカ如キ類ナリ

第三項 第一第二項ハ何レモ其弊害ノ及フ大ナルヲ以テ未遂罪ヲモ罰スルニアリ

現行刑法ニ於テハ本條ノ規定ナシ本條第一項ハ公務員ニ對シ虚偽ノ申立ヲ爲シテ戸籍

簿登記簿其他權利義務ニ關スル公正證書ノ原本ニ不實ノ記載ヲ爲サシメタル場合ニシテ從來其解釋區々ニ分レ或ハ之ヲ文書偽造ニ問ヒ或ハ之ヲ無罪ト爲セリ故ニ明文ヲ設ケ此等ノ疑義ヲ避ケルコト、爲シタリ

第二項ハ公務員ニ對シ虚偽ノ申立ヲ爲シテ免狀鑑札又ハ旅券ニ不實ノ記載ヲ爲サシメタル者ニシテ是亦現行法ハ明文ヲ欠クヲ以テ補修ス

第三項ハ前二項ノ未遂ノ場合ハ印章偽造罪ニ問フヘカラサルヲ以テ之ヲ罰スルコト、爲シタリ

第一百五十八條 前四條ニ記載シタル文書又ハ圖畫ヲ行使シタル者ハ其文書又ハ圖畫ヲ偽造若クハ變造シ又ハ虚偽ノ文書若クハ圖畫ヲ作り又ハ不實ノ記載ヲ爲サシメタル者ト同一ノ刑ニ處ス  
前項ノ未遂罪之ヲ罰ス

本條ハ行使ヲ爲シタル者ニ付テ規定ス

第一項 第一百五十四條乃至第五百十六條ニ於ケル場合ハ何レモ文書又ハ圖畫ヲ偽造シ又ハ變造シタルモノナリ第五百十七條ニ於ケル場合ハ不實ノ記載ヲ爲サシメタルモノナリ而シテ此四個條ハ何レモ其之ヲ偽造又ハ變造シ不實ノ記載ヲ爲サシメタル

ノミヲ以テ已ニ犯罪ハ成立セリ

而シテ右ノ文書圖畫又ハ不實ノ記載ヲ爲シタル原本、免狀、鑑札又ハ旅券ヲ行使シタルモノニ付テハ其害ノ及フ所同一ナルヲ以テ更ニ本項ニ於テ處罰スルニアリトス

第二項 第一項ハ未遂罪ヲ罰シ害ヲ未萌ニ防クニアリ

現行刑法第二百三條第二百五條第二百十三條第二百十四條ニ記載シタル文書ヲ行使スル場合ヲ罰スルト同シ本條ハ單ニ行使シタル者ハ偽造又ハ變造シタル者又ハ不實ノ記載ヲ爲サシメタル者ト同一ノ刑ニ處スルモノトス

第一百五十九條 行使ノ目的ヲ以テ他人ノ印章若クハ署名ヲ使用シテ權利、義務又ハ事實證明ニ關スル文書若クハ圖畫ヲ偽造シ又ハ偽造シタル他人ノ印章若クハ署名ヲ使用シテ權利、義務又ハ事實證明ニ關スル文書若クハ圖畫ヲ偽造シタル者ハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス

他人ノ印章ヲ押捺シ若クハ他人ノ署名シタル權利、義務又ハ事實證明ニ關スル文書若クハ圖畫ヲ變造シタル者亦同シ

前二項ノ外權利、義務又ハ事實證明ニ關スル文書若クハ圖畫ヲ偽造又ハ變造シタル者ハ一年以下ノ懲役又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

註 本條ハ權利義務又ハ證明ニ關スル文書圖畫ノ偽造變造ノコトヲ規定ス

第一項 本項ハ第五十五條第一項ト同一ノ趣旨ニシテ同條ハ公務所又ハ公務員ノ場合ヲ規定シ本項ハ他人ニ對スル場合ナリ而シテ其文書若クハ圖畫ハ權利、義務又ハ事實證明ニ關スルモノナラサルヘカラス例ヘハ證文ヲ偽造シテ他人ノ印ヲ盜用シタルカ如ク又偽造シタル他人ノ印ヲ使用シテ返濟受領書ヲ偽造シタルカ如シ

第二項 本項モ亦第五十五條第二項ト同一ニシテ變造ノ場合ヲ規定ス

第三項 本項モ亦第五十五條第三項ト同一ニシテ權利、義務又ハ事實證明ニ關スル文書又ハ圖畫ニシテ他人ノ印章若クハ署名ヲ使用スルニ及ハサルモノニ付テノ規定ナリトス

現行刑法第二百十條ノ規定ニ修正ヲ加ヘタルモノニシテ現行法ハ賣買、貸借、贈與、交換其他權利、義務ニ關スル證書ト其餘ノ私書トヲ區別シタリシカ改正法ハ之ヲ改メ總テ權利義務又ハ事實證明ニ關スル文書ト爲シタリ

判決例

第二編罪 第十七章文書偽造ノ罪

送金手形ハ刑法第二百十條ノ權利義務ニ關スル證書ヲ以テ論ス(二四、二、三)  
苟モ他人ノ權利義務ニ關スル證書ヲ偽造行使スレハ其代人ノ名義ナルト本人ナルト  
ヲ問ハサルナリ(二四、一、二二)

刑法第二百十條ノ賣買貸借贈與交換云々トハ權義アル文書ノ重ナルモノヲ列記セシ  
文意ナルカ故ニ賣買證書ハ勿論委任狀ノ如キモ亦代理ノ權限ヲ證スル文書ナルヲ以  
テ同條ノ制裁ヲ受クヘキモノトス(二五、七、一〇)

合意上預リ置キタル實印ヲ承諾以外ニ押用セハ盜捺ナリ(二六、三、六)

虛無ノ人名ヲ假設シ連借人ト偽リ金圓ヲ詐取セシハ即テ負債主ノ資格ヲ偽リ眞實ノ  
借用ニ非ス債主ニ對シテハ直接ノ損害社會ニ對シテハ間接ノ信用ヲ害シタルモノナ  
レハ刑法第二百十條ニ問擬シタルハ相當ナリ(二六、五、四)

證書ハ署名者カ作リタルモ其證書ヲ取り置キ後ニ至リ其名下ニ偽造印ヲ押シ記載ノ  
月日ヲ變更セハ私書偽造罪トス(二七、六、四)

變造ハ有效ノ證書ヲ増減變更スルヲ云フ已ニ不用ニ歸シタル證書即チ反古紙ヲ材料  
トシテ作成シタルモノハ證書變造ニ非スシテ偽造ナリ(二七、一一、二六)

白紙ニ押捺シアル印影ハ何人ノ盜捺ニ係ルヲ知ラサルモ之ヲ利用セハ私印盜用罪ナ

リ(二七、一二、二五)

反古紙ヨリ郡長ノ印影ヲ切取り引出切符用紙ノ要所ニ貼附シテ行使シタル所爲ハ引

出切符ノ偽造ナリ(三二、一二、一二)

商業帳簿ハ刑法第二百十條ニ所謂權利義務ニ關スル證書ナリ(三二、二、六)

品物ノ注文書ハ權利義務ニ關スル證書ナリ(三二、六、八)

無効ニ歸シタル證書ノ手裡ニ存在スルヲ奇貨トシテ描改シテ行使シタル所爲ハ證書

偽造行使罪トス(三二、六、二〇)

鐵道乗車券ハ權利義務ニ關スル證書ナリ(三三、一〇、四)

有効期限ヲ經過シタル鐵道乗車切符ノ日附ヲ改竄シテ行使シタルハ證書偽造行使ナ

リ(三四、一、一九)

電報賴信紙ヲ偽造シテ受付職員ニ交附シタル以上ハ其電信文ハ未タ受信人ニ發送セ

ラレサルモ偽造文書行使罪トス(三四、二、一九)

銀行ノ損ミヲ隱蔽センカ爲メ銀行帳簿ニ虛偽ノ記載ヲ爲シタル所爲ハ刑法第二百十  
條第一項トス(三四、一〇、八)

自己ノ犯罪辯護ノ爲メナリト雖モ私書ヲ偽造變造シ行使シタル上ハ私書偽造行使罪

トス(三五、四、一四)

偽印ハ人ヲシテ眞印ナルコトヲ信セシムヘキ程度ニ偽造セラレタルヲ以テ足ル偽印眞印ト酷似スルト否トヲ問ハス(三五、六、二)

苟モ他人ノ姓名ヲ署シ擅ニ他人名義ノ文書ヲ作成スルニ於テハ文書偽造罪ヲ構成ス從テ文書ニ署シタル姓名カ作成者固有ノ姓名ニ非スシテ他人ノ姓名ナルトキハ作成者カ其人ノ姓名ヲ署シ自ラ其人ナリト稱シ來リタル事實アリトスルモ其姓名ヲ文書ニ署シタル所爲ヲ以テ氏名詐稱ノ結果ナリトシ不問ニ付スルコトヲ得ス(三六、五、五)實印紛失届改印届ハ第二十條第二項ノ餘ノ私書ナリ(三七、一一、一五)

假住所届ハ權利義務ニ關スル文書ナリ(三八、一〇、一六)偽造變造ノ文書カ眞實ニ合スルト否トハ之ヲ問ハサルヲ以テ圖面ノ訂正カ實地ニ適合スルニモセヨ之カ爲メ文書偽造罪ノ成立ヲ妨ケス(三九、八、三二)

他人ノ名義ヲ冒シテ文書ヲ作成スル場合ニ人ヲシテ其文書ハ署名者ノ手ニ成リタルモノト信セシムヘキ形式ヲ以テ作成セラル、ニ於テハ文書偽造罪ヲ成立スヘク其姓名カ其人ノ眞姓名ト全然一致スルコトヲ要セス(三九、一一、二二)

第六十條 醫師公務所ニ提出ス可キ診斷書、檢案書又ハ死亡證書

ニ虚偽ノ記載ヲ爲シタルトキハ三年以下ノ禁錮又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

本條ハ醫師ニ關スル規定トス

醫師カ進ンテ爲スト又ハ命令ニ依リテ爲スト又ハ人ヨリ頼マレテ爲ストヲ問ハス公務所ニ提出スヘキ診斷書、檢案書、死亡證書ニ虚偽ノ記載ヲ爲シタルトキハ公務所ヲシテ事實ヲ誤ラシムルノ恐れアリ依テ之ヲ罰スルモノトス例ヘハ告訴狀ニ添付スル爲メノ診斷書ニ疾病ノ日數ヲ増加シ又ハ輕症ヲ重症ト記載スルカ如シ  
診斷書トハ疾病ノ證書ナリ檢案書トハ死體ヲ検査シタル證書ナリ死亡證書トハ主治醫カ死亡ヲ證明スル證書ナリトス

現行刑法第二百五條ヲ修正シタルモノトス若シ常人カ醫師ノ名ヲ以テ證書ヲ偽造セシトキハ前條ニ依ルヘシ現行法ニ於テハ醫師ハ囑托ヲ受ケテ云々トアルモ其囑托ヲ受クルト否トハ決シテ問フヲ要セス故ニ本條ノ如ク修正ス

第六十一條 前三條ニ記載シタル文書又ハ圖畫ヲ行使シタル者ハ其文書又ハ圖畫ヲ偽造若クハ變造シ又ハ虚偽ノ記載ヲ爲シタル者

ト同一ノ刑ニ處ス

前項ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

註 本條ハ行使罪ヲ規定ス

第一項 本項ハ第五百五十八條第一項ト同一ノ趣旨ニシテ私書又ハ圖畫ノ偽造又ハ變造シタルモノヲ行使シ又ハ醫師カ虛偽ノ記載シタル書面ヲ行使シタルモノニシテ同一ノ刑ニ處セラル、モノトス

第二項 本項モ亦第五百五十八條第二項ト同一トス

### 第十八章 有價證券偽造ノ罪

註 本章ハ有價證券偽造ノ罪ヲ規定ス

有價證券トハ第六十三條ニ於テ例示スルカ如ク公債證書、株券其他ノ有價證券トアリテ手形、船荷證券ノ如キ類ヲ云フ  
而シテ此類ノ證書ハ流通ノ安全ト迅速ノ保護トヲ加フヘキモノニシテ之ヲ偽造スルニ於テハ罰セサルヲ得ス

現行刑法ニ於テハ本章ノ規定ハ官文書偽造罪及ヒ私書偽造罪ノ中ニアリ故ニ之ヲ摘出シテ合シテ一章ト爲シ修正ヲ加ヘタルモノトス

本章ノ罪ハ特別ノ性質ヲ有スル流通證券ニ關スルモノニシテ普通ノ文書ト異ナル所アリ且主トシテ直接ニ財産上ノ利益ヲ目的トスルモノナルヲ以テ之ヲ他ノ文書偽造罪ト區別スル必要アリ又偽造ノミヲ以テ成立ノ要件ト爲シタルコトハ前章文書偽造罪ト同一トス

第六十二條 行使ノ目的ヲ以テ公債證書、官府ノ證券、會社ノ株券其他ノ有價證券ヲ偽造又ハ變造シタル者ハ三月以上十年以下ノ懲役ニ處ス

行使ノ目的ヲ以テ有價證券ニ虛偽ノ記入ヲ爲シタル者亦同シ

註 本條ハ有價證券ノ偽造變造又ハ虛偽ノ記入ニ付テ規定ス

第一項 行使ノ目的ヲ以テ有價證券ヲ偽造シ又ハ變造シタル者ヲ三月以上十年以下ノ懲役ニ處ス而シテ有價證券トハ各種ノ公債證書大藏省ノ證券ノ如キ官府ノ證券、會社ノ株券、各種ノ手形、商法規定ノ船荷證書、貨物引換證券、運送證券等何レモ包含スルモノトス

第二項 第一項ハ不正ノ證券ナルモ本項ハ元ト正當ノ證券ナルニ拘ハラズ之ニ虛偽ノ記入ヲ爲スニアリ例ヘハ不正ノ裏書ヲ爲スカ如シ



現行刑法第二百四條及ヒ第二百九條ヲ合シテ修正ヲ加ヘタリ現行法ハ公債證書、地券  
其他官吏ノ公證シタル文書ヲ官文書トシ爲替手形其他裏書ヲ以テ賣買スヘキ證書若  
クハ金額ト交換スヘキ約束手形ヲ私文書トシ別節ニ規定シタルモ本條ニ於テ之ヲ區  
別セス合シテ設ケタリ

現行法ハ虛偽ノ裏書ヲ爲シタル場合ノミヲ想像スルモ狹キヲ以テ改正法ハ廣ク之ヲ  
虛偽ノ記入ヲ爲シタル場合ト爲シ時急ニ應セシメタリ  
判決例

刑法第二百九條ニ所謂裏書ヲ以テ賣買スヘキ證書若クハ金額ト交換スヘキ約束手形  
トハ交付ニ依リテ讓渡スコトヲ得ル流通證券ノ謂ニシテ爲替手形約束手形ノ如キ或  
ル有價證券ニ特有ノ名稱ニアラス(三一、一二、一六)  
約束手形ニ虛無ノ人名ヲ署シ之ヲ行使シタル所爲ハ記録者ノ資格ヲ詐ハリタル事實  
ナシ從テ約束手形偽造行使罪ヲ構成スルモノニ非ス(三五、五、一)  
手形ヲ偽造シ更ニ裏書ヲ偽造シ之ヲ行使スルモノノ手形偽造行使罪ノミ(三九、一〇、  
九)

第六十二條 偽造、變造ノ有價證券又ハ虛偽ノ記入ヲ爲シタル有

價證券ヲ行使シ又ハ行使ノ目的ヲ以テ之ヲ人ニ交付シ若クハ輸入  
シタル者ハ三月以上十年以下ノ懲役ニ處ス

前項ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

本條ハ有價證券ノ行使又ハ輸入ヲ規定ス

第一項 本項ノ規定ハ

- 一 偽造變造ノ有價證券ヲ行使スルコト
- 二 虛偽ノ記入ヲ爲シタル有價證券ヲ行使スルコト
- 三 行使ノ目的ヲ以テ偽造變造ノ有價證券若クハ虛偽記入ノ有價證券ヲ人ニ交付  
スルコト

四 行使ノ目的ヲ以テ偽造變造又ハ虛偽記入ノ有價證券ヲ輸入スルコト  
是ナリ其一及ヒニ付テハ第五十八條及ヒ第六十一條ト同一ノ趣旨ニシテ行使  
ヲ罰スルニアリ其三及ヒ四ニ付テハ第四十九條第二項ト同一ノ趣旨ニシテ之ヲ罰  
スルモノトス

第二項 本項ハ前項ノ未遂罪ヲ罰スルコトハ第五十八條第六十一條ノ第二項ト  
同一ナリトス

現行刑法第二百四條及第二百九條ト同一ニシテ修正ス即チ本條ハ前條ノ偽造證券又ハ虛偽ノ記入證券ヲ行使シ又ハ行使ノ目的ヲ以テ輸入シタル場合ノ規定ナリ特ニ輸入ノ場合ヲ適用スルハ此等ノ物タル信用經濟ノ發達ト共ニ殆ト貨幣ノ代用ヲ爲スコトアリ無記名ノ證券ノ如キハ流通ノ點ニ於テ貨幣紙幣又ハ兌換銀行券ト異ナルコトナケレハナリ

第十九章 印章偽造ノ罪

■ 本章ハ印章偽造ノ罪ヲ規定ス

印章ハ我邦ノ慣例上大ニ其信用ヲ有スルモノニシテ之ヲ偽造スルカ如キハ信憑力ヲ害スルヲ以テ之ヲ罰ス

現行刑法ハ第二編第四章第二節及ヒ第四節ニ規定シタリ之ヲ合シテ一章トシ修正ヲ加ヘタルモノトス

現行法ハ官印偽造罪ニ付テハ各其偽造又ハ使用ノ行爲ヲ罰シタリ改正法モ亦偽造ノ一行爲ヲ以テ成立ノ要件ト爲ス其偽造印ヲ使用シテ文書ヲ偽造シタル場合ハ之ヲ文書偽造罪中ニ規定シ本章ハ單ニ印章ヲ偽造シ眞印ヲ不正ニ使用シ又ハ偽造印ヲ使用スルモ文書ヲ偽造セサル場合ノミヲ規定シタリ

又現行法ハ私印偽造罪ニ付テハ偽造及ヒ使用ノ二行爲ヲ以テ犯罪成立ノ要件ト爲スモ改正法ハ之ヲ改メ偽造ノミヲ成立ノ要件トシ使用ノ場合ハ官印ト等シク此ニ因テ文書ヲ偽造シタルトキハ之ヲ文書偽造罪ト爲シ單ニ眞印ヲ不正ニ使用シ又ハ偽造印ヲ使用シテ文書ヲ偽造セサル場合ノミヲ本章ニ規定シタリ  
現行法第九十八條及ヒ第九十九條ハ特別法ニ規定スヘキモノト爲シ之ヲ削除シタリ

文書偽造罪ト同一ノ理由ニ因リ官印若クハ私印ノ規定ヲ擴張シ汎ク公務所公務員及ヒ一私人ノ印章ニ關スル規定ヲ設ケタリ  
文書偽造罪ト同シク現行法ハ印章偽造罪ノ刑ノ範圍狹キニ失スルヲ以テ改メテ之ヲ擴張シタリ又改正法ハ單ニ印章偽造ノ場合ニ限リタリ從テ之ヲ使用スルモ文書偽造ト爲ラサル場合ノミヲ規定スルヲ以テ其罪狀現行法ニ比シ稍輕キ所アルカ故ニ一般ニ刑ノ程度ヲ低下シタリ

第六十四條 行使ノ目的ヲ以テ御璽、國璽又ハ御名ヲ偽造シタル者ハ二年以上ノ有期懲役ニ處ス  
御璽、國璽又ハ御名ヲ不正ニ使用シ又ハ偽造シタル御璽、國璽又

ハ御名ヲ使用シタル者亦同シ

■ 本條ハ御璽、國璽、御名ヲ偽造シ又ハ之ヲ使用シ又ハ正當ノモノヲ不正ニ使用シタル罪トス

第一項 已ニ説述シタルカ如ク御璽トハ 天皇陛下ノ御印ナリ金材ニシテ曲尺三寸天皇御璽ト彫刻セラレアリ、國璽ハ大日本國璽ト刻シ金材ニシテ曲尺二寸九分トス而シテ之ヲ使用スルハ法律勅令ノ如キハ 親署ノ後 御璽ヲ鈐セラレ、國書、條約批准、委任狀、證認狀、三等以上ノ勳記ノ如キハ 親署ノ後國璽ヲ鈐セラル、モノナリ其他親任官勅任官ノ辭令書ニハ 御璽ヲ鈐シ奏任官ノ任命ハ其奏薦書ニ 御璽ヲ鈐セラレ何レモ内大臣之ヲ尙藏スル規定トス

以上ノ如キ貴キ御印又ハ苟モ恐レ多ク 天皇御名ヲ偽造スルカ如キハ之ヲ罰セサルハカラス

第二項 正當ナル御璽、國璽又ハ御名ヲ不正ニ使用シタルモノ又ハ已ニ偽造シタル御璽、國璽又ハ御名ヲ使用シタルモノモ亦第一項ト同刑ナリトス

本條ノ規定ヲ犯シ文書ヲ偽造又ハ變造シタルモノハ第百五十四條ニ依リテ處斷スヘキモノトス

現行刑法第百九十四條及ヒ第百九十七條ト同一趣旨ニシテ修正シタルモノトス  
偽璽ヲ使用シテ文書ヲ偽造シタル場合ハ文書偽造罪ト爲シタルヲ以テ之ヲ削除シタリ又本條第二項ハ盜用ノ規定ト同一ニシテ後段ハ偽璽ヲ使用スルモ文書ハ偽造セザリシ場合ニシテ文書ハ正當ノ場合ナリトス

第百六十五條 行使ノ目的ヲ以テ公務所又ハ公務員ノ印章若クハ署名ヲ偽造シタル者ハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス

公務所又ハ公務員ノ印章若クハ署名ヲ不正ニ使用シ又ハ偽造シタル公務所又ハ公務員ノ印章若クハ署名ヲ使用シタル者亦同シ

■ 本條ハ公務所公務員ノ印章若クハ署名ヲ偽造シ使用シタル場合ヲ規定ス

第一項 公務所又ハ公務員ノ印章若クハ署名ヲ偽造シタルモノヲ罰スルニアリ

第二項 正當ノ印章若クハ署名ヲ不正ニ使用シタルトキ又ハ偽造ノ印若クハ署名ヲ正當ニ使用シタルトキニアリトス

現行刑法第百九十五條ト同一ノ趣旨ナリ偽印ヲ使用シテ文書ヲ偽造シタルトキハ文書偽造罪ト爲シタルヲ以テ之ヲ削除シ第二項前段ハ現行法第百九十七條中官印盜用ノ規定ト同一トス後段ハ偽造官印ヲ使用スルモ文書ヲ偽造セザリシ場合ノ規定ニシテ

前條第二項ノ末段ノ規定ニ從ヒ偽造ト同シク之ヲ罰スルモノナリ  
判決例

官印盗用トハ官吏其監守スル官印ヲ不正ニ押捺シ又ハ他人官吏ノ隙ヲ伺ヒ窃カニ官  
印ヲ押捺シタルヲ云フ(二六、六、二二)

官職氏名ヲ刻シ職務上使用スル印章ハ官印ナリ(二八、一一、四)  
村長及ヒ助役ノ職印ハ公署ノ印ナリ(二八、一一、五)

官印偽造罪ハ其印材ノ種類ニ拘ハラズ苟モ官署ノ印章ヲ模擬シ人ヲシテ官印ナリト  
信セシムヘキ程度ニ達スルヲ以テ足ル(二九、六、二九)

刑法第九十五條官署ノ印ニハ官吏ノ職印ヲ包含ス(三〇、六、一四)

他人ノ盜捺シタル官印ヲ使用シタル所爲ハ官印盗用罪トス(三一、七、四)

裁判所ノ應印ハ其如何ナル種類ヲ問ハス官署ノ印ナリ(三二、三、一七)

官印偽造罪ノ成立ニハ其偽造印カ真ニ模擬スルヲ必要トセス官署ノ印章トシテ人ヲ  
欺クニ足ルヲ以テ十分ナリトス(三三、三、一四)

郵便局ノ日附印ハ官印ナリ(三三、一〇、二〇)

官署ノ契印ハ官印ナリ(三四、一、一五)

公立工業學校書記ハ明治二十四年勅令第二百四十四號第二條、明治三十二年勅令第  
二十九號第二條第十八條ニ依リ判任官ト同一ノ待遇ヲ受クル官吏トス(三六、五、四)  
苟モ實在セル官署ノ印ナリトシテ人ヲ欺クニ足ルヘキモノヲ偽造スルトキハ眞印ノ  
存在スルト否トヲ論セス官印偽造罪トス(三八、二、二二)

官署公署ニ用ユル印願ハ假令官職氏名ヲ表示セサルモ官印ナリ(三九、一、二六)

第六十六條 行使ノ目的ヲ以テ公務所ノ記號ヲ偽造シタル者ハ三  
年以下ノ懲役ニ處ス

公務所ノ記號ヲ不正ニ使用シ又ハ偽造シタル公務所ノ記號ヲ使用  
シタル者亦同シ

本條ハ記號ヲ偽造又ハ使用シタルコトヲ規定ス

第一項 行使ノ目的ヲ以テ公務所ノ記號ヲ偽造シタルモノヲ罰ス其記號トハ其種類  
多ク又其製造材モ亦多シ烙印アリ木材印アリ銅印アリ而シテ彼ノ符號ノ如キ陸軍省  
ノ山形海軍省ノ錨ノ如キ郵便局ノ如キ警察署ノ如キ總テ之レ記號トス

第二項 本項ハ正當ノ記號ヲ不正ニ使用シ不正ノ記號ヲ正當ノモノニ用ヒタルモノ  
ナリ

現行刑法第九十六條ト同一ノ趣旨ナリ而シテ現行法ハ產物、商品等ニ用ユル記號ト書籍、什物等ニ用ユル記號トヲ區別スト雖モ其必要ナキノミナラス却テ解釋上混雜ヲ來タス虞アルヲ以テ改正法ハ此區別ヲ廢シ一般ニ記號偽造ノ罪ト爲シタルモノナリ而シテ偽造記號使用ノ罪ハ前二條ト同一ノ理由ニ基キ之ヲ刪除ス  
本條第二項前段ハ現行法第九十七條記號盜用ノ規定ト同シ後段ハ偽造シタル記號ヲ使用スルニ際シ文書ヲ偽造セサリシ場合ヲ規定スルモノニシテ記號偽造ト同シク之ヲ罰スルモノナリ

判決例

官ノ拂下木材ニ押ス極印ハ官ノ記號ナリ(二六、六、二二)  
山林ノ樹木ニ押用セル印章ハ記號ナリ(三六、二、三)  
官ノ記號印章タル形體ヲ存スル以上ハ寸法字體ノ眞正ヲ模擬セサルモ犯罪ハ成立ス(二九、二、二四)

第六十七條 行使ノ目的ヲ以テ他人ノ印章若クハ署名ヲ偽造シタル者ハ三年以下ノ懲役ニ處ス  
他人ノ印章若クハ署名ヲ不正ニ使用シ又ハ偽造シタル印章若クハ

署名ヲ使用シタル者亦同シ

本條ハ一私人ニ關スル印章、署名ヲ偽造シ使用シタル罪ヲ規定ス

第一項 行使ノ目的ヲ以テ他人ノ印章若クハ署名ヲ偽造シタルモノハ本項ニ依リテ罰スルモノトス

第二項 他人ノ印章若クハ署名ヲ盜用スルカ如ク不正ニ使用シタルモノ又ハ偽造ノ印章若クハ署名ヲ正當ノ使用ニ供シタルモノハ第一項ト同一ノ刑ニ處スヘシ

現行刑法第二百八條ト全ク同一ノ趣旨トス偽造私印ヲ使用シテ文書ヲ偽造シタルトキハ之ヲ文書偽造罪ト爲シタルカ爲メ之ニ關スル規定ヲ刪除シ又本條第二項後段ハ偽造シタル私印ヲ使用スルモ文書ハ偽造セサル場合ノ規定ナリトス

判決例

合意上預ケ置キタル實印ヲ承諾以外ニ押用シタルハ盜捺ナリ(二六、三、六)  
印影盜用罪ハ承諾ナキ場合モ包含ス故ニ所有者ノ目前ニ於テ押捺スルモ承諾以外ニ使用セハ刑法第二百八條第二項トス(二六、二、六)  
印章偽造ハ眞印ニ模スルヲ要セス第三者ヲシテ眞印ト信セシムレハ足レリ(二六、六、一〇)

白紙ニ押捺シアル印影カ何人ノ盜捺ニ係ルヲ知ラサルモ之ヲ利用セハ私印盜用罪トス(二七、一二、二五)

人ヲ欺キ白紙ニ押印セシメ押印者ノ目的以外ニ使用セハ私印盜用罪ヲ構成ス(二七、一二、二五)

白紙委任狀ヲ委任外ニ行用シタル所爲ハ印影盜用罪ナリ(三二、一、一七)

印主自ラ押捺シタル印影ト雖モ他人ニ於テ擅ニ之ヲ使用シタルトキハ印影盜用罪トス(三二、五、一)

印影ハ必ラス氏名ヲ表彰スルノ要ナシ相濟ト刻シタル印類モ調印ニ外ナラス(三二、六、二〇)

同氏名ナル甲乙丙者ノ存スルトキ甲印ヲ乙印トシテ濫用スル如キハ事實乙ノ印ニアラサレハ乙ノ盜用罪ヲ成立セサルハ勿論甲ノ名義ニ於テ濫用シタルモノニモアラサレハ甲ノ盜用罪モ不成立トス(三九、二、一二)

第百六十八條 第百六十四條第二項、第百六十五條第二項、第百六十六條第二項及ヒ前條第二項ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

本條ハ未遂罪ヲ罰スルコトヲ示ス

本條ハ未遂罪ヲ罰スヘキ必要アル個條ヲ規定シタリ而シテ偽造又ハ變造ノ未遂ヲ罰セサルハ其必要ナキカ爲メナリ

現行刑法第二百條ニ同シ只偽造及ヒ變造ノ未遂ヲ罪セサルノミ

### 第二十章 偽證ノ罪

本章ハ偽證ノ罪ヲ罰ス

元來民事刑事ヲ問ハス司法ノ職ハ社會生存上ニ於テ重要ナル機關ナリ故ニ裁判官ハ須ラク公平無私ヲ以テ裁判ヲ爲サ、ルヘカラス而シテ一私人ノ訴訟ニ關係スル者ハ公平ナル裁判ヲ爲サシムルカ爲メニ裁判官ヲシテ事實ノ真相ヲ知ラシムルノ義務ヲ負フモノタリ

然ルニ證人鑑定人又ハ通事ニシテ不實ノ陳述ヲ爲シ裁判ヲシテ誤ラシムルカ如キハ之ヲ罰セサルヘカラス之レ本罪ヲ設ケタル所以ナリ

現行刑法第二編第四章第六節ノ規定ヲ修正シタルモノトス

現行刑法ハ刑事ニ關スル證人ト民事商事又ハ行政裁判ニ關スル證人トヲ區別スト雖モ是畢竟偽證シタル刑事ノ證人ニ對シ科スヘキ刑ニ付キ詳細ナル區別ヲ爲シタル結果ニ過キス改正法ハ次項ニ説明スルカ如ク刑事ニ關スル證人ノ偽證ニ科スヘキ刑ヲ

變更シタルヲ以テ他ノ民事商事又ハ行政事件トヲ區別スル必要消滅シタリ是ヲ以テ司法裁判所ニ於テスルト行政裁判所ニ於テスルト又ハ特別裁判所ニ於テスルトヲ問ハス證人トシテ偽證シタル場合ニ關シ同一ノ規定ヲ設ケタルモノトス

現行法ハ刑事ニ關スル偽證ヲ分チ被告人ヲ曲庇スル目的ニ出タルモノト之ヲ陷害スル目的ニ出タルモノトニ區別シ其刑ヲ異ニシ又偽證ニ因リ被告人正當ノ刑ヲ免レタル場合ハ曲庇ノ刑ニ一等ヲ加重シ或ハ偽證ノ爲メ被告人刑ニ處セラレタル場合ニ在テハ反坐ノ刑ヲ科スル等罪ノ情狀ニ因リ細密ナル規定ヲ設クルモ爲メニ却テ適用上ノ不便ヲ來タシ疑義ヲ生スルコト少カラス改正法ハ此弊ヲ避ケンカ爲メ總テ此等ノ情狀ハ之ヲ裁判所ノ認定ニ一任シテ適宜ノ刑ヲ科セシメント期シ此等煩雜ナル規定ヲ除キタリ

現行法第二百二十五條ニ偽證ノ教唆ノ場合ヲ規定スルモ總則ニ讓リ之ヲ刪除シタリ

第六十九條 法律ニ依リ宣誓シタル證人虚偽ノ陳述ヲ爲シタルトキハ三月以上十年以下ノ懲役ニ處ス

【註】本條ハ證人ノ偽證シタル場合ヲ規定ス

證人トシテ證言ヲ爲ス場合ハ種々アリ即チ法律ヲ以テ之ヲ定ム彼ノ司法裁判所ニ於

テ民事刑事々件ニ付キ宣誓ノ上證言ヲ爲スカ如キ行政裁判所ニ於テ行政事件ニ付キ宣誓シテ證言ヲ爲スカ如キ懲戒裁判所ニ於テ官吏懲戒事件ニ付キ宣誓ノ上證言ヲ爲スカ如キ其他陸海軍裁判所等總テ法律上ニ依リテ證言スヘキ義務アル證人ハ裁判ノ公平ヲ保タシメンカ爲メニ虚偽ノ陳述ヲ爲スコトヲ得サルニ拘ハラヌ之ヲ爲スヲ罰スヘキモノトス

虚偽ノ陳述トハ眞實以外ニ附加シテ陳述シ又ハ全ク眞實ノ陳述ヲ爲サス等之ヲ包含セリ

現行刑法ハ其第二百十八條乃至第二百二十三條ニ規定シタルモノナルヲ合シテ修正ヲ加ヘタルモノナリ

改正法ハ刑事裁判所ニ限ラス他ノ裁判所ニ於テスル區別ヲ廢シ總テ之ヲ本條ニ定メ又刑事ノ偽證ニ付テモ詳細ナル規定ヲ廢棄シ總テ裁判所ヲシテ情狀ニ因リ刑ヲ定メシムルコト、爲シタリ而シテ本條ハ廣ク法律ニ依リト爲シタル故ニ司法裁判所行政裁判所又ハ其他ノ裁判所ノ命ニ因リ宣誓シテ證人ト爲リタル者カ虚偽ノ陳述ヲ爲シタル場合ノ規定ニシテ各種ノ情狀ヲ包含スル極メテ廣キ條文ナルヲ以テ其刑ノ範圍モ亦十分ニ之ヲ擴張シ裁判所ヲシテ自由ニ適宜ノ刑ヲ科セシムルコト、爲シタリ

判決例

苟モ偽證ヲナシタル以上ハ其罪直チニ成立ス之カ爲メ實害ヲ生シタルト否トハ此罪ノ成立ニ關セス(二九、一、一七)

證人タル資格ノ有無如何ニ拘ラス證人トシテ宣誓ノ上虚偽ノ陳述ヲナシタルトキハ偽證罪ヲ構成ス(三二、一〇、二四)

證人カ數回訊問ヲ受ケタル場合ト雖モ一回毎ニ調書ノ續聞ヲ受ケ其供述ヲ變更増減セサル意思ヲ表示シタルトキハ證人ノ供述ハ一回毎ニ確定シ其確定ト共ニ偽證罪ハ成立ス(三五、一〇、二〇)

偽證罪ハ被告人カ無罪ノ言渡ヲ受ケタルトキモ犯罪ハ成立ス(三七、二、九)

第一百七十條 前條ノ罪ヲ犯シタル者證言シタル事件ノ裁判確定前又

ハ懲戒處分前自白シタルトキハ其刑ヲ減輕又ハ免除スルコトヲ得

本條ハ偽證者ノ自白シタル場合ヲ示ス  
偽證ハ裁判ノ真相ヲ誤ラシムルモノナレハ可成眞實ノコトヲ吐露セシムル方法手段ヲ採ラサルヘカラス故ニ裁判ノ公平ト被告人タルモノ、害サレサル以上ハ之ヲ罰セサルモ可ナルヲ以テ本條ハ未タ民刑事々件ノ裁判確定セサル以前ニ於テ自白スルカ

懲戒裁判所ノ如キ其被告人カ懲戒處分ノ前ニ於テ自白スルトキハ其情狀ノ輕重ヲ別チ或ハ刑ヲ減輕シ或ハ刑ヲ免除スルコトヲ得セシムルモノトス

現行刑法第二百二十六條ト同一ニシテ少シク修正シタリ現行法ハ其事件ノ裁判宣告前自白スルトキニ本刑ヲ免スルコトヲ規定シタルモ改正法ハ其事件ノ裁判確定前又ハ懲戒處分前被告人カ偽證シタルコトヲ自白スレハ其刑ヲ減輕シ又ハ免除スルコトヲ得ト改メタリ是一方ニ於テハ自首ヲ自白トシタルヲ以テ刑ヲ減輕スヘキ場合ヲ多クシ又一方ニ於テハ自首以外ノ自白ニモ刑ヲ減輕スルヲ以テ其減輕ノ程度ヲ減却シタルモノナリ

判決例

刑法第二百二十六條ハ偽證罪ノ發覺セサル前其事件ノ裁判ニ至ラサル前ニ適用ス既ニ公訴提起後ニ自首シタル場合ハ適用セス(三〇、一一、五)

本條ノ自首ハ自白ヲ包含セス(三五、一〇、二〇)

第七十一條 法律ニ依リ宣誓シタル鑑定人又ハ通事虚偽ノ鑑定又ハ通譯ヲ爲シタルトキハ前二條ノ例ニ同シ

本條ハ鑑定人又ハ通事ノ場合ヲ規定ス



裁判ノ真相ヲ誤ルハ敢テ證人ノミニ限ラス鑑定人又ハ通事モ同一ナレハ前二條ニ之ヲ適用スルコトハ當然トス

現行刑法第二百二十四條ト同一趣旨トス

### 第二十一章 誣告ノ罪

本條ハ誣告ノ罪ヲ規定ス

夫レ誣告トハ處罰ノ目的ト爲ルヘキ非行ヲ爲シタリト僞ハリ告クルヲ云フ猶ホ讒訴ト云フカ如シ而シテ之ヲ罰スルハ誣告ノ爲メニ害ヲ被ムルモノアルヘク從テ人ノ信用ニ關スルヲ以テノ故ナリ

現行刑法ハ第三編第一章第十二節中ニ誣告ノ罪ノ規定アリ本章ハ之ヲ修正シタルノミニシテ現行法ハ行政上ノ懲戒處分ヲ受ケシムル爲メノ規定ヲ欠クヲ以テ之ヲ補ヒ又本罪ハ主トシテ信用ニ關スルモノナルヲ以テ身體ニ對スル部ヨリ之ヲ移シタリ

第七十二條 人ヲシテ刑事又ハ懲戒ノ處分ヲ受ケシムル目的ヲ以テ虚偽ノ申告ヲ爲シタル者ハ第六十九條ノ例ニ同シ

本條ハ誣告ノコトヲ規定ス

本條ニ於テハ人ヲシテ刑事又ハ懲戒ノ處分ヲ受ケシムル目的ヲ以テ事實ナキ虚偽ノ

申告ヲ爲スニアリ而シテ懲戒ノ處分ハ行政上ノ場合ヲ指ス又此申告ハ何レニ爲スヘキヤニ付テハ別ニ規定セサルモ必ラス處罰ノ權力ヲ有スル者ニ爲サ、ルヘカラス故ニ司法警察官又ハ檢事ニ申告ヲ爲スヲ以テ通例トシ又其方法ハ告訴トシ又ハ告發トシテ爲スモ可ナリトス別ニ一定ノ式アルニアラサルナリ

現行刑法第三百五十五條ト同一ニシテ修正ヲ加ヘタリ其處分モ僞證ノ罪ノ例ニ依リテ處斷スルコトハ現行法ニ同シ

判決例

誣告罪ハ單ニ誣告ヲナシタル事實ノミヲ以テ成立ス而シテ檢事之ヲ信シ起訴ノ手續ヲ爲シタルヤ否ヤハ本案判決ニ必要ナシ(二八、一〇、四)

誣告罪ハ他人ヲ陷害スル意思ヲ以テ官ニ誣告スル時ニ於テ成立ス從テ檢事ノ起訴スルト起訴前誣告者ヨリ取下ノ有無ハ犯罪ノ構成ニ關係セス(二九、九、二八)

誣告罪ハ被告人ノ外他ニ實行正犯アルコトナシ而シテ告訴人ト共謀シ其代人ト爲リ告訴狀ヲ提出シタル所爲ハ從犯ナリ(三〇、四、二三)(三〇、七、二)

告訴調書ノ效力如何ニ拘ハラヌ不實ノ事項ヲ官ニ申告シタル事實アレハ成立ス(三二、二、七)

一ノ告訴狀ヲ以テ二人ヲ誣告シタル所爲ハ二罪トス(三三、一一、五)(三七、六、一二)  
 誣告ノ手段方法ヲ限定セス不實ノ申告ヲナストキハ成立ス告訴ノ形式ニ依ルト否ト  
 自己ノ名ヲ以テスルト否トハ成立ニ何等ノ影響ナシ(三七、一一、二二)(三八、二、二八)  
**第七十三條** 前條ノ罪ヲ犯シタル者申告シタル事件ノ裁判確定前  
 又ハ懲戒處分前自白シタルトキハ其刑ヲ減輕又ハ免除スルコトヲ  
 得

本條ハ自白シタルトキノ場合ヲ定ム

本條ハ第七十條ト同一ノ精神ナリトス同條ヲ一讀シテ詳悉セヨ

現行刑法第二百五十六條ヲ修正シタル條ナリ其自首ヲ自白ト改メ本刑ヲ免ヌヲ刑ヲ減  
 輕又ハ免除スルコトヲ得ト改メタルノミ

判決例

誣告罪ノ公訴提起アリタル以上ハ事發覺後ナルヲ以テ被誣告人ノ推問ヲ始メタルト  
 否トヲ問ハス刑法第三百五十六條ニ規定シタル自首ノ效ナシ(三一、九、二六)

**第二十二章 猥褻姦淫及ヒ重婚ノ罪**

本章ハ猥褻姦淫及ヒ重婚ノ罪ヲ規定ス

猥褻トハ淫事即チ男女ノ結合、姦姦、獸姦、手淫等見ルニ堪ヘサル醜行ヲ云フ例ヘ  
 ハ婦人ノ裾ヲ捲クルカ如キモ亦猥褻ノ行爲ナリ

姦淫トハ男女異性ノ結合、姦姦、獸姦、手淫等ノ淫事ナリ

重婚トハ婚姻シタルモノカ重テ婚姻ヲ爲スモノナリ

以上ハ何レモ風俗ヲ害スルモノニシテ社會ノ公德ヲ破壞ス故ニ之ヲ罰ス

現行刑法ハ第三編第一章第十一節及ヒ第二編第六章中ノ第二百五十八條及ヒ第二百五  
 十九條ニ於テ規定シタルモノナルヲ以テ之ヲ合シテ一章トシタリ

**第七十四條 公然猥褻ノ行爲ヲ爲シタル者ハ科料ニ處ス**

本條ハ公然猥褻ノ行爲ヲ罰スルモノトス

猥褻トハ已ニ説明シタルカ如ク淫事ニ關シ見ルニ堪ヘサルコトヲ云フ而シテ果シテ  
 猥褻ノ行爲ナルヤ否ヤハ行爲當時ニ於ケル一般ノ慣習ヲ標準トセサルヘカラサル法  
 律ノ問題ナリ蓋シ昨ハ猥褻ト看做シタル行爲モ今ハ之ヲ普通トスルコトアルヘク所  
 謂吾人ノ道義觀念ハ時ト場所トニ依リテ變轉推移スルモノナレハナリ  
 而シテ猥褻ノ行爲タル本來不正タルヘキヲ要セス故ニ私カニ爲ストキハ正當ノモノ  
 タルヘキ夫婦間ノ行爲モ公然タルニ於テハ不問ニ付スルコト能ハサルヘシ

公然トハ公ノ場所又ハ公衆ノ目ニ觸ルヘキ場所ノ義ナリ故ニ道路、公園等公衆ノ自由ニ往來スヘキ場所ハ勿論假令自宅ノ一室又ハ庭内ト雖モ現ニ他人ノ面前ニ於テ若クハ往來又ハ隣家ヨリ他人ノ目撃スルコトヲ得ヘキ場所ニ於テスルモノハ皆公然トス之ヲ延ヒテ汽車、汽船、乗合馬車内等モ亦公然ノ場所ナリ  
淫事ニ關スルコトハ必ラス淫事ソレ自身ハ不徳ノ行爲ニアラサルカ故ニ私カニ之ヲ爲スニ於テハ或ハ正當若クハ少クトモ法律ノ問フ所ニアラス公然之ヲ爲スニ於テ一般ノ公德ヲ害スルニ至レハナリ

現行刑法第二百五十八條ト同一トス現行法ハ之ヲ罰金ニ處スルモ本條ハ之ヲ科料ニ處スト改メタリ然レトモ其金額ニ於テハ事實上大差ナキモノトス

**第一百七十五條 猥褻ノ文書、圖畫其他ノ物ヲ頒布若クハ販賣シ又ハ公然之ヲ陳列シタル者ハ五百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス販賣ノ目的ヲ以テ之ヲ所持シタル者亦同シ**

本條ハ猥褻ノ文書、圖畫ヲ頒布販賣陳列所持スル場合ヲ規定ス

本條ハ猥褻ノ文書、圖畫トハ彼ノ春畫ノ如ク又其他ノ物トハ陰莖陰門ノ形ヲ造リタル物ヲ云フ其物ヲ

- 一 頒布若クハ販賣シタルトキ
- 二 公然陳列シタルトキ
- 三 販賣ノ目的ヲ以テ所持シタルトキ

此三場合ニ於テハ風俗ヲ害シ公德ヲ破ルモノナリ

現行刑法第二百五十八條ト同一トス其修正セシハ新ニ頒布ナル文字ヲ加ヘ公然販賣スル外廣ク公衆ニ分ツコトヲ禁シ又販賣シタル者云々トアリテ販賣セサレハ罰セスト雖モ將ニ販賣セントシタルトキモ亦之ヲ罰スル必要アリ故ニ前段第三號ノ場合ヲ加ヘタルモノトス

**第一百七十六條 十三歳以上ノ男女ニ對シ暴行又ハ脅迫ヲ以テ猥褻ノ行爲ヲ爲シタル者ハ六月以上七年以下ノ懲役ニ處ス十三歳ニ滿タサル男女ニ對シ猥褻ノ行爲ヲ爲シタル者亦同シ**

本條ハ十三歳以上以下ノ男女ニ對スル猥褻行爲ニ付テ規定ス

十三歳以上ノ男女ノモノニ對シテ暴行又ハ脅迫シ以テ猥褻ノ行爲ヲナシタル者ハ之カ身體ニ損害ヲ加フルノミナラス實ニ公德ニ反スルヲ以テ前段ノ如ク之ヲ罰スルモノトス其十三歳未滿ノ男女ノ如キハ未タ身分十分發育セス淫事ノ何タルコトヲ知ラ

サルモノニシテ暴行脅迫ヲ加ヘサルモ損害ヲ生セシムルヲ以テ是亦後段ノ如ク同刑ニ處スヘキモノトス

現行刑法第三百四十六條ト同一トシ年齢ハ發育ニ關シ十三歳ト改メタルノミ

第七十七條 暴行又ハ脅迫ヲ以テ十三歳以上ノ婦女ヲ姦淫シタル者ハ強姦ノ罪ト爲シ二年以上ノ有期懲役ニ處ス十三歳ニ滿タサル婦女ヲ姦淫シタル者亦同シ

本條ハ強姦罪ヲ規定ス

強姦トハ暴行脅迫ヲ用ヒテ被害者ノ抵抗力ヲ失ハシメ因テ不正ナル男女兩性ノ交接ヲ爲スヲ云フ故ニ被害者ハ必ラス婦女ナラサルヘカラス又不正ナラサルヘカラス故ニ妻ニ對シテハ本罪成立セサルモノナリ又必ラス暴行脅迫ヲ用ヒサルヘカラス而シテ十三歳以上ノ婦人ニ限リシモ其十三歳以下ナル婦女ナルトキ其暴行脅迫ヲ用ヒサルモ亦強姦ノ罪トシテ罰スルモノトス之レ前條ニモ述ヘタルカ如ク身體ノ發育カ不十分ナルヲ以テ損害ヲ生スルコト多ケレハナリ

現行刑法第三百四十八條及ヒ第三百四十九條ヲ合シテ修正シタリ而シテ其趣旨トスル所ハ同一ナリ

第七十八條 人ノ心神喪失若クハ抗拒不能ニ乘シ又ハ之ヲシテ心神ヲ喪失セシメ若クハ抗拒不能ナラシメテ猥褻ノ行爲ヲ爲シ又ハ姦淫シタル者ハ前二條ノ例ニ同シ

本條ハ心神喪失、抗拒不能ノ場合ニ猥褻又ハ姦淫シタル者ヲ罰スル規定トス

本條ハ

- 一 人ノ心神喪失若クハ抗拒不能ニ乘シ猥褻ノ行爲ヲ爲シ又ハ姦淫シタル者
- 二 人ヲシテ心神ヲ喪失セシメ若クハ抗拒不能ナラシメテ猥褻ノ行爲ヲ爲シ又ハ姦淫シタル者

ノ二個ノ場合ニアリトス而シテ「一」ハ猥褻ノ行爲ヲ爲スモノ又ハ姦淫シタル者カ主働的ニ爲シタルニアラスシテ彼ノ心神喪失若クハ抗拒不能ニ乘シテ爲スモノニシテ例令ハ白痴者ニ對シ又ハ藥酒ニ依リテ昏睡シタルモノニ對シテ行ヒ「二」ハ主働的ニ自ラ進ンテ目的ヲ達センカ爲メニ藥酒其他ノ方法手段ヲ以テ心神ヲ喪失セシメ若クハ抗拒スルコト能ハサラシメ以テ猥褻ノ行爲ヲナシ又ハ姦淫シタルモノナリトス

現行刑法ハ第三百四十八條第二項ニ於テ之ヲ規定シタリ其趣旨ハ同一トス

第七十九條 前三條ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

本條ハ未遂罪ヲ罰スルコトヲ規定ス

本條ハ之ヲ未發ニ防クカ爲メニ未遂罪ヲ以テ罰ス

第一百八十條 前四條ノ罪ハ告訴ヲ待テ之ヲ論ス

本條ハ親告罪ノコトヲ規定ス

第七十六條乃至第七十九條ノ各犯罪ハ被害者ノ告訴ヲ待テ之ヲ論スルモノトス  
元來各犯罪ハ被害者ノ節操榮辱ニ關スルモノニシテ之ヲ發クトキハ却テ被害者ノ迷  
惑ヲ來タスヲ恐ル故ニ親告罪ト爲シタルモノトス

現行刑法第三百五十條ト同一トス但シ現行法ハ被害者又ハ親屬ノ告訴ヲ待ツコト、爲  
スト雖モ改正法ハ之ヲ改メ單ニ告訴ヲ待テ其罪ヲ論ストシタリ而シテ其告訴ヲ爲ス  
權利ヲ有スルモノハ何人ナルヤハ刑事訴訟法及ヒ民法ノ規定スル所ナレハ之ヲ明記  
セサルモノナリ併シ何レニ於テモ被害者ハ勿論其法定代理人タル父母又ハ後見人ナ  
リト知ルヘシ

判決例

凡ソ姦淫罪ニ於テハ被害者又ハ其親屬ノ告訴ヲ待テ其罪ヲ論スル所以ナルハ其事タ  
ル被害者ノ榮辱ニ關スルカ爲メニ外ナラス然レトモ其姦淫ヲ致スニ依リ致傷等ノ如

キ親告ヲ要セサル他罪ヲ併發スルニ至リテハ其之ヲ論スルカ爲メ原因タル姦淫ノ事  
實ハ自ラ表白セラレサルヲ得ス故ニ併發罪ト共ニ姦淫ヲモ親告ヲ待タス論スヘキヲ  
相當トス(二八、一、二二)

強姦ヲ爲スニ因テ人ヲ創傷セシメタル所爲ハ親告罪ニアラス告訴ノ拋棄ヲ以テ公訴  
權ヲ消滅セス(二九、三、三三)(三〇、三、二)(三二、二、一六)(三四、二、八)

第一百八十一條 第七十七條乃至第一百八十條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死  
傷ニ致シタル者ハ無期又ハ三年以上ノ懲役ニ處ス

本條ハ死傷シタルトキノ場合ヲ規定ス

各本條ニ記載スル猥褻、強姦ノ罪ニ因テ被害者ヲシテ創傷ヲ負ハシメ又ハ死ニ致シ  
タルトキハ重刑ヲ科セサルヘカラス

現行刑法第三百五十一條ト同一ナレトモ大ニ修正シタリ現行法ハ本章ノ罪ヲ犯シ強姦  
以外ノ行爲ニ因リ人ヲ死傷ニ致シタルトキハ毆打創傷罪ニ比シ重キニ從テ處斷シ強  
姦ニ因リ人ヲ死傷ニ致シタルトキハ特ニ刑ヲ設ケタリ改正法ハ強姦ニ依ルト否トヲ  
區別セス死傷ニ致シタルトキハ特ニ刑ヲ設ケタリ之レ通常ノ傷害罪ヨリ情狀重キモ  
ノアルヲ以テナリ

第二百九十四  
第百八十二條 營利ノ目的ヲ以テ淫行ノ常習ナキ婦女ヲ勸誘シテ姦淫セシメタル者ハ三年以下ノ懲役又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

【釋】本條ハ淫行ヲ勸誘シ媒合シタル場合ヲ規定ス

本條ニ於テ婦女ヲ勸誘シテ姦淫セシメタル媒合者ヲ罰スルモノトス而シテ其媒合者ハ必ラス營利ノ目的ヲ以テシ且其婦女ハ淫行ノ常習ナキモノニ限ル蓋シ營利ノ目的ニアラス單ニ口次ヲ爲シ野合セシメタルカ如キハ別ニ害ナシ又淫行ノ常習アル婦女即チ淫賣婦ノ如キハ之レ自身已ニ之ヲ承諾シ媒合者ニ依リテ利ヲ得ルモノニシテ之ヲ保護スル必要ナシ只法律ハ平生斯ノ如キ不品行ニアラサルモノニ對シテ淫行ヲ勸ムルヲ以テ公徳ヲ害シ貞淑ヲ亂ルニ依リ其媒合者ヲ罰スルニアリトス

現行刑法第三百五十二條ニ修正ヲ加ヘタルモノニシテ現行法ハ十六歲未滿ノ男女ノ淫行ノ勸誘媒合ヲ處罰スルモ其廣キニ失スルヲ以テ改正法ハ之ヲ改メタリ是レ營利ノ目的ニ出テタルモノニ非サレハ罪トスル必要ナク又男子ハ婦女ニ比シ之ヲ保護スヘキ必要少ナク且婦女モ平生品行善良ニシテ淫行ノ常習ナキ者ノミヲ保護スレハ足ルカ故ナリ

第百八十三條 有夫ノ婦女姦通シタルトキハ二年以下ノ懲役ニ處ス其

相姦シタル者亦同シ

前項ノ罪ハ本夫ノ告訴ヲ待テ之ヲ論ス但本夫姦通ヲ縱容シタルトキハ告訴ノ效ナシ

【釋】本條ハ姦通罪ヲ規定シタリ

第一項 有夫ノ婦本夫以外ノ男子ニ通スルトキハ其姦婦姦夫ハ共ニ本項ノ如ク處罰スルニアリ而シテ有夫婦トハ正當ノ婚姻ヲ爲シタル夫婦ヲ云フ正當ノ婚姻トハ民法ニ依リ婚姻ヲ爲シ戸籍法ニ依リテ身分登記簿ニ登錄セラレタル場合ヲ云フ其他ノ場合ニ於テハ法律ハ夫婦ト看做サ、ルヲ以テ從テ其婦ハ有夫ニアラサルナリ

姦通トハ其程度如何ニ付テ大ニ議論アリシモ男子女子何レカ情慾ヲ遂ケタルトキヲ以テ既遂ナリト云フカ多數ノ說トス

第二項 本條ノ罪ハ告訴ヲ必要トス之レ他ノ親告罪ト同シク之ヲ發キ却テ一家ノ不名譽ヲ來タスヲ恐ル、カ故ナリ尤トモ夫ニ於テ縱容シタルトキハ告訴ノ效ナシ之レ姦通其モノニ付テ許容シタルニ依レハナリ左レハ此場合ニ於テ一方ノ姦夫ニ付テハ確定ヲ要セサルモノトス

現行刑法第三百五十三條ト同一トス

判決例

姦通者ノ一方死亡スルモ残りノ一人ハ其罪體ナレハ公訴權消滅セス乃チ姦通罪ハ二者相須テ一罪ヲ構成スト云フモ其罪ノ成否ハ必ラスシモ二人ノ同存ヲ要セス(二五、二、四)

第百八十四條 配偶者アル者重ネテ婚姻ヲ爲シタルトキハ二年以下ノ懲役ニ處ス其相婚シタル者亦同シ

本條ハ重婚ノ罪ヲ定ム

配偶者アルモノ重テ婚姻シタルトキハ双方トモ本條ニ依リテ罰スヘキモノトス而シテ此場合モ亦配偶者アルモノハ已ニ婚姻シタルモノナラサルヘカラス然ラサレハ法律上配偶者アリト云フヲ得サレハナリ故ニ假令前婚カ分離シタリト雖モ未タ身分登記簿上ニ於テ離婚ノ登記ナキ以上ハ配偶者タルコトハ依然タリ  
現行刑法第三百五十四條ト同一トス

第二十三章 賭博及ヒ富籤ニ關スル罪

本章ハ賭博及ヒ富籤ニ關スル罪ヲ定ム

賭博トハ偶然ノ輸贏ニ關シ財物ヲ以テ博戲又ハ賭事ヲ爲スヲ云ヒ富籤トハ二人以上

ノ者ノ財物ヲ醜集シテ財團ヲ作り更ニ抽籤ノ方法ニ依リテ財團ノ全部又ハ一部ヲ不平等ニ出資者ニ分配シ依テ或ル者ハ利益ヲ僥倖シ或ル者ハ損失ヲ受クルコトヲ云フ

抑モ勞ヲ厭ヒ逸ヲ希フハ人生ノ常ナリ故ニ一朝賭博又ハ富籤ヲ公許センカ或ル一部ノ人民ハ之ヲ爲メニ生業ヲ抛テテ游惰ニ流 國家ハ終ニ貧弱ト爲ルノ恐レアリ故ニ刑法ハ之ヲ罰シ以テ斯ノ如キ弊ナキヲ期シ風俗ヲシテ紊亂セシメサルニ外ナラス  
現行刑法第二編第六章中ニ此類ノ犯罪ヲ規定シタリシカ之ヲ修正セリ

改正法ハ賭博ニ關スル規定ヲ改メ常習トシテ之ヲ爲ス者ト否ラサル者トヲ分チ常習ト爲ササル者ニ付テハ情狀ニ因リ罰金ヲ科スルコトヲ得ルモノト爲シタリ蓋シ常習ト爲サ、ルモノニ付テハ其犯情ノ稍憐愍スヘキモノアリトス

現行法第二百六十一條本文ノ後段ハ總則從犯ノ規定ヲ適用スルコト、爲シ之ヲ刪除シ同條第二項モ亦必要ナキヲ以テ之ヲ刪除セリ

現行法ハ富籤ニ付キ唯其興行者ニ關スル規定ノミヲ設ク其他ハ之ヲ特別法ノ規定ニ讓リタルヲ以テ不便少カラス故ニ改正法ハ富籤ノ取次又ハ購買ニ關スル規定ヲ新設シタリ

第二百八十五條 偶然ノ輸贏ニ關シ財物ヲ以テ博戲又ハ賭事ヲ爲シタル者ハ千圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス但一時ノ娛樂ニ供スル物ヲ賭シタル者ハ此限ニ在ラス

本條ハ賭博罪ヲ規定ス

偶然ノ輸贏ニ關シ財物ヲ以テ博戲又ハ賭事ヲ爲シタルモノハ即チ博奕ヲ爲シタルモノナレハ千圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處スヘキモノトス  
元來博戲トハ二人若クハ二人以上ノ者カ或ル遊戲ニ從事シ勝者ニ一定ノ金錢若クハ有價物ヲ支拂フヲ云ヒ賭事トハ或ル事柄ノ判斷ニ就テ意見ヲ異ニシタル者カ約シテ勝者ニ一定ノ金錢若クハ物品ヲ贈ルヲ云フ斯ノ如クシテ偶然ノ輸贏ニ關シタルニ依リテ成ルモノトス

現行刑法第二百六十一條ヲ修正シタルモノトス現行法ハ單ニ博奕ヲ爲シタル者ハ云々ト規定スルヲ以テ解釋上疑義ヲ生スルコトナキニアラス茲ヲ以テ改正法ハ詳シク之ヲ規定シ偶然云々ト改メタリ次ニ現行法ハ現ニトアリテ發覺ノ當時現ニ博奕ヲ爲スニアラサレハ罪ト爲ラストハ解釋行ハレ極メテ不便ヲ感シタリシカ改正法ハ現ニノ二文字ヲ削リ此弊ヲ矯メ又但書ニ於テ飲食物ヲ賭スル者ハ此限ニアラストシタルカ

爲メ遂ニハ飲食物ヲ以テ金錢ニ代用スルコト行ハル、ニ至レリ是ヲ以テ改正法ハ此點ヲ改メ一時ノ娛樂ニ供スル物ヲ賭シタル者ハ此限ニ在ラスト規定シ飲食物ト雖モ金錢ニ代用シタル場合ノ如キハ之ヲ罰シ飲食物ニ非スト雖モ單ニ娛樂ニ供スル物ナルトキハ之ヲ罰セサルコト、爲シ其認定ハ裁判官ニ一任シタリ

判決例

金錢ヲ賭シ米穀取引所ノ相場ノ昂低ヲ標準トシテ勝敗ヲ決シタル所爲ハ賭博罪ヲ構成ス(三二一、一一、二二)

第二百八十六條 常習トシテ博戲又ハ賭事ヲ爲シタル者ハ三年以下ノ懲役ニ處ス

賭博場ヲ開張シ又ハ博徒ヲ結合シテ利ヲ圖リタル者ハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス

本條ハ常習ノ博徒及ヒ賭場開張者等ニ付テ規定ス

第一項 博戲又ハ賭事ヲ以テ常習トスル者ノ如キハ良民ヲ陷イレ風俗ヲ害スルニ至ルヲ以テ體刑ニ處スヘキモノトス

第二項 賭博場ヲ開張シ又ハ博徒ヲ結合シテ利ヲ圖ルカ如キハ最モ不良ノ徒ニシテ



爲メニ犯罪者ノ集合所ト爲リ延ヒテ他ノ犯罪ヲ爲ス原因トナル故ニ第一項ヨリ重ク罰セサルヘカラス

現行刑法第二百六十條第二百六十一條ヲ合シテ修正シタルモノニシテ現行法ハ常習トシテ賭博ヲ爲ス者ト否ラサル者トヲ區別セスト雖モ改正法ハ之ヲ區別シ第一項ノ如ク規定ス其第二項ハ第二百六十條ト全ク同一トス

判決例

賭場ヲ開張シテ利ヲ圖リ又ハ博徒ヲ招集シタル所爲ハ其行爲カ一回タルト常行タルトニ因リ差異ヲ生スヘキモノニアラス(三三二、一二、二四)

賭博ヲ舉行シテ利ヲ圖ルノ目的ヲ以テ賭人ヲ募集シ金錢ヲ賭セシメタル以上ハ未ダ賭博ノ勝敗ヲ決スルニ至ラサルモ賭場開張罪ヲ構成ス(三四、二、一)

チーパート稱スル賭場開張ノ所爲ナリト判示シチーパートノ何タルヤヲ明示セサルハ不法ナリ(三五、二、一〇)

利ヲ圖リトハ利益ヲ取得スルノ企圖アルコトヲ要スルノミニシテ已ニ利益ヲ取得シタルコトヲ要スルノ趣旨ニアラス(三五、五、一五)

チーパート稱スル賭博ノ賭金及ヒ紙札ヲ其胴元ニ運搬中逮捕セラレタル事實ハ賭博

實行中其犯罪ノ發覺シタルモノニシテ現行犯ナリ(三六、五、二二)

一定ノ場所ニ他人ヲ招集シ博奕ヲナスノ便ヲ與ヘ以テ利益ヲ圖リタル所爲ハ開張罪ヲ構成ス(三八、二、二八)

第百八十七條 富籤ヲ發賣シタル者ハ二年以下ノ懲役又ハ三千圓以下ノ罰金ニ處ス

富籤發賣ノ取次ヲ爲シタル者ハ一年以下ノ懲役又ハ二千圓以下ノ罰金ニ處ス

前二項ノ外富籤ヲ授受シタル者ハ二百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

註 本條ハ富籤ニ付テ規定ス

第一項 富籤ヲ發賣シタルモノハ二年以下ノ懲役又ハ三千圓以下ノ罰金ニ處スルモノトス

第二項 富籤ノ取次ヲ爲シタル者ハ富籤ヲ發賣スルニ付キ加功シタルモノニシテ第一項ノ發賣者ヨリ情輕シ從テ一年以下ノ懲役又ハ二千圓以下ノ罰金ニ處スルナリ

第三項 富籤ヲ授受シタル者ハ其原因ノ如何ヲ問ハス單ニ授受シタルニ依リテ成立シ三百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處スヘキモノトス即チ富籤ヲ買取リタルモノハ本項ニ依リテ責ヲ免ル、コトヲ得サルニアリ

現行刑法第二百六十二條ト同一ノ趣旨ニシテ文字ヲ修正シタルノミ而シテ明治十五年第二十五號布告ヲ參酌シテ本條ヲ修正セリ  
判決例

富籤トハ財物ヲ醜集シ抽籤ニ依リ當籤者ニ利益ヲ與フヘキ犯罪ナリ(三三、一、二五)(三三、一一、三二)

### 第二十四章 禮拜所及ヒ墳墓ニ關スル罪

本章ハ神佛ノ禮拜所及ヒ墳墓ニ關スル罪ヲ定ム

神佛ノ禮拜所ハ人々尊敬スヘキ所ナリ之ニ對シテ不敬ノ行爲アルトキハ人々ノ信仰ヲ妨害シ信教自由ノ憲法ノ保障ヲ妨クルヲ以テ之ヲ罰シ又墓所ノ如キハ祖先以降ニテ祀リ尊崇スル所ナリ之ヲ發掘スル等古昔ヨリノ美風ヲ傷ク故ニ之ヲモ罰スルニ

現行刑法第二百六十三條及ヒ第二編第七章ヲ合シテ之ヲ修正シタルナリ

第一百八十八條 神祠、佛堂、墓所其他禮拜所ニ對シ公然不敬ノ行爲アリタル者ハ六月以下ノ懲役若クハ禁錮又ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス

説教、禮拜又ハ葬式ヲ妨害シタル者ハ一年以下ノ懲役若クハ禁錮又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

本條ハ神佛墓所其他ノ禮拜所ニ對スル不敬及ヒ説教禮拜葬式ヲ妨害スル罪ヲ定ム

第一項 神祠、佛堂、墓所其他禮拜所ニ對シテ公然不敬ノ行爲ヲ爲スモノヲ罰ス元來是等ノ人々カ禮拜スヘキ場所ハ尊嚴又ハ功德ヲ汚瀆セラルヘキ目的物ノ所在ヲ示スト同時ニ犯罪ヲ行フヘキ場所ナリ故ニ此場所ニ對シテハ相當ノ尊嚴ヲ爲サ、ルヘカラス然ルニ公然尊嚴又ハ功德ヲ汚瀆スヘキ行爲ヲ爲スニアレハナリ

第二項 信教ノ自由ハ憲法之ヲ保障ス然ルニ之ヲ妨害スルハ恰モ憲法ノ保障ヲ妨クニアリ例ヘハ喧囂騷擾シテ聽聞ヲ妨ケ禮拜者ヲ抑留シ又ハ葬式ノ通行若クハ儀式ヲ妨クカ如シ

現行刑法第二百六十三條ト同一トス唯現行法ハ少シク輕ク又第二項ニ葬式ヲ加ヘタル

ハ不備ヲ補ヒシカ爲メナリ

第三百八十九條 墳墓ヲ發掘シタル者ハ二年以下ノ懲役ニ處ス

註 本條ハ墳墓ヲ發掘スル罪ヲ定ム

墳墓ハ死屍ノ埋葬シタル所ナリ之ヲ發掘スルハ死屍ニ對シ道義ニ背キ又宗教ノ感情ヲ害ス故ニ之ヲ罰スヘキモノトス尤トモ職務上之ヲ發掘スルハ法令ノ命スル所ナレハ決シテ犯罪トナラス彼ノ豫審判事カ墳墓ヲ發掘シテ死屍ヲ檢證スルカ如シ現行刑法第二百六十五條第一項中ニアルモノト同シ唯墳墓發掘ヲ爲シタルノミヲ罰シ他ハ他ノ條ニ移シタリ

判決例

何人ト雖モ墳墓ハ尊敬スヘキモノナリ故ニ改葬ノ如キハ固ヨリ其尊敬ヲ失ハサルヲ以テ其罪構成セスト雖モ其他墳墓ヲ發掘スルカ如キハ法律上止ムヲ得サル場合ノ外死屍ノ實兄竝ニ妻及ヒ相續人一同ノ承諾ヲ得タリトスルモ刑法第二百六十五條ノ犯罪ヲ構成ス(二七、一〇、八)

第三百九十條 死體、遺骨、遺髮又ハ棺内ニ藏置シタル物ヲ損壞、遺棄又ハ領得シタル者ハ三年以下ノ懲役ニ處ス

註 本條ハ死體等ヲ損壞遺棄又ハ領得スル場合ヲ規定ス

死體、遺骨、遺髮ヲ損壞、遺棄又ハ領得スルハ勿論棺内ニ藏メアル所ノ衣類道具等ヲ損壞シ遺棄シ又ハ領得即チ無權原ノ取得ヲ爲シタルモノハ本條ニ於テ罰スヘキモノトス蓋シ道義ニ反シ宗教的感情ヲ害シ以テ風俗ヲ害スルニアリトス現行刑法第二百六十四條及ヒ第二百六十五條第二項ト同一ニシテ之ヲ修正シタルモノトス現行法ハ唯死屍ニ付テノミ規定ヲ設クルモ改正法ハ遺骨、遺髮其他棺内ニ藏置シタル物ヲ加ヘ又毀棄ヲ改メテ損壞、遺棄又ハ領得ト爲シ其不備ヲ補ヒタリ又現行法ハ埋葬スヘキ死屍トアルモ死體若クハ遺骨ハ埋葬スヘキモノト否トテ區別セス依テ之ヲ刪除シタリ

判決例

土葬火葬ニ論ナク現ニ在ル遺骸ヲ死屍トス(二七、九、二五)

第三百九十一條 第三百八十九條ノ罪ヲ犯シ死體、遺骨、遺髮又ハ棺内ニ藏置シタル物ヲ損壞、遺棄又ハ領得シタル者ハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス

註 本條ハ第三百八十九條ニ牽聯セル罪ヲ規定シタリ

墳墓ヲ發掘シテ死體、遺骨、遺髮又ハ棺内ニ藏置シタル物ヲ損壞、遺棄又ハ領得シタル者ハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處スヘキモノトス  
現行刑法第二百六十五條ト同一ノ趣旨ニシテ其不備ヲ補ヒタルノミ

第九十二條 檢視ヲ經スシテ變死者ヲ葬リタル者ハ五十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

註 本條ハ變死者ヲ葬ルヘキ場合ノ規定トス

變死者アルトキハ警察官ニ於テ之ヲ檢視シ以テ傳染病ノ爲メ又ハ犯罪行爲ノ爲メニ死シタルニハアラサルヤ否ヲ取調ヘタル上ニアラサレハ葬ムルコトヲ許サス然ルニ之ヲ葬ムルモノハ制裁ヲ加ヘ以テ豫防セサルヘカラス

現行刑法ハ本條ノ場合ヲ欠キタレハ之ヲ補ヒタルモノトス

### 第二十五章 瀆職ノ罪

註 本章ハ瀆職ノ罪ヲ規定ス

瀆職トハ公務員カ自己ノ職務ヲ汚瀆スルヲ云フ而シテ犯罪ハ公務員タル資格ニ依リテ發生スルモノト否ラサルモノトアリ其公務員タル資格ニヨリテ發生スルモノニ付テハ常人ノ犯シタル場合ヲ適用スルコトヲ得ス故ニ特ニ本章ヲ設ケタル所以ナリ

現行刑法ハ第二編第九章第二節ニ之ヲ規定シタルヲ修正シタルモノナリ

現行法ハ唯官吏ノ職務ニ關シテノミ規定ヲ設ケタルヲ以テ其範圍極メテ狹ク實際上不便少ナカラス故ニ改正法ハ之ヲ改メ廣ク公務員ノ瀆職ニ關スル規定ヲ設ケ以テ範圍ヲ廣ク爲シタリ

現行法第二百七十七條第二百七十九條及ヒ第二百八十三條ハ共ニ他ノ特別法ニ規定スヘキモノト爲シ之ヲ删除ス

現行法ハ賄賂ヲ贈與シタル罪及ヒ公務員ノ職務上ノ祕事ヲ漏泄スル罪ノ規定ナシト雖モ實際上其必要ヲ感スルヲ以テ改正法ハ新タニ之ニ關スル規定ヲ設ケタルモノトス

第九十三條 公務員其職權ヲ濫用シ人ヲシテ義務ナキ事ヲ行ハシメ又ハ行フ可キ權利ヲ妨害シタルトキハ六月以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

註 本條ハ職務濫用ノ場合ヲ規定ス

公務員カ自己ノ職權ヲ濫用シ人民ヲシテ義務ナキコトヲ行ハシメ又ハ人民カ當然行フヘキ權利ヲ妨ケ行ハシメサルモノトス例ハ府縣知事カ強テ人民ヲシテ自己ノ出

入ヲ送迎セシムルカ如キ町村吏カ村民ヲシテ自己ノ邸宅ヲ掃除セシメ又ハ市吏カ人  
民ノ往來スル道路ニ繩張ヲシテ通行自由ヲ妨ケタルカ如キ類ニシテ多クアリトス  
現行刑法第二百七十六條ト同一ノ趣旨ニシテ官吏ヲ廣ク公務員トシタルノミ

第百九十四條 裁判、檢察、警察ノ職務ヲ行ヒ又ハ之ヲ補助スル者  
其職權ヲ濫用シ人ヲ逮捕又ハ監禁シタルトキハ六月以上七年以下  
ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

註 本條ハ不法逮捕及ヒ監禁ノ罪ヲ規定ス

人ノ自由ハ擅ニ侵害セラル、コトナキハ帝國憲法ノ保障スル所ナリ然ルニ裁判官  
察官又ハ警察官等又ハ巡查憲兵卒ノ如キ其職務ヲ補助スル者ニ於テ法令ニ依ラスシ  
テ濫リニ人ヲ逮捕シ又ハ監禁スルハ實ニ憲法ノ保障ヲ無視スルモノナレハ之ヲ罰ス  
ルニアリ

逮捕トハ單ニ來往去就ノ自由ヲ剝奪スルノ義ニシテ監禁トハ之ヲ剝奪シテ一定ノ場  
所ニ多少ノ時間留置スルヲ云フ

現行刑法第二百七十八條ト同一ニシテ之ヲ修正ス現行法ハ逮捕官吏カ不法ニ人ヲ逮捕  
又ハ監禁シタル場合ヲ規定スルヲ以テ改正法ハ其趣旨ヲ擴張シ廣ク裁判、檢察、警

察ノ職務ヲ行フ者又ハ其補助者カ職權ヲ濫用シ不法ニ人ヲ逮捕又ハ監禁シタル場合  
ノ規定ヲ設ケタリ又監禁ニ付テハ日數ヲ制限シ加等スルノ主義ヲ採ルモ事細密ニ涉  
リ實益少ナキヲ以テ本法ハ之ヲ改メ刑ノ範圍ヲ廣クシ裁判官ヲシテ情狀ニ適ヒ以テ  
相當ノ刑ヲ科セシムルニアリ

第百九十五條 裁判、檢察、警察ノ職權ヲ行ヒ又ハ之ヲ補助スル者  
其職務ヲ行フニ當リ刑事被告人其他ノ者ニ對シ暴行又ハ陵虐ノ行  
爲ヲ爲シタルトキハ三年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

法令ニ因リ拘禁セラレタル者ヲ看守又ハ護送スル者被拘禁者ニ對  
シ暴行又ハ陵虐ノ行爲ヲ爲シタルトキ亦同シ

註 本條ハ拷問及ヒ囚人苛刻ノ所爲ニ對スル罪ヲ規定ス

第一項 裁判官檢察官又ハ警察官ニ於テ其職權ヲ行フニ當リ又ハ是等ノ事務ヲ補助  
スル巡查憲兵卒等ニ於テ刑事上ノ被告人其他證人參考人等ニ對シ暴行ヲ加ヘ又ハ陵  
虐ノ行爲ヲ爲スモノヲ罰スルニアリ元來是等ノ行爲ヲ爲スハ常ニ事件ニ付テ自白ヲ  
求ムルカ又ハ眞實ヲ陳述セシムルカニ外ナラス昔ハ拷問主義行ハレタルモ此手段ハ

野蠻陋醜ニシテ又自白ノ如キハ決シテ求ムルノ必要ナク文明ニ進ムニ從ヒ他ノ證據ヲ以テ審案スルニ差支ナキモノナリ故ニ本條ニ於テ暴行又ハ陵虐ノ行爲ヲ防キタルモノトス

第二項 法令ニ因リテ拘禁セラレタル者例ヘハ令狀ニ依リ勾留セラレ又ハ勾引セラレテ一時留置セラレタルモノ又ハ囚徒トナリテ監獄ニアル者等ニシテ此等ノ者ニ對シ看守者又ハ護送者ニ在テ暴行又ハ陵虐ノ行爲アルトキモ亦同一ノ刑トス看守者又ハ護送者ノ暴行又ハ陵虐ハ第一項ノ場合ト少シク異ニシテ或ハ飲食衣服ヲ屏去シ殘酷ノ行爲ヲ爲スカ如キハ一例トス

現行刑法第二百八十条條第二百八十二条條ヲ合シテ修正シタルモノトス

第二百八十条條ニ於テ飲食衣服ヲ屏去云々ト例示セルハ必要ナキヲ以テ删除シ第二百八十二条條ノ罪狀ヲ陳述セシムル爲メノ文句モ亦同一トシタリ

第九十六條 前二條ノ罪ヲ犯シテ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害ノ罪ニ比較シ重キニ從テ處斷ス

註 本條ハ傷害罪ニ付テ規定ス

第九十四條ニ因リテ逮捕又ハ監禁ノ爲メ又第九十四條ノ暴行又ハ陵虐ノ行爲ニ

因リテ人ヲ死傷シタルトキハ傷害ノ罪ニ比較シテ重キニ從テ處斷スルハ當然トス

現行刑法第二百八十条條第二項及ヒ第二百八十二条條第二項ト同一トス

第九十七條 公務員又ハ仲裁人其職務ニ關シ賄賂ヲ收受シ又ハ之ヲ要求若クハ約束シタルトキハ三年以下ノ懲役ニ處ス因テ不正ノ行爲ヲ爲シ又ハ相當ノ行爲ヲ爲ササルトキハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス

前項ノ場合ニ於テ收受シタル賄賂ハ之ヲ沒收ス若シ其全部又ハ一部ヲ沒收スルコト能ハサルトキハ其價額ヲ追徵ス

註 本條ハ賄賂ニ關スル罪ヲ規定ス

第一項 公務員タルモノハ至公至正ノ職ニアリ然ルニ賄賂ヲ收受スルカ如キハ職務ヲ零賣シテ不義ノ利ヲ圖ルニアリ社會ヲ害スルノミナラス其陋劣實ニ云フヘカラス殊ニ裁判事件ニ付テハ最モ弊害多シ收賄ニ依リテ裁判ヲ偏頗ニスルカ如キハ實ニ裁判ノ神聖ヲ汚スニ至ル重ク刑ヲ科スルハ蓋シ當然ナリトス

本項ハ公務員又ハ民事訴訟法ニ因リテ仲裁人ト爲リタルモノカ各自其職務ニ關シ賄

賂ヲ收受シ又ハ之ヲ要求シ若クハ後日收受スルノ約束ヲ結フトキハ三年以下ノ懲役ニ處ス

若シモ前段ノ行爲ニ因リテ自己ノ擔任スル事件ニ付キ不正ノ行爲ヲ爲スカ又ハ相當ノ行爲ヲ爲サ、ルトキハ十年以下ノ懲役トス例ヘハ府縣ノ屬官カ賂賂シテ不正ノ行爲ヲ爲シ市町村吏カ賂賂ヲ約シテ爲スヘキコトヲ行ハサルカ如キ裁判官カ收受シテ有罪者ヲ無罪ト爲シタルカ如キ類ナリ

第二項 第一項ノ場合ニ於テ收受シタル金錢物品ハ賂賂ナレハ之ヲ沒收スヘキハ當然トス又其賂賂ノ全部ハ勿論一部ニテモ沒收スルコト能ハサルトキハ價額ヲ積算シテ追徴スヘシ然ラサレハ或ハ不義ノ富ヲ許スカ如キ感アルヲ以テテリ

現行刑法第二百八十四條及ヒ第二百八十八條ニ同シ現行法ハ唯官吏收賂ノ場合ノミヲ舉クルヲ以テ改正法ハ改メテ公務員及ヒ仲裁人トシ總テノ官公吏ヲモ包含セシム又聽許シトアルモ文字妥當ナラサルヲ以テ之ヲ約束トシ又不正ノ處分ヲ爲シタルモノハ別ニ刑ヲ定メタリ

尙ホ現行法ハ裁判官檢察官ニ付テハ其第二百八十五條乃至第二百八十七條ニ規定シタリト雖モ已ニ公務員トシテ包含セシメタレハ不必要ナルヲ以テ删除シタリ

判決例

賂賂約束ノ當時ニ金額確定セサルモ履行ノ時ニ至リ定ムルヲ得ルモノナレハ當事者間ニ確定セサルモ約束ナシトスルヲ得ス(二七、一一、六)

官吏其職務ニ關シ囑託ニ應シ曾テ自ら差入置タル債務證書ノ返付ヲ受ケタル所爲ハ賂賂收受罪トシ證書面ノ金額ヲ追徴ス(三〇、一二、二二)

官吏收賂罪ハ官吏カ其職務ニ關シ内囑ノ申込ヲ受ケタル日ニ成立スルモノニ非スシテ其内囑ノ申込ニ應シタル日ニ於テ成立ス從テ申込ヲ受ケタル日ハ未タ其職ニアラサルモ申込ニ應シタル日ニ其職ニアリタル時ハ有罪ナリ(三六、六、二九)

第九十八條 公務員又ハ仲裁人ニ賂賂ヲ交付、提供又ハ約束シタル者ハ三年以下ノ懲役又ハ三圓百以下ノ罰金ニ處ス  
前項ノ罪ヲ犯シタル者自首シタルトキハ其刑ヲ減輕又ハ免除スルコトヲ得

本條ハ賂賂ニ關スル相手方ニ付テ規定ス

第一項 人民側ヨリ規定シタルモノニシテ公務員又ハ仲裁人ニ對シテ賂賂ヲ交付シ又ハ賂賂ヲ贈ラント提供シ又ハ賂賂ヲ授受スルコトヲ約束シタル等苟モ賂賂ノ事ニ

關シテ公務員又ハ仲裁人ニ話シ賄賂ノコトヲ定ムルニ於テハ本項ノ如ク罰スルニアリ蓋シ是等ノ者ハ賄賂ヲ以テ事柄ヲ自己ノ利益ニ謀リ又ハ賄賂ヲ以テ他人ヲ害スル等陋劣ナルハ勿論却テ是等ノ者アルカ爲メニ公務員又ハ仲裁人ハ職務ヲ零賣スルノ不義ヲ犯スヲ以テ之ヲ罰スルニアリ

第二項 併シナカラ自首シタルトキハ大ニ情狀ニ於テ憐ムヘキモノアリ之レ其刑ヲ減輕シ又場合ニ依リテハ免除スルコトヲ得ヘシ

現行刑法ハ本條ノ規定ナシ現行法ハ賄賂ヲ贈與、提供又ハ約束シタル者ヲ處分スル規定ナキカ爲メ公務員又ハ仲裁人ノ收賄ヲ防遏スルコト極メテ困難ナリ是ヲ以テ改正法ハ本條ヲ設ケタリ而シテ茲ニ於テ收賄ノ弊ヲ矯正センコトヲ計レリ其第二項ヲ設ケタルハ賄賂收受ノ害弊ヲ減殺セント期シタルモノナリ

### 第二十六章 殺人罪

本章ハ殺人罪ヲ規定ス

抑モ古昔野蠻蒙昧ノ時代ニ在テハ人命ノ授受ハ社會生存競争上ノ出來コト、シ之カ制裁アルコトナク偏ニ利害關係者ノ自由ニ一任シ之カ關涉ヲ爲サ、ルコト、ナリシカ人智漸ク開ケ進ムニ至リテ社會的觀念稍ヤ發達スルニ及ンテヤ殺人ハ單ニ個人ノ

害ノミナラス亦併セテ社會共同團體ヲ害スルモノナリトノ觀念ヲ生シ爲メニ殺人ハ罪トシテ罰スルコト、爲リタリ

殺人トハ他人ノ生命ヲ不正ニ破壞スルコトヲ云フ而シテ殺人罪ヲ構成センニハ人ノ生命カ存在スルコト(一)死ヲ惹起ス行爲アルコト(二)死ヲ惹起スヘキ行爲ヲ爲ス意思アルコト(三)ノ三要素トス

現行刑法ハ第三編第一章第一節及ヒ第五節ニ規定シタルモノヲ本章ニ合シテ之ヲ修正セリ

現行法第二百九十三條ハ毒殺罪ヲ以テ常ニ謀殺ト爲スト雖モ是一ノ情狀ニ關スル場合ナルヲ以テ改正法ハ之ヲ裁判官ノ認定ニ任シ之ヲ刪除ス

現行法第二百九十八條ハ誤殺ノ規定ナリト雖モ學說上當然ノ法理タルヲ以テ敢テ之ヲ規定スル必要ナキノミナラス之カ爲メ却テ疑義ノ基因トナル虞レアルヲ以テ改正法ハ之ヲ刪除ス

現行法第二百九十七條モ亦規定ヲ要セスシテ明ナルモノナルヲ以テ前二號ト同シク之ヲ刪除シ第二百九十五條第二百九十六條モ裁判官ノ判斷ニ一任シタリ

### 第二百九十九條 人ヲ殺シタル者ハ死刑又ハ無期若クハ三年以上ノ懲



役二處ス

本條ハ殺人罪ヲ規定ス

元來人ヲ殺シタルコトハ其結果ニシテ殺スニ至ルマテノ體様ニハ種々アルヘシ或ハ人ヲ殺サントシ充分準備ヲ爲シテ後遂ニ目的ヲ達スルコトアルヘシ或ハ殺スコトハ豫メ用意セサルモ一時ノ怒ニ乘シテ殺シタルコトアルヘシ而シテ又其人ヲ殺ス方法ニ於テモ兇器ヲ以テ殺スモノアルヘク毒物ヲ施用シテ殺スモノアルヘク或ハ支解折割其他慘刻ノ行爲ヲ以テ殺スモノモアルヘク或ハ自ラ手ヲ下サスシテ詐稱誘導シ罪ニ陥イレテ殺スモノモアルヘシ其體様方法手段ハ千差萬別決シテ刑法上之ヲ列記シ盡スコトヲ得サルモノナリ

故ニ本條ニ於テハ單ニ人ヲ殺シタル者トシ其刑ノ範圍ヲ廣クシ其體様ニ依リテ事實ヲ審案シ裁判官ヲシテ相當適應ナル處分ヲ爲サシムルモノトス

現行刑法第二百九十二條第二百九十四條ヲ合セテ廣ク謀殺及ヒ故殺ニ共通セシメタル規定ニシテ其結果刑ノ範圍ヲ擴張シタリ蓋シ殺人行爲ニ付キ謀殺及ヒ故殺ノ區別ヲ爲ス法制ノ可否ハ現時刑法界ノ一大問題ナレトモ理論上殺人行爲ニ付キ豫謀ノ有無ヲ區別シ能ハサルヲ以テ此區別ヲ認ムル結果實益ナキ上訴提起ノ弊ヲ生スルノミナ

ラス之ヲ實際ニ鑑ミレハ謀殺必スシモ重シト云フヘカラス故殺必スシモ輕シト云フヘカラス改正法ヲ通貫スル大主義ハ上述ノ如ク刑ノ範圍ヲ擴張スルコトニアリ然ラハ改正法トシテハ害弊アリテ何等ノ實益ナキ謀故殺ノ區別ヲ全廢シテ廣ク殺人行爲ニ對シテ範圍廣濶ナル刑ヲ科シ其情狀ニ應シ裁判官ヲシテ相當ナル刑ヲ科セシメサルコトヲ得ス

判決例

人ヲ毒殺スル爲メ毒藥ヲ服セシメタル上ハ其多寡若クハ效果ハ論スヘキニアラス(二五、二、一)

謀殺罪ハ社會ニ現出シタル一個人ニ對シテ豫謀殺害ノ行爲アリタルヲ要シ胎内ニアリテ社會ニ出生セサル子ノ如キハ完全ノ一個人ト稱スヘカラス故ニ出生前殺害ヲ謀ルモ豫謀トナシ難ク乃チ出産ノ當時殺意ヲ生シタルモノト看做サ、ルヘカラス故ニ之ヲ殺セハ故殺罪ヲ組成ス(二五、五、五)(三〇、三、五)

同時ニ數人ヲ謀殺スルモ被害者一人毎ニ一罪ヲ組成ス(二六、七、一七)  
他ノ暴行ヲ受ケ危害已ニ去リタル後殺害ノ決心ヲ爲シ拔刀ヲ以テ之ニ斬付ケ即死セシメタル所爲ハ故殺トス(二六、二、一〇)

甲者乙者ヲ殺サント謀リ毒藥ヲ酒中ニ投入シタルニ乙丙兩人誤テ之ヲ飲用シ中毒症ヲ發シタルトモ飲量少キ爲ノ死ニ至ラザリシハ謀殺ヲ行ヒ誤テ他人ヲ殺シタル罪ノ未遂犯トス(二二八、一一、一五)

偶然殺意ヲ生シタルニ非ス豫メ意ヲ決シテ實行スルトキハ謀殺罪ヲ構成スルモノニシテ其實行ノ手段方法竝ニ場所ノ選定等ノ事實アルヲ必要トセス(三三二、四、三〇) 甲ヲ毒殺セントシ致死以上ノ毒藥ヲ餅ニ包ミ甲ニ供シタルニ偶マ丙カ之ヲ貰ヒ受ケ食シ煩悶シテ吐血シタルハ被告ハ丙ニ與ヘサルモ之ヲ食セシムヘキ状態ニ置キタレハ刑法第二百九十八條トス(二三五、一〇、三〇)

毒物トハ適當ノ分量ヲ施用セハ人ヲ死ニ致スヘキ性質ヲ有スルモノ、總稱ニシテ日本藥局方ノ毒藥類ノミヲ指スニアラス(三七、一一、一五) 人ヲ殺害センコトヲ共謀シ殺害實行ノ現場ニ臨ミ下手者ニ助勢シ又ハ兇行ノ障礙排除ニ力メタル者ハ謀殺罪ノ實行正犯トス(二二九、一一、二〇)

第二百條 自己又ハ配偶者ノ直系尊屬ヲ殺シタル者ハ死刑又ハ無期懲役ニ處ス

本條ハ直系尊屬ニ對スル殺人罪ヲ規定ス

直系尊屬トハ自己ヨリ直線ニ上リタル所ノ親屬ノ人々ヲ云フ即チ父母、祖父母、高祖父母ヲ云フ之レ皆自己ヨリ尊ムヘキ親屬ニシテ我邦ノ家族制度ニ於テハ特待スヘキモノトス而シテ孝道ハ是ヨリ始マルヘキモノナリ

直系尊屬ハ自己ノミナラス配偶者ノ直系尊屬ヲモ同一トス即チ夫ヨリ云ヘハ妻ノ父母祖父母等ニシテ妻ヨリ云ヘハ夫ノ父母祖父母等ナリトス

本條ニ依レハ血族トナキヲ以テ彼ノ繼父母、嫡母ノ如キ養父母ノ如キヲ包含ス

尙一言ス直系尊屬トアルヲ以テ之ニ對スル傍系尊屬アリ即チ伯叔父母ノ如シ是等ハ別ニ重キ刑ヲ加フヘキ必要ナキニ依リ前條ニ依リ他人ト同一ノ刑ヲ加フルニアリトス其他卑屬ニ於ケル場合ニ於テモ同一トス

現行刑法第三百六十二條第一項ト同一ニシテ補修シタルモノ更ニ配偶者ノ直系尊屬ニ對シテ犯シタル場合ニ之ヲ適用スルハ我邦ノ家族制度ニ於テ特殊ノ必要存スレハナリ

第二百一條 前二條ノ罪ヲ犯ス目的ヲ以テ其豫備ヲ爲シタル者ハ二

年以下ノ懲役ニ處ス但情狀ニ依リ其刑ヲ免除スルコトヲ得

本條ハ殺人ノ豫備ヲ罰スルコトヲ規定ス

殺人ハ實ニ重大ナル行爲ナリ故ニ可成之ヲ未萌ニ防止セサルヘカラス即チ本條ニ於テ殺人ノ目的ヲ以テ其豫備ヲ爲シタル者アルトキハ二年以下ノ懲役ニ處シ以テ危害ヲ防クニアリ而シテ其準備ノ深淺ニ依リテ又其情狀ニ輕重アルヘシ故ニ但書ヲ設ケ其輕キモノニ付テハ刑ヲ免除スルコトヲ得ヘキモノトス

現行刑法ハ本條ノ規定ナク新設ニ係レリ即チ謀殺ノ如キ情狀ノ重キ罪ニ對シテハ雷ニ其未遂ヲ罪スルノミナラス尙ホ其準備行爲ヲモ所罰シ以テ危害ヲ未然ニ防止スルノ必要アリ是未タ著手ニ至ラスト雖モ準備ヲ爲シタル者ヲ處罰スル所以ナリトス然レトモ往々ニシテ情狀輕キモノアルヲ以テ僅カニ二年以下ノ懲役ヲ科シ或ハ刑ヲ免除スルコトヲ得ヘキモノトス

**第二百二條** 人ヲ教唆若クハ幫助シテ自殺セシメ又ハ被殺者ノ囑託ヲ受ケ若クハ其承諾ヲ得テ之ヲ殺シタル者ハ六月以上七年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

**釋** 本條ハ自殺ノ教唆幫助及ヒ下手者ノ罪ヲ規定ス元來自殺ハ死者自身ノ意思カ本ト爲ツテ爲シタル殺人行爲ナリ故ニ其殺人犯ヲ罰スルコトヲ得サルモ其自殺ニ關係シタルモノハ之ヲ罰セサルヘカラス自殺ヲ助クルハ

一種ノ殺人ナリ此行爲タル實ニ背德ニシテ社會ニ危害ヲ加フルモノナリ

本條ハ

- 一 人ヲ教唆シ若クハ幫助シテ自殺セシメタル者
  - 二 被殺者ノ囑託ヲ受ケ若クハ其承諾ヲ得テ之ヲ殺シタル者
  - ノ二種トス「一」ハ自ラ手ヲ下サ、ルモ自殺ノ決心ヲ促シ自殺ノ決行ヲ爲サシメタモノ「二」ハ自ラ手ヲ下シテ殺シタル者ナリ
- 然レトモ何レモ皆被殺者ヲ殺サントスルノ意思アリ又之ヲ殺シタルニハ相違ナキモ其原動力ハ死者自身ニアルヲ以テ決シテ殺人罪ニ依リ論スヘカラス
- 現行刑法第三百二十條及ヒ第三百二十一條ヲ合シテ少シク修正シタルモノトス現行法ハ自己ノ利益ノ爲メニスルト否トヲ區別スト雖モ其必要ナキヲ以テ此區別ヲ廢シ且被殺者ノ承諾ヲ得テ之ヲ殺シタル場合ヲ規定シ以テ疑義ヲ避ケタリ

判決例

凡ソ刑法ニ於テ殺ト稱スルハ所爲ノ結果直接ニ死ニ至ラシムルノ謂ニシテ他人ノ身體ニ對スルト否トニ依リ殺ノ意ヲ異ニスルモノニ非ス謀殺故殺ヲ爲サント欲シテ手ヲ下スモ被害者死ニ至ラサル時ハ其謀殺ノ未遂タルコト論ヲ俟タス此殺ニシテ未

遂ナレハ自ラ殺シテ死ニ至ラサル時モ亦自殺ノ未遂ニ非スシテ何ソヤ決シテ死ナクシテ殺アルコトナシ然ラハ刑法第三百二十條ノ自殺セシメ又ハ自殺人ノ爲メト云フハ皆死ニ至リタル場合ニシテ死ニ至ラサル場合ニ於テハ自殺ハ未遂ニシテ自殺人ノ爲メ手ヲ下シタルモノ、所爲モ亦法律ナレトモ右未遂ヲ罰スル法律ノ正條ナキカ故ニ無罪トス(二六、一〇、九)

刑法第三百二十一條ニ所謂自己ノ利ヲ圖リトハ單ニ財産上ノ利益ヲ圖リタル場合ノミヲ意味スルニアラス苟モ自殺人ノ死亡カ自己ノ利益トナルカ爲メ自殺ヲ教唆シタル者ニ至リテモ本條ニ問擬スヘキモノトス(二九、一、二〇)

第二百三條 第九十九條、第二百條及ヒ前條ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

本條ハ未遂罪ヲ規定ス

第九十九條ノ人ヲ殺シタル者、第二百條ノ尊屬親ヲ殺シタル者、前條ノ自殺セシメ又ハ下手者等ハ何レモ之ヲ未然ニ防止スルカ爲メニ未遂ノ場合ニ於テモ之ヲ罰スヘシ

現行刑法ニ於テモ殺人罪ニ付テハ未遂ヲ罰シタルヲ以テ本條ト同一ナリトス

第二十七章 傷害ノ罪

本章ハ傷害ノ罪ヲ規定ス

傷害トハ人ノ身體ニ對シテ損害ヲ加ヘタルヲ意味ス而シテ其身體ノ内部ト外部トニ論ナク苟モ身體上ニ損害ヲ生シタルトキハ皆包含セルナリ

本章傷害罪モ人ノ身體ニ損害ヲ加フルヲ以テ犯罪ノ客體ハ生命アル人ノ身體ナルコト(一)其身體ニ損害ヲ加フル所爲アルコト(二)其損害ヲ生シタルコト(三)不法ノ行爲ナルコト(四)ヲ要ス

而シテ右ノ内損害ヲ生シタルコトニ付テハ創傷ヲ負ハスカ如キ創傷ノ現實ナキモ身體ニ痛苦ヲ加ヘタルカ如キ決シテ其大小輕重ヲ論セサルヘシ又其不法ノ所爲ナルコトヲ要スルハ犯罪ニ付テハ皆同一ナルモ殊ニ親權ノ結果子ヲ懲戒スルカ如キ被害者ノ承諾上損害ヲ加ヘタルカ如キハ決シテ不法ニアラサルヘシ

現行刑法ハ第三編第一章第二節ニ規定シタルモノニシテ之ニ修正ヲ加ヘタリ

現行法ハ本章ノ規定ヲ毆打創傷罪ト名ツケタレトモ其語穩當ヲ欠クニ因リテ甚シク不便ヲ感スルハ已ニ實際ノ事實ナリ故ニ改正法ハ傷害ノ罪トシ汎ク身體ノ傷害ニ關スル規定タルコトヲ明ニセリ是ヲ以テ毆打以外ノ方法ニ依リ又ハ外部ニ創傷ヲ生セスシテ傷害ヲ生シタル場合ノ如キモ皆之ヲ包含セシム

現行法ハ豫謀ニ出ツル傷害罪ト否ラサルモノトヲ區別スルモ其必要ナキヲ以テ廢セ

リ  
現行法第三百二條、第三百三條、第三百七條及ヒ第三百八條ニ記載シタル情狀ハ改正法ニ於テハ豫謀ニ出テタル傷害罪ト否トノ區別ヲ廢シタルヲ以テ一ニ之ヲ裁判官ノ判定ニ任セリ

現行法第三百四條ハ誤殺ノ規定ト同シク其必要ナキヲ以テ刪除ス

### 第二百四條 人ノ身體ヲ傷害シタル者ハ十年以下ノ懲役又ハ五百圓以下ノ罰金若クハ科料ニ處ス

本條ハ傷害罪ヲ規定ス

本條ハ人ノ身體ヲ傷害シタル者トシテ其方法手段及ヒ其結果ヲ列記セサルヲ以テ大ニ範圍ヲ擴張シタリ從テ其刑モ亦廣ク爲メニ其傷害ノ輕重ニ依リテ大ニ裁判官ノ自由ヲ得セシメタリ

身體ヲ傷害スルニ付テハ種々アリ尙ホ其結果トシテ男女ノ頭髮ヲ切斷セラレ毀損セラル、コトアルヘシ人一目兩目ノ視能若クハ一耳兩耳ノ聽能ノ喪失又ハ語能ノ喪失ノ如キ一肢以上ノ使用、陰陽等ノ不能、不治ノ精神身體ノ疾病、外觀ノ不具、或ハ

流産等其他疾病時間ノ長短ニ依リ何レモ一ニ身體ノ傷害トハ云ヒナカラ情狀アルヘキモノナレハ裁判官タルモノハ宜シク適當ノ刑ヲ加ヘサルヘカラス

現行刑法第三百條第三百一條ニ修正ヲ加ヘ合シタルモノトス

現行法第三百條ニ於テハ其癱瘓疾ノ場合ヲ區別シタルモ徒ラニ情狀ヲ區別スルニ過キスシテ實際上不便ナリ故ニ本條ノ範圍内ヲ以テ其情狀ノ程度ヲ斟酌シ自由ニ刑ヲ科セシムルカ爲メニ區別ヲ廢シタリ

現行法第三百一條ニ於テモ疾病休業ノ程度ヲ區別シタリシカ之レ亦其日數ハ正確ナラスシテ實際不便ヲ感ス故ニ前段ト同シク其區別ヲ廢シ概括的本條ニ依リテ自由ニ適宜ニ刑ヲ科セシムルモノトス

#### 判決例

毆打創傷事件ニ付疾病休業ノ時間ヲ判定スルハ現ニ其創傷ノ結果ニ依ルヘキモノニシテ豫斷スヘキモノニ非ラス(一九、五、一一)

打撃攪壓及抑伏セシ所爲ハ共ニ刑法ノ所謂毆打ナリ(三〇、二、一八)  
何人ト雖モ創傷ヲ受ケ疾病ニ罹リタルトキハ相當ノ治療ヲ加フヘキハ當然ナリ從テ治療宜シキヲ失シ爲メニ重患ニ陥リタレハトテ其責任ヲ加害者ニ嫁スルコトヲ得ス

(三四、四、五)

人ノ耳ヲ毆打シ其鼓膜ヲ損傷シ聽力ノ大部分ヲ失ハシメタル所爲ハ即チ人ヲ毆打創傷シ廢疾ニ至ラシメタルモノトス(三四、五、二四)

帳簿ヲ取回サンカ爲メ人ニ組付キタル所爲ハ人ノ身體ニ對シ暴行ヲ加ヘタルモノニシテ毆打所爲ナリ(三五、一二、四)

人ヲ突倒シ其身體ヲ他物ニ觸レシメ創傷ヲ負ハシメタルハ毆打ナリ(三七、一、二八) 刑法第三百條第二ノ廢疾トハ被害者ノ身神ノ健全ナル状態ニ生シタル障礙カ一時的ノモノニアラスシテ治療ノ望ナキ被害者ヲシテ其健全状態ノ全部又ハ一部ノ喪失ニ因リ終身不具ノ状態ニ陥ラシムヘキモノタルヲ以テ足り其創傷ノ被害者ノ身體ニ及ホス影響カ一目一耳一肢ヲ折タルト同一ノ程度ニ達スルヲ要セス(三九、三、五)

第二百五條 身體傷害ニ因リ人ヲ死ニ致シタル者ハ二年以上ノ有期懲役ニ處ス

自己又ハ配偶者ノ直系尊屬ニ對シテ犯シタルトキハ無期又ハ三年以上ノ懲役ニ處ス

註 本條ハ傷害致死ノ罪ヲ規定ス

第一項 人ノ身體ヲ傷害シ其結果其人ヲ死ニ致シタルトキハ二年以上ノ有期懲役ニ處スヘキモノトス其刑ノ輕キハ死ニ致ストアリテ殺意ナキコトヲ知ルヘク又因リタルニ依リテ傷害ニ原因シタルコトヲモ知ルカ爲メナリ

第二項 自己又ハ配偶者ノ直系尊屬即チ父母祖父母曾祖父母高曾祖父母ヲ死ニ致シタルトキハ無期又ハ三年以上ノ懲役ニ處スヘキモノトス之レ孝道ニ於テ欠クル所ルヲ以テ其刑ヲ重クスルニアリトス

現行刑法ハ其第二百九十九條ト第三百六十三條ノ末文トニ規定シアリ之ヲ合シテ修正シタルモノトス

現行法ニ在テハ第一項ニ對シテ其刑ノ範圍狹ク又第二項ニ對シテハ死刑トアルモ元來殺人ノ罪ト異ナリ殺意アリタルニアラサルヲ以テ改正法ハ其刑ヲ輕クシタリ又配偶者ヲ加ヘタルハ已ニ第二百一條ニ於テ說述シタルカ如シ

判決例

雇人ヲ懲戒スルノ目的ヲ以テ裸體トナシ屋外ニ立タシメタル上凍死セシメタル所爲ハ暴行ヲ加ヘ因テ死ニ致シタル者ナルヲ以テ毆打致死罪トス(三二、一、一四) 毆打致死罪ハ毆打創傷ノ當時直チニ成立ス然レトモ之ニ因テ直チニ人ヲ死ニ致スコ

第二編罪 第二十七章傷害ノ罪

三百二十七

トヲ要スルモノニアラスシテ創傷ト死亡トノ間若干日ヲ經過スルコトアルモ罪ノ成否ニ影響ナシ(三三三、一一、二九)

第二百六條 前二條ノ犯罪アルニ當リ現場ニ於テ勢ヲ助ケタル者ハ自ラ人ヲ傷害セスト雖モ一年以下ノ懲役又ハ五十圓以下ノ罰金若クハ科料ニ處ス

■ 本條ハ助勢者ヲ罰スル規定トス

人ノ身體ヲ傷害シタル者又ハ其傷害ニ因リ死ニ致シタル者アルニ當リ其現場ニ在テ加勢シタル者ハ其加勢者自ラ人ヲ傷害セサルモ其勢ヲ助ケ一方ヲシテ防クニ難カラシメタル者ニシテ又一方ニ於テ勢ヲ得テ人ニ傷害ヲ爲シタルモノナレハ之ヲ罰スルモノトス

而シテ其助勢ノ方法手段ニ付テハ別ニ規定セサルヲ以テ如何ナル方法ヲ用ヒ又如何ナル手段ニ出ツルトモ決シテ妨ケサルナリ

現行刑法第三百六條ト同一ニシテ修正ヲ加ヘタリ

第二百七條 二人以上ニテ暴行ヲ加ヘ人ヲ傷害シタル場合ニ於テ傷害ノ輕重ヲ知ルコト能ハス又ハ其傷害ヲ生セシメタル者ヲ知ルコ

ト能ハサルトキハ共同者ニ非スト雖モ共犯ノ例ニ依ル

■ 本條ハ共謀シテ人ヲ傷害シタル場合ヲ規定ス

二人以上共謀シテ人ヲ傷害シタルトキハ共犯例ニ依リテ各自正犯トシテ處分ヲ爲スヘク又共謀シタルニアラスシテ二人以上ノ人カ他人ヲ傷害シタルトキハ各自自ラ成シタル傷害ノ正犯トシテ處分スルヲ以テ原則トス

然ルニ本條ニ於テハ二人以上ニテ暴行ヲ加ヘ人ヲ傷害シタル場合ニ於テ其傷害ノ輕重ヲ知ルコト能ハス即チ何人カ何レノ傷害ヲ加ヘタルカ又其傷害カ數個所ニシテ何レカ負ハシタルヤ不明ナルトキ又ハ何人カ傷害ヲ生セシメタルヤヲモ知ルコト能ハサルトキノ如キハ假令共同者ニアラサルモ共犯ノ例ニ依リテ處斷スヘキモノトス假ヘハ二人ニテ一人ノ男子ヲ毆打シ二箇所ノ一ハ重キ一ハ輕キ傷害ヲ加ヘタリシモ其二人ノ内ニテ誰レカ重キ傷ヲ加ヘタルカ誰レカ輕キ傷ヲ負ハセタルカ分明ナラサルトキハ其二人ハ別ニ初メヨリ共謀セサルモ共犯ノ例ニ依リ第六十條ニ從ヒ正犯トシテ第二百五條ニ依リ情狀ヲ斟酌シ懲役又ハ罰金若クハ科料ニ處スヘキモノトス

現行刑法第三百五條ト同一ニシテ現行法ハ共謀ノ有無ヲ問ハス現ニ手ヲ下シタル傷害ニ付キ各自ニ責任ヲ負ハシムルヲ原則トシ若シ傷害ノ何人ノ手ニ成ルヤヲ知ラサル

トキハ各自ヲ其重傷ノ刑ニ照シ一等ヲ減シテ處斷ストシタリ

改正法ハ第三百五條ノ前半文ニ付テハ犯人共犯ナルトキハ總則ノ共犯例ニ依リ共犯ニ非サルトキハ各自ラ成セル傷害ノ正犯トシテ之ヲ處分スルコト、爲シタリ從テ其規定ヲ要セサルヲ以テ之ヲ删除シタリ

後半文ノ場合ニ付テハ少シク修正ヲ加ヘ暴行シテ人ヲ傷害シタル場合ニ於テ傷害ノ輕重ヲ知ルコト能ハス又ハ其傷害ヲ生セシメタル者ヲ知ルコト能ハサルトキハ共同者ニアラサルモ共犯例ヲ適用シ各自ヲ最モ重キ傷害ノ正犯トシテ處分スルコト、爲シタリ

元來現行法ハ何人ノ爲シタル傷害ナルヤヲ知ラサル場合ニ關スルヲ以テ眞ニ其傷害ヲ爲サ、ル者ニ對スル刑ノ過重ヲ避クルカ爲メ一等ヲ減スルモノニシテ罪ノ疑ハシキハ寬ニ從フ趣旨ナルヘシト雖モ是稍不理アル規定ニシテ犯行事實ト刑トノ權衡ヲ失スル嫌ナキ能ハス故ニ本條ハ其主義ヲ改メ共犯ノ例ニ依ルコト、爲シタリ

判決例

共毆シテ傷ヲナスノ輕重ヲ知ル能ハストハ二人以上共毆シテ其負ハシメタル創傷ノ分明ナラサル場合ヲ總稱ス故ニ必ラスシモ共毆人ノ員數ニ相當スル創傷アル場合ノ

ミヲ意味スルモノニ非ラス(二九、一一、一二)

二人以上共二人ヲ毆打スルモ其創傷ニシテ等シキ時ハ刑法第三百五條ヲ適用セス(三〇、一一、一一)

一個ノ創傷ナリト雖モ二人以上共毆シテ共犯中何人ノ負傷セシメタルヤヲ知ル能ハサルトキハ傷ヲ成スノ輕重ヲ知ルコト能ハサルモノトス(三一、一二、二〇)

第二百八條 暴行ヲ加ヘタル者人ヲ傷害スルニ至ラサルトキハ一年以下ノ懲役若クハ五十圓以下ノ罰金又ハ拘留若クハ科料ニ處ス  
前項ノ罪ハ告訴ヲ待テ之ヲ論ス

本條ハ傷害ヲ爲サ、ル場合ヲ定ム

第一項 暴行ヲ加ヘタルモ人ニ傷害ヲ加ヘサルトキ即チ毆打シテ創傷ヲ爲サ、ルモノニシテ其罪輕キモノナリ故ニ本項ニ從ヒ裁判官ニ於テ事情ヲ斟酌シ適當ノ刑ヲ科スルニアリトス

第二項 第一項ノ罪ハ輕キモノニシテ社會ヲ害シ且私人ヲ害スルコト大ナラス故ニ其人ノ感情ニ任シ親告罪ト爲シタリ

現行刑法第四百二十五條第九號ニ同シ



### 第二十八章 過失傷害ノ罪

本章ハ過失傷害ノ罪ヲ規定ス

過失傷害トハ過失ニ因テ人ノ身體ヲ傷害シタルヲ云フ  
而シテ過失トハ不注意ナル有意ノ行爲ヨリ不期ノ結果ヲ生セシメタル状態ヲ云フ其  
過失トナルヘキ不期ノ結果ヲ惹起スヘキ原因ハ所爲者ノ思慮少シモ其結果ニ及ハサ  
リシ場合(一)思慮ノ及ハサルニハアラサルモ此事ナカルヘシト信シ萬一ノ危険ヲ避  
クルコトノ策ヲ怠リシ場合(二)トス故ニ前ハ沈重事ニ從ハサルヨリ生シタルモノニ  
シテ所謂疎虞即チソ、ウ是ナリ後ハ放膽事ニ從ヒシヨリ生シタルモノニシテ所謂懈  
怠即チ横著又ハ大膽是ナリ

現行刑法ハ第三編第一章第四節ニ過失殺傷ノ罪トシテ規定シタリ改正法ハ之ヲ修正シ  
タルモノトス

現行法ハ本罪ヲ過失殺傷ト名ケタルモ其語穩カナラサルヲ以テ改メテ過失傷害ト爲  
シタリ

現行法ハ職務ニ關スル過失傷害ニ付キ特別ノ規定ヲ設ケサリシカ改正法ハ之ヲ必要  
トシテ設ケタリ

過失ニ因リ人ヲ傷害シタル場合ハ之ヲ親告罪ト爲シタリ是實際ノ必要ニ出テタル所  
ナリトス

### 第二百九條 過失ニ因リ人ヲ傷害シタル者ハ五百圓以下ノ罰金又ハ 科料ニ處ス

前項ノ罪ハ告訴ヲ待テ之ヲ論ス

本條ハ過失傷害ノ罪ヲ規定ス

第一項 過失トハ已ニ述ヘタルカ如ク疎虞又ハ懈怠ヨリシテ生セシメタル場合ナリ  
而シテ其例示ノ如キハ種々アリ乳母ノ熟睡中嬰兒ヲ壓シタルカ如キ車夫ノ泥酔シテ  
乗客ヲ落シタルカ如キ機關ノ掃除ヲ怠リテ職工ニ傷ヲ加ヘタルカ如キ捕鳥ニ汲々ト  
シテ發砲シ人ニ傷ヲ負セタルカ如キ其他多シ而シテ斯ノ如キハ決シテ犯罪ヲ爲スノ  
意思ナク只過失ニ因ルヲ以テ所謂惡意ナシ故ニ單ニ罰金若クハ科料ニ處スヘキモノ  
トス

第二項 右ノ如ク過失ニ因ル出來コトナルヲ以テ必ラス刑ヲ科スルコト、爲サス一  
方ニ於テ其過失ヲ恕セハ可ナリ故ニ親告罪トシ被害者ノ告訴ヲ待テ處斷スヘキコト  
、爲シタリ

現行刑法第三百十八條第三百十九條ヲ合シテ之ヲ修正ス而シテ其刑ノ範圍ヲ廣クシ適宜ノ刑ヲ科セシムルコト、爲シ又第二項ハ實際ノ必要ニ基キタルモノトス

第二百十條 過失ニ因リ人ヲ死ニ致シタル者ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

註 本條ハ過失致死ノ場合ヲ規定ス

已ニ前條ニ於テ説明シタルト同シク過失ニ原因シテ死ニ致シタル場合ナリ而シテ其情狀ハ前條ヨリ重キヲ以テ罰金ノ額ヲ多クシタルニ過キス

現行刑法第三百十七條ト同一ノ趣旨ナリ現行法ハ過失ノ原由トシテ疎虞懈怠又ハ規則慣習ノ不遵守ヲ豫想スルモ單ニ無用ノ語ニシテ且限定スルトキハ範圍狹ク故ニ改正法ハ字句ヲ削リ過失トシテ其場合ハ裁判官ニ一任シタルモノトス

判決例

過失ニ因リ同時ニ數個ノ結果ヲ生スルモ數罪ニアラスシテ一罪ニ吸收セラル即チ殺傷等アレハ殺人ノ一罪ヲ以テ論ス(三〇、六、二二)

迷信ノ結果狐憑者ヲ打撃シテ死ニ致シタル所爲ハ過失殺ヲ以テ論スヘキモノトス(三二、一、一)

甲者ノ狸ノ憑ルモノト妄信シ之ヲ退治スルノ意思ヲ以テ多量ノ硫黃ト線香トヲ燻シ甲者ヲ火上ニ差付ケタル爲メ心臟ニ麻痺ヲ起シ遂ニ死ニ致ラシメタル所爲ハ過失致死罪ナリ(三二、二、八)

第二百十一條 業務上必要ナル注意ヲ怠リ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ三年以下ノ禁錮又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

註 本條ハ業務上ニ於ケル過失死傷ノ場合ヲ規定ス

營業上又ハ職務上又ハ其他荷モ業務ニ從事スル人ハ其業務ニ付テハ十分ノ注意ヲ加ヘサルヘカラス例ヘハ醫師ノ治療ヲ爲スカ如キ産婆ノ産婦ヲ助クルカ如キ技師ノ機關ヲ修補スルカ如キ車掌ノ汽車電車ニ於ケルカ如キ大工手傳等ノ其仕事ヲ爲スカ如キ皆之レ業務上大ニ注意ヲ加ヘサルヘカラスルモノナリ然ルニ其注意ヲ爲サスシテ人ヲ死傷シタルカ如キハ實ニ過失ニシテ情狀ニ於テハ普通ノ人ヨリ重キモノトス之レ本條ハ體刑ヲモ加ヘタル所以ナリ

現行刑法ハ本條ト同一ノ法文ナシ改正法ハ其必要ヲ認メ新設シタルモノトス

第二十九章 墮胎ノ罪

註 本章ハ墮胎ノ罪ヲ規定ス

夫レ墮胎トハ自然ノ分娩期ニ先チテ人工ヲ以テ胎兒ヲ母體ヨリ不正ニ分離スル所爲ナリ其原因トスル所ハ種々アルモ多クハ父母タルモノニ於テ養育教育ノ勞ヲ免レントシ或ハ野合又ハ不正ノ交合ヨリ生シタル不名譽ヲ蔽ハンカ爲メニ行ハル、コトアリ何レニシテモ之ヲ罪トシ各本條ノ如ク罰スルニアリ  
現行刑法ハ第三編第一章第八節ニ之ヲ規定シタリ而シテ少シク之ヲ修正シタルニアリトス

第二百十二條 懷胎ノ婦女藥物ヲ用ヒ又ハ其他ノ方法ヲ以テ墮胎シタルトキハ一年以下ノ懲役ニ處ス

本條ハ墮胎シタル者ヲ罰スルモノナリ

懷胎ノ婦女ニシテ藥物ヲ用ヒ又ハ其他ノ方法ヲ以テ墮胎シタルモノハ本條ノ如ク罰スルニアリ而シテ藥物ハ之ヲ服用スルモ又ハ陰門ヨリ挿入スルモ可ナリ其他藥物ニアラサル物例ヘハ普通行ヒツ、アル杉箸ノ細キモノ又ハ草木ノ少シ堅キ莖等ヲ用ヒ陰門ヨリ子宮口ニ挿入スル類アリ其方法手段ニ付テハ致テ問ハス苟モ人工的不正ノ出產ヲ行ヒタルモノナリ

現行刑法第三百三十條ト同一トス

判決例

墮胎トハ藥物其他ノ方法ヲ以テ胎内ニアル胎兒ヲ殺シ胎外ニ排出セシムルノ謂ナリ其分娩期ニ至リタルト否トヲ問ハス(三六、七、六)

第二百十三條 婦女ノ囑託ヲ受ケ又ハ其承諾ヲ得テ墮胎セシメタル者ハ二年以下ノ懲役ニ處ス因テ婦女ヲ死傷ニ致シタル者ハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス

本條ハ墮胎セシメタル者ヲ罰スル規定トス

墮胎ハ母ノ體内ノ胎兒ヲ排出スル方法ナルヲ以テ先ツ其懷胎ノ婦女ノ承諾アルヲ通例トス又婦女自ラ墮胎ヲ爲ス方法ヲ知ラサルトキハ他人ニ依リテ其方法ヲ施サシメサルヘカラス本條ハ其婦女ノ囑託ヲ受ケテ墮胎セシメタルモノ又ハ婦女ニ話シテ其承諾ヲ得テ墮胎シタル者ニアリ例ヘハ夫ノ如キ情夫ノ如キ姦夫ノ如キ其他兄弟等苟モ婦女ニ頼マレ又ハ婦女ニ承諾セシメタル者ナリ又其方法ヲ施ス側ヨリ云フトキハ次條ノ如キ業務者ニアラスシテ施スモノアリ實例ハ常ニ此類多シトス  
以上ノ如ク墮胎セシメテ婦女ヲシテ死傷ニ致シタルトキハ其刑ヲ重クス之レ情狀ニ於テ重ケレハナリ

現行刑法第三百三十一條ト同一ノ趣旨トス只婦女ノ囑託ヲ受ケ又ハ承諾ヲ得タルコトノ文句ヲ加ヘタルノミ之レ明ラカニ爲シタルモノトス

第二百十四條 醫師、産婆、藥劑師又ハ藥種商婦女ノ囑託ヲ受ケ又ハ其承諾ヲ得テ墮胎セシメタルトキハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス因テ婦女ヲ死傷ニ致シタルトキハ六月以上七年以下ノ懲役ニ處ス

本條ハ業務者ニ於テ墮胎セシメタル場合ヲ規定ス

本條ニ列記スル醫師、産婆、藥劑師又ハ藥種商ノ如キハ藥物ニヨリ又ハ其他ノ方法ニヨリ墮胎セシムルコトハ業務上容易ノコトナリ所謂犯シ易クシテ防キ難キモノナリ殊ニ業務ノ信用ニモ關スルモノナルヲ以テ前條ノ場合ヨリ其刑ヲ重クシタルモノトス其他別ニ異ナル理由ナシ

現行刑法第三百二十二條ト同一ニシテ全ク趣旨モ同シ

第二百十五條 婦女ノ囑託ヲ受ケス又ハ其承諾ヲ得スシテ墮胎セシメタル者ハ六月以上七年以下ノ懲役ニ處ス

前項ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

本條ハ婦女ノ囑託又ハ承諾ナクシテ墮胎シタル場合ヲ規定ス

第一項 本項ハ婦女ノ囑託ヲ受ケス又ハ婦女ノ承諾ヲモ得スシテ墮胎セシメタル場合ニシテ其方法手段タル或ハ婦女ニ對シテ詐言ヲ用ヒ藥物ヲ服セシメ又ハ毆打拷詰其他ノ方法ヲ以テ婦女ヲシテ甘諾セシメス所謂無理ニ墮胎セシメタルモノトス斯ノ如キハ實ニ婦女ヲシテ身體上ニ傷害ヲ加フルノミナラス胎内ノ兒ヲシテ死ニ致サシムル等害多キヲ以テ其刑モ亦重クス

第二項 第一項ノ如キハ其害甚タシキヲ以テ未遂ノ場合ニ於テモ之ヲ罰スルモノト爲シタリ

現行刑法第三百三十三條及ヒ第三百三十四條ヲ合シテ本條ト爲シ之ニ修正ヲ加ヘタルモノトス而シテ本條第二項ハ必要ノ點ヨリシテ新タニ設ケタルモノナリ

第二百十六條 前條ノ罪ヲ犯シ因テ婦女ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害ノ罪ニ比較シ重キニ從テ處斷ス

本條ハ死傷シタル場合ヲ規定ス

第二百十五條ノ如ク婦女ノ囑託ヲ受ケス又其承諾ヲモ得スシテ無理ニ墮胎セシメ

ニ婦女ヲ死傷ニ致シタルトキハ別ニ刑ヲ定メスシテ傷害ノ罪ト比較シ其重キニ從處斷スルコト、シタリ之レ他ノ罪トハ其情ニ於テ最モ重ケレハナリ  
現行刑法第三百三十五條ニ同シ

### 第二十章 遺棄ノ罪

本條ハ遺棄ノ罪ヲ規定ス

遺棄トハ不正ニ扶養ノ義務ヲ免脱スルノ所爲ヲ云フ即チ老者、幼者、不具者又ハ疾病者ヲ扶助セス又保護セスシテ途ニ迷ハシムルニアリトス

現行刑法ハ第三編第一章第九節ニ之ヲ規定シタリ而シテ其規定ヲ修正シ幼者又ハ老疾者ヲ遺棄スル罪トアルヲ之ヲ遺棄ノ罪ト改メタルナリ

### 第二百十七條 老幼、不具又ハ疾病ノ爲メ扶助ヲ要ス可キ者ヲ遺棄シタル者ハ一年以下ノ懲役ニ處ス

本條ハ遺棄ノ罪ヲ規定ス

老幼、不具、疾病等ノ人々ハ其男女ト年齡トヲ問ハス何レモ扶助スヘキ義務ヲ有スルコトハ已ニ民法上ニ於テ其義務者ヲ規定シ以テ飢餓ニ陥ラシメサルニアリトス然レトモ民法上扶養スヘキ義務者ニアラサルモ斯ノ如キ人々ヲ遺棄スルカ如キハ實ニ

社會ノ秩序ヲ害シ一私人ヲ苦シメ且背德ノ所爲ナリ之レ刑ヲ科シテ矯正セサルヘキヲサルモノトス

而シテ其老幼ハ年齡如何ニ依リテ程度ヲ定ムハ又其不具者ノ如キ病者ノ如キモ亦其程度ニ依リテ異ナルコトアルヘシ之レ何レモ事實裁判官ノ判定ニ一任スルモノトス

現行刑法第三百三十六條及ヒ第三百三十七條ニ同シ修正シタルモノナリ現行法ハ八歲

ニ滿サル幼者トシテ限定シタリ故ニ八歲以上ノモノハ全ク保護ヲ受クルコトヲ得サルノ感アリ故ニ之ヲ改メテ扶助ヲ要スヘキ幼者ト爲シタリ

現行法ハ家閭無人ノ地ニ遺棄シタリト規定シタルモ其實際上必要ナク刑期ヲ廣クシテ其遺棄シタル當時ノ事情ヲ斟酌シ適當ノ刑ヲ科セシムルニアリトス

#### 判決例

幼者又ハ老疾者等ノ遺棄罪ハ保養ノ義務アルモノニアラサレハ之ヲ當行セス(二九、一二、一五)

### 第二百十八條 老者、幼者、不具者又ハ病者ヲ保護ス可キ責任アル者之ヲ遺棄シ又ハ其生存ニ必要ナル保護ヲ爲ササルトキハ三月以

上五年以下ノ懲役ニ處ス

自己又ハ配偶者ノ尊屬ニ對シテ犯シタルトキハ六月以上七年以下ノ懲役ニ處ス

本條ハ保護責任者ノ遺棄シタル場合ヲ規定ス

第一項 老者、幼者、不具者又ハ病者ハ其者等ヲ保護スヘキノ任アル者アリ即チ民法上扶養義務者ノ如キ類ナリ例ヘハ子ハ親ノ老人不具者又ハ病者ナルトキハ之ヲ保護スヘキ責任アリ又ハ親ハ子ヲ保護スヘキ責任アリ然ルニ之ヲ遺棄シ又ハ其生存ニ必要ナル保護ヲ爲サ、ルトキ例ヘハ老人ノ如キニハ滋養分アル飲食物ヲ與ヘ病者ナルトキハ醫師ニ托シテ相當ノ藥ヲ與フルカ如キ其他寒暑ニ堪ユル保護ヲ爲ス等實ニ必要ナリトス

第二項 自己又ハ配偶者カ其尊屬ニ對シテ之ヲ遺棄シ又ハ生存ノ必要ナル保護ヲ爲サ、ルトキハ其刑重シ之レ第一項ノ事情ヨリ重ケレハナリ

現行刑法第三百三十八條ヲ修正シタルモノナリ現行法ハ給料ヲ受ケ人ノ寄托ヲ受ケ保護スヘキ者、老者、幼者又ハ病者ヲ遺棄シタル場合ノミニ付キ規定スト雖モ改正法ハ之ヲ擴張シ廣ク保護ノ責任アル者カ此等ノ者ヲ遺棄シ其他生存ニ必要ナル保護ヲ

爲サ、ル場合ノ規定ヲ設ケテ以テ現行法ノ不備ヲ補ヒタリ

第二項ハ現行法第三百六十三條及ヒ第三百六十四條ト同一ノ精神ニ基キタル規定ナリ而シテ配偶者ノ直系尊屬ニ對シタル場合ニモ之ヲ適用スル理由ハ已ニ説述シタルハ茲ニ略ス

第二百十九條 前二條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害ノ罪ニ比較シ重キニ從テ處斷ス

本條ハ死傷シタル場合ヲ規定ス

第二百十七條第二百十八條ノ罪ヲ犯シ依テ人ヲ死傷ニ至ラシメタル者ハ傷害ノ罪ト比較シ重キニ從テ處斷スヘキモノトス

現行刑法第三百三十九條ト同一トス現行法ハ別ニ罪ヲ定メ刑ヲ設ケタリト雖モ改正法ハ之ヲ必要ナラストシ第二百十七條ト同シク傷害ノ罪ニ比較シ重キニ從テ處斷シタルモノトス

### 第二十一章 逮捕及ヒ監禁ノ罪

本章ハ逮捕及ヒ監禁ノ罪ヲ規定ス

凡ソ逮捕監禁ハ法律ニ依ルニアラサレハ爲スコトヲ許サ、ルハ帝國憲法ノ明言スル

第二編罪 第三十一章 逮捕及ヒ監禁ノ罪

所ナリ故ニ法律ニ依ラス漫リニ人ヲ逮捕又ハ監禁スルカ如キハ之ヲ罰セサルヘカラ  
ス

逮捕及ヒ監禁ニ付テハ已ニ第九十五條ニ於テ之ヲ規定シタリ之レ其裁判、檢察、警  
察ノ職務ヲ行ヒ又ハ之ヲ補助スル者ノ爲シタル場合ニ係レリ本章ハ一私人ノ爲シタ  
ル場合ニ係レリ故ニ不法ニ逮捕又ハ監禁セラレタル場合ニ於テハ其場合ヲ見以テ何  
レニ依リテ保護セラル、ヤヲ知ラサルヘカラス

現行刑法ハ第三編第一章第六節ニ規定シタルヲ少シク修正シテ改正法ヲ規定シタルモ  
ノトス

第二百二十條 不法二人ヲ逮捕又ハ監禁シタル者ハ三月以上五年以  
下ノ懲役ニ處ス

自己又ハ配偶者ノ直系尊屬ニ對シテ犯シタルトキハ六月以上七年  
以下ノ懲役ニ處ス

本條ハ逮捕又ハ監禁ノ罪ヲ規定ス

第一項 逮捕又ハ監禁ハ法律ニ依リテ之ヲ行フトキハ決シテ罪トナルヘキモノニア  
ラサルハ勿論ナリ故ニ不法ニ人ヲ逮捕シ又ハ監禁スルトキハ之ヲ罰ス例ヘハ他人ノ

子カ惡戯ヲ爲ストシテ自宅ニ連レ歸リ押込ムトキノ如キ又ハ他人カ盜ミシタリトテ  
其人ヲ逮捕シタルカ如シ

第二項 自己又ハ配偶者ノ直系尊屬ニ對シテ犯シタルトキハ其刑重シ故ニ第一項ヨ  
リ重キ刑ヲ科スルニアリトス

現行刑法第三百二十二條及ヒ第三百二十三條ヲ合シテ之ニ修正ヲ加ヘタリ現行法ハ第  
三百二十二條ニ於テ擅ニ人ヲ逮捕シ云々ノ文字ヲ用ユレトモ違法ノ逮捕又ハ監禁ニ  
アラスハ罪タラサルコト自明ノ理ナルヲ以テ單ニ逮捕又ハ監禁ト爲シ又同條ニハ私  
家ニ監禁シタル者ト爲シ監禁ノ場所ヲ示ス爲メ其意義狹キニ過キ往々不便ヲ感スル  
ヲ以テ本條ハ場所ニ關スル規定ヲ除キタリ

又同條ニ但書ヲ加ヘ監禁日數ニ依リ刑ヲ加重スル規定アリト雖モ煩苛ニ過キ裁判所  
ヲシテ適宜ノ刑ヲ科スルコトヲ得サラシムル害弊アルヲ以テ改正法ハ此規定ヲ廢シ  
タリ又本條第二項ハ現行刑法第三百六十三條ト同一ノ趣旨ニシテ唯其刑ヲ重クシタ  
ルノミトス

判決例

監禁制縛トハ監禁若クハ制縛ノ法意ナリ(三三、四、五)

居坐スルコト能ハサル方法ニテ人ヲ制縛シ身體ニ苦痛ヲ感セシメタル所爲ハ刑法第  
三百二十三條ノ苛刻ノ所爲ナリ(三五、三、一七)

親權者カ懲戒ノ爲メ其子ヲ制縛監禁シ又ハ毆打シタルトキニ其所爲ニシテ苟モ法律  
ニ定ムル必要ノ範圍外ニ逸出スルトキハ刑法第三百二十三條ヲ成立ス(三七、二、一)

第二百二十一條 前條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害  
ノ罪ニ比較シ重キニ從テ處斷ス

■ 本條ハ死傷ノ罪ヲ規定ス

前條ノ如ク不法ニ人ヲ逮捕シ又ハ監禁シ爲メニ其人ヲ死傷ニ致シタルトキハ傷害ノ  
罪ニ比較シ其重キニ從テ處斷スルニアリトス

現行刑法第三百二十四條及ヒ第三百二十五條ヲ合シ修正シタリ而シテ其趣旨トスル所  
ハ同一ナリトス

### 第二十二章 脅迫ノ罪

■ 本章ハ脅迫ノ罪ヲ規定ス

元來脅迫トハ人ヲシテ危害ヲ受クヘキコトヲ豫想セシメ以テ之ヲ恐怖セシムルヲ云  
フ例ヘハ白刃ヲ振フテ殺サント迫ルカ如キ又ハ住居ニ放火スト迫リ其他傷害ヲ加ヘ

ントシ又ハ財産ニ對シテ放火若クハ劫掠セント脅カシ又ハ告訴ヲ爲サント云フカ如  
キ類ナリ故ニ其方法手段ト目的物トハ之ヲ論セス何レニシテモ人ヲシテ恐怖セシム  
ルニアリトス

現行刑法ハ第三編第一章第七節ニ之ヲ規定シタリシヲ修加シタルモノトス

現行法ハ唯脅迫ヲ爲シタル場合ノミヲ規定シ脅迫ニ因リ人ヲシテ義務ナキ事ヲ行ハ  
シメ又ハ行フヘキ權利ヲ妨害シタル行爲ヲ豫想セサルヲ以テ改正法ハ新ニ之ヲ補修  
シタリ

現行法第三百二十七條ノ規定ハ單ニ犯罪ノ情狀ニ關スルモノニシテ必要ナキヲ以テ  
之ヲ刪修シタリ

現行法第三百二十九條ニ於テ脅迫罪ヲ親告罪ト爲スト雖モ脅迫罪ノ如キハ私人ノ名  
譽ニ關スルヨリハ寧ロ公ノ秩序ニ關スル罪ナルノミナラス之ヲ親告罪ト爲ス結果被  
害者ヲシテ不當ノ賠償ヲ貪ラシムルニ過キサルヲ以テ改正法ハ親告ノ制ヲ廢シタリ

第二百二十二條 生命、身體、自由、名譽又ハ財産ニ對シ害ヲ加フ  
可キコトヲ以テ人ヲ脅迫シタル者ハ一年以下ノ懲役又ハ百圓以下  
ノ罰金ニ處ス



居坐スルコト能ハサル方法ニテ人ヲ制縛シ身體ニ苦痛ヲ感セシメタル所爲ハ刑法第  
三百二十三條ノ苛刻ノ所爲ナリ(三五、三、一七)

親權者カ懲戒ノ爲メ其子ヲ制縛監禁シ又ハ毆打シタルトキニ其所爲ニシテ苟モ法律  
ニ定ムル必要ノ範圍外ニ逸出スルトキハ刑法第三百二十三條ヲ成立ス(三七、二、一)

第二百二十一條 前條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害  
ノ罪ニ比較シ重キニ從テ處斷ス

■ 本條ハ死傷ノ罪ヲ規定ス

前條ノ如ク不法ニ人ヲ逮捕シ又ハ監禁シ爲メニ其人ヲ死傷ニ致シタルトキハ傷害ノ  
罪ニ比較シ其重キニ從テ處斷スルニアリトス

現行刑法第三百二十四條及ヒ第三百二十五條ヲ合シ修正シタリ而シテ其趣旨トスル所  
ハ同一ナリトス

### 第三十二章 脅迫ノ罪

■ 本章ハ脅迫ノ罪ヲ規定ス

元來脅迫トハ人ヲシテ危害ヲ受クヘキコトヲ豫想セシメ以テ之ヲ恐怖セシムルヲ云  
フ例ヘハ白刃ヲ振フテ殺サント迫ルカ如キ又ハ住居ニ放火スト迫リ其他傷害ヲ加ヘ

ントシ又ハ財産ニ對シテ放火若クハ劫掠セント脅カシ又ハ告訴ヲ爲サント云フカ如  
キ類ナリ故ニ其方法手段ト目的物トハ之ヲ論セス何レニシテモ人ヲシテ恐怖セシム  
ルニアリトス

現行刑法ハ第三編第一章第七節ニ之ヲ規定シタリシヲ修加シタルモノトス

現行法ハ唯脅迫ヲ爲シタル場合ノミヲ規定シ脅迫ニ因リ人ヲシテ義務ナキ事ヲ行ハ  
シメ又ハ行フヘキ權利ヲ妨害シタル行爲ヲ豫想セサルヲ以テ改正法ハ新ニ之ヲ補修  
シタリ

現行法第三百二十七條ノ規定ハ單ニ犯罪ノ情狀ニ關スルモノニシテ必要ナキヲ以テ  
之ヲ刪修シタリ

現行法第三百二十九條ニ於テ脅迫罪ヲ親告罪ト爲スト雖モ脅迫罪ノ如キハ私人ノ名  
譽ニ關スルヨリハ寧ロ公ノ秩序ニ關スル罪ナルノミナラス之ヲ親告罪ト爲ス結果被  
害者ヲシテ不當ノ賠償ヲ貪ラシムルニ過キサルヲ以テ改正法ハ親告ノ制ヲ廢シタリ

第二百二十二條 生命、身體、自由、名譽又ハ財産ニ對シ害ヲ加フ  
可キコトヲ以テ人ヲ脅迫シタル者ハ一年以下ノ懲役又ハ百圓以下  
ノ罰金ニ處ス

親族ノ生命、身體、自由、名譽又ハ財産ニ對シ害ヲ加フ可キコトヲ以テ人ヲ脅迫シタル者亦同シ

■ 本條ハ脅迫ノ罪ヲ規定ス

第一項 生命、身體、自由、名譽又ハ財産ニ對シ害ヲ加フヘシトテ人ヲ脅迫スルモノハ本項ノ刑ヲ科スルニアリ

而シテ其目的ハ如何ナルヲ問ハス或ハ金錢ヲ得ンカ爲メ又ハ自己ノ情慾ヲ遂ケンカ爲メ又ハ名譽ヲ得ンカ爲メ等敢テ之ヲ論セス又方法手段ニ於テモ之ヲ問ハス苟モ他人ニ對シテ殺サント云ヒ、傷ケント云ヒ、監禁セント云ヒ、不名譽ノ事實ヲ以テ新聞ニ投書セント云ヒ、財産ヲ毀壞劫掠セント云フカ如キ類ニシテ其他百般ノ事實ヲ構造シテ人ヲシテ危害ノ生センコトヲ恐怖セシムルニ於テハ成立ス

第二項 他人ニ對シテ汝ノ親族例ヘハ父母又ハ子孫又ハ伯叔父母又ハ配偶者ノ家族ノ生命、身體、自由、名譽又ハ財産ニ害ヲ加フヘシトシ脅迫シタルトキモ亦同一ナリトス蓋シ其脅迫ヲ受ケタル人ニ付テハ自ラ之ヲ受クルト親族ニ受クルト決シテ其恐怖セシ念ニ於テハ異ナルコトナシ只其親族ノ近遠ニ在テハ多少異ナル所アルモ開ハ刑ノ範圍内ニ於テ上下スルコトヲ得ヘキノミ

現行刑法第三百二十六條第三百二十八條ヲ合シテ修正シタルモノトス現行法ハ脅迫ノ方法ヲ列擧スト雖モ其場合狹キヲ以テ之ヲ改メ汎ク生命、身體、自由、名譽又ハ財産ニ對シテ害ヲ加ヘント脅迫シタル場合ヲ規定シテ其方法ヲ限定セサルモノトス

第二百二十三條 生命、身體、自由、名譽若クハ財産ニ對シ害ヲ加

フ可キコトヲ以テ脅迫シ又ハ暴行ヲ用ヒ人ヲシテ義務ナキ事ヲ行ハシメ又ハ行フ可キ權利ヲ妨害シタル者ハ三年以下ノ懲役ニ處ス

親族ノ生命、身體、自由、名譽又ハ財産ニ對シ害ヲ加フ可キコトヲ以テ脅迫シ人ヲシテ義務ナキ事ヲ行ハシメ又ハ行フ可キ權利ヲ妨害シタル者亦同シ

前二項ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

■ 本條ハ義務ナキ事ヲ行ハシメ又ハ權利ヲ妨害シタル場合ヲ規定ス

第一項 前條ト同シク生命、身體、自由、名譽又ハ財産ニ對シ害ヲ加フヘシト脅迫

シテ義務ナキ事ヲ行ハシメ又ハ行フヘキ權利ヲ妨害シタルモノ(一)暴行ヲ用ヒテ人ヲシテ義務ナキ事ヲ行ハシメ又ハ行フヘキ權利ヲ妨害シタルモノ(二)ヲ罰スルニアリ即チ脅迫ヲ加ヘ又ハ暴行ヲ加フカ如キハ人ノ恐怖ヲ惹起スヘク而シテ爲ス可キコトヲ爲サシメス爲スヘカラサルコトヲ爲サシムルモノナリ例ヘハ月々何圓宛ヲ稅トシテ自家ニ納ムヘシ然ラサレハ汝ノ家ヲ放火セント云フカ如キ又ハ他人ガ自己ノ地所ニ建家セントスルヲ暴行ヲ加ヘテ其建築物ヲ引倒シタルカ如キ類ナリ

第二項 以上ノ場合カ親族ナルトキニ於テモ同一トス之レ前條ニ於テモ説明シタルカ如シ

第三項 未遂罪ヲモ罰シ以テ未然ニ防止スルニアリ  
現行刑法ハ此規定ヲ欠クヲ以テ其結果實際上不便ヲ感シタリ故ニ改正法ハ本條ヲ設ケタリ第二項ハ前條ト同シク又第三項ハ其必要ヲ認メテ設ケタルマテナリ

### 第二十三章 略取及ヒ誘拐ノ罪

本條ハ略取及ヒ誘拐ノ罪ヲ規定ス

略取トハ暴行脅迫ヲ以テ被害者ノ現在ノ場所ヨリ他へ伴ヒ行クヲ云ヒ誘拐トハ偽計教唆誘導等ノ所爲ヲ以テ現在ノ場所ヨリ他へ伴ヒ行クヲ云フ故ニ人ヲ或ル所ヨリ或

ル所へ伴ヒ行クニ付テハ二者共ニ一ナレトモ其方法手段ヲ異ニスルカ爲メニ名ヲ異ニシタルノミ

現行刑法ハ第三編第一章第十節ニ規定シタリ

現行法ハ幼者ヲ略取誘拐スル罪ト題シ唯二十歳未滿ノ幼者ヲ保護スル規定ナレトモ本章ハ之ヲ改メ汎ク人ヲ略取誘拐スル罪トシ成年者モ亦保護スルコト、爲シタリ

### 第二百二十四條 未成年者ヲ略取又ハ誘拐シタル者ハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス

本條ハ未成年者ヲ略取誘拐スル罪ヲ定ム

民法ニ依レハ未成年者トハ二十歳未滿ノ男女ヲ云フ其男女ヲ略取シ又ハ誘拐シタルモノハ本條ニ依リテ罰スルニアリトス

而シテ其男女ノ父母其他監督者ノ承諾ニ付テハ之カ明文ナキヲ以テ或ハ疑ヲ存スルモノナキニアラサルモ已ニ不法ニ場所ヲ連レ出シ伴ヒ行クモノナレハ其父母又ハ監督者ノ承諾セサルモノナルコトハ當然ナレトモ或ハ父母又ハ監督者ノ承諾ヲ爲スモ本人ニ於テ之ヲ拒ムトキハ決シテ無罪タラス已ニ本人ノ承諾ナキニ略取又ハ誘拐セハ假令其父母ニシテ承諾スルモ何等ノ效ナキヤ勿論トス故ニ本條ニ於テハ敢テ其監

督者ノ承諾ノ有無ヲ論セス苟モ被害者自身ニ於テ承諾ナキ以上ハ略取又ハ誘拐罪ヲ成立スルコト當然トス

現行刑法第三百四十一條及ヒ第三百四十二條ヲ合シテ修正シタルモノトス

現行法ハ年齢ヲ區別シタリト雖モ改正法ハ之ヲ區別セス單ニ二十歳未満トシタリ

次ニ藏匿又ハ他人ニ交付シタルコトヲ規定スルモ略取又ハ誘拐者自ラ藏匿又ハ他人ニ交付スルハ之レ結果ニシテ其他人カ加功シタルトキハ別ニ本條ヲ設ケタレハ之ヲ删除シタリ

**第二百二十五條** 營利、猥褻又ハ結婚ノ目的ヲ以テ人ヲ略取又ハ誘拐シタル者ハ二年以上十年以下ノ懲役ニ處ス

本條ハ目的ヲ定メテ略取誘拐シタル罪ヲ規定ス

人ヲ略取誘拐スルハ其モノヲシテ藝妓ト爲サシムルカ如キ又ハ藝妓ヲ仕込シテ錢儲ケヲ爲サンカ爲メ又ハ猥褻ヲ爲サンカ爲メ又ハ結婚ヲ爲サンカ爲メナルトキハ其情狀重キヲ以テ十年以下ノ懲役ニ處ス例ヘハ獅子舞ノ親方カ詐言ヲ用ヒテ十歳以下ノ男子ヲ誘拐シタルカ如キ又ハ藝妓ト爲サシメンカ爲メニ甘言ヲ用ヒテ婦人ヲ誘拐シタルカ如キ鷄姦ヲ爲サンカ爲メニ美男子ノ少年ヲ略取シタルカ如キ類トス

本條ハ被害者ノ年齢ニ付テハ制限ナシ故ニ二十歳以上ト未満トノ區別ナキモノトス

現行刑法ハ本條ニ適スヘキ條文ナシ新タニ設ケタルモノナリ

**第二百二十六條** 帝國外ニ移送スル目的ヲ以テ人ヲ略取又ハ誘拐シタル者ハ二年以上ノ有期懲役ニ處ス

帝國外ニ移送スル目的ヲ以テ人ヲ賣買シ又ハ被拐取者若クハ被賣者ヲ帝國外ニ移送シタル者亦同シ

本條ハ帝國外ニ移送スル目的ヲ以テ略取誘拐スル場合ヲ規定ス

第一項 人ヲ略取誘拐スル目的カ帝國外ニ移送スルニアルトキハ其情狀最モ重シ故ニ長期ヲ定メサル二年以上ノ懲役ニ處スルニアリ

第二項 帝國外ニ移送スル目的ヲ以テ人ヲ賣買スルカ如キハ實ニ不法トス元來人身賣買ハ法ノ禁スル所ナルニモ拘ハラズ或ハ略取シ又ハ誘拐シテ之ヲ他人ニ賣買スルニアリテ其賣買ハ其者ヲシテ外國ニ移送スルニアレハナリ其刑第一項ニ同シ

被拐取者若クハ被賣者ヲ外國ニ移シタルモ亦同一タリ

現行刑法第三百四十五條ト同一ノ旨趣ニシテ修正シタルモノトス

判決例

刑法第三百四十五條ハ父母又ハ後見人其他直接監護ニ任スル者ノ權下ニ在ル幼年者ヲ暴行強迫ヲ以テ奪取リ又ハ詐欺甘誘ヲ以テ携ヘ去リテ之ヲ外國人ニ交付シタル場合ヲ罰スヘキモノトス(二四、一、二六)

父母自ラ養育スル所ノ幼者ヲ外國人ニ交付シタル所爲ハ刑法第三百四十五條ニ包含セス(二四、一、二六)

第二百二十七條 前三條ノ罪ヲ犯シタル者ヲ幫助スル目的ヲ以テ被拐取者又ハ被賣者ヲ收受若クハ藏匿シ又ハ隱避セシメタル者ハ二  
月以上五年以下ノ懲役ニ處ス

營利又ハ猥褻ノ目的ヲ以テ被拐取者又ハ被賣者ヲ收受シタル者ハ  
六月以上七年以下ノ懲役ニ處ス

本條ハ拐取者ヲ幫助シタル者ヲ罰スルニアリ

第一項 年齡ノ如何ヲ論セス人ヲ略取又ハ誘拐シタル者ヲ幫助スルノ目的ヲ以テ其略取誘拐セラレタル者又ハ賣ラレタル者ヲ收受シ又ハ之ヲ藏匿シ又ハ之ヲ隱避セシメタルモノハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處スルモノトス略取誘拐者自身カ藏匿シ又

ハ隱避スルコトアルモ或ハ事ノ發覺ヲ恐レ他人ヲシテ藏匿シ又ハ隱避セシムルコトアルヘキナリ

第二項 若シ其收受ニシテ營利又ハ猥褻ノ目的ナルトキハ其刑ヲ重クス之レ其情狀重ケレハナリ營利トハ被拐取者又ハ被賣者ヲ使フテ利ヲ圖ルヲ云ヒ猥褻ハ其者等ニ迫ツテ猥褻ノ行爲ヲ爲サントスルニアリ

現行刑法第三百四十三條ハ本條第二項ト同一ノ趣旨ナリ又第一項ハ現行法ニ規定ナシ而シテ現行法ニ在テハ家屬僕婢ト爲シ云々トアルモ頗ル不明瞭ニ付キ改正法ハ之ヲ改メテ營利又ハ猥褻ノ目的ト改メタリ

第二百二十八條 本章ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

本條ハ未遂罪ヲ罰スルコトヲ規定ス

第二百二十四條乃至第二百二十七條ノ罪ハ未遂ノ時ニ於テモ之ヲ罰セサルハ害弊アルヲ以テ之ヲ未然ニ防クニアリトス

現行刑法ハ此條ノ規定ナシ改正法ハ其必要ヲ認め規定セリ

第二百二十九條 第二百二十六條ノ罪、同條ノ者ヲ幫助スル目的ヲ以テ犯シタル第二百二十七條第一項ノ罪及ヒ此等ノ罪ノ未遂罪ヲ

除ク外本章ノ罪ハ營利ノ目的ニ出テサル場合ニ限り告訴ヲ待テ之ヲ論ス但被拐取者又ハ被賣者犯人ト婚姻ヲ爲シタルトキハ婚姻ノ無效又ハ取消ノ裁判確定ノ後ニ非サレハ告訴ノ效ナシ

本條ハ親告罪ヲ規定ス

本章ノ罪ハ其營利ノ目的ニ出サル場合ニ限りテハ告訴ヲ待テ其罪ヲ論スヘキコト、爲シタリ之レ其人ノ名譽ニ關シ或ハ又後ニ承諾ヲ與フル等アリテ害ノ少ナキカ爲メナリ然レトモ

一 帝國外ニ移送スル目的ヲ以テ人ヲ拐取シタルトキ

二 帝國外ニ移送スル目的ヲ以テ人ヲ賣買シ又ハ被拐取者若クハ被賣者ヲ帝國外ニ移送シタルトキ

三 「一」「二」ノ者ヲ幫助スル目的ヲ以テ被拐取者又ハ被賣者ヲ收受シ若クハ藏匿シ又ハ隱避セシメタルトキ

四 「一」「二」乃至「三」ノ未遂罪ナルトキ

以上四個ニ付テハ例外トシ親告罪ト爲サ、ルモノトス蓋シ帝國外ニ移送スルカ如キハ決シテ寛過スヘキモノニアラス又一私人ノ隨意ニ任スヘキモノニモアラサレハ告

訴ノ有無ヲ問ハサルモノトス

而シテ被拐取者又ハ被賣者ニシテ犯人ト婚姻シタルトキハ其婚姻ノ無效又ハ取消ノ民事上ノ裁判ヲ受ケ其確定後ニ於テ告訴セサレハ效ナキモノトス蓋シ婚姻ノ裁判ニシテ有效ナリトセハ拐取又ハ賣買ノ事實ナキモノト爲ルヘク其婚姻ニシテ取消サル、ニ於テハ拐取又ハ賣買ノ事實ヲ以テスルコトヲ得ヘシ故ニ先ツ民事上ノ裁判確定ヲ待テ告訴ノ效ノ有無ヲ定ムルニアリ

現行刑法第三百四十四條ト同一ノ趣旨トス現行法ハ本章ニ定メタル罪ニ付テハ其目的ノ如何ヲ論セス盡ク親告罪ト爲スト雖モ之レ或ハ廣キニ失スル嫌ナキニアラサルヲ以テ改正法ハ之ヲ改メ以テ本條ノ如ク規定シタリ

但書ハ亦現行法但書ト同一ノ趣旨ニシテ被拐取者犯人ト婚姻シタルトキハ婚姻ノ裁判確定後ニアラサレハ告訴ノ效ナシト爲シタリ

### 第二十四章 名譽ニ對スル罪

本章ハ名譽ニ對スル罪ヲ規定ス

吾人カ社會公衆ニ對シテ名譽ヲ負フハ實ニ其性品ヲ尊フニアリ然ルニ其名譽ヲ毀損スルニ於テハ之レ社會ノ秩序ヲ害シ個人ニ損害ヲ與フ故ニ之ヲ罰セサルヘカラス

現行刑法ハ第三編第一章第十二節中誹毀ノ罪トシテ規定シタリ今之ヲ修正シテ本章ヲ設ケ之ヲ名譽ニ對スル罪ト題シタリ

第二百三十條 公然事實ヲ摘示シ人ノ名譽ヲ毀損シタル者ハ其事實ノ有無ヲ問ハス一年以下ノ懲役若クハ禁錮又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

死者ノ名譽ヲ毀損シタル者ハ誣罔ニ出ツルニ非サレハ之ヲ罰セス  
本條ハ名譽ヲ毀損シタル罪ヲ定ム

第一項 公然事實ヲ摘示シテ人ノ名譽ヲ毀損シタル者ハ假令其事實アリト雖モ之ヲ罰スヘシ而シテ其摘示スル方法手段ニ付テハ別ニ區別ナシ演說ヲ以テスルモ可ナリ書類畫圖又ハ雜劇偶像ヲ作爲シテ爲スモ可ナリ苟モ人ノ名譽ニ關係スル事柄ハ總テ包含スルニアリトス

第二項 死者ノ名譽ヲ毀損シタル者ハ其死者ヲ誣罔ニ出ツルニアラサレハ其罪ヲ論セサルヘシ其誣罔トハ虛事ヲ構ヘテ誣ユルニアリ

現行刑法第三百五十八條ヲ修正シタルモノニシテ現行刑法ハ誹毀ノ方法ニ因リ刑ヲ二個ニ分ツト雖モ改正法ハ斯ノ如キ區別ヲ廢シ數種ノ刑ヲ規定シテ適宜ノ刑ヲ擇ハシメ

タリ

第二項ハ現行法第三百五十九條ト全ク同一ノ規定トス

判決例

刑法第三百五十八條ノ人ヲ誹毀シタル者ハ云々トアル人トハ唯有形人ヲ指スノミナラス無形ノ人ヲモ包含スルモノトス故ニ各人ノ集合ヨリ團結スル所ノ會社等ヲ誹毀スルニ於テハ同條ノ制裁ヲ受ケサルヘカラス(二五、二、四)

誹毀罪ハ特定ノ人ニ對シ其名譽ヲ毀損スル所爲アルヲ以テ成立スル者ナレハ其被害者ノ誰某タルコトヲ認定スルニ足レル理由ヲ説明セサルヘカラス(二六、二、二七)

刑法第三百五十八條ノ惡事云々トハ公衆ノ認知セサル人ノ惡事醜行ヲ暴露シ公衆ヲシテ其惡事醜行ヲ認知スルコトヲ得セシムルヲ云フ(二六、六、一六)

第二百三十一條 事實ヲ摘示セスト雖モ公然人ヲ侮辱シタル者ハ拘留又ハ科料ニ處ス

本條ハ侮辱シタル場合ヲ規定ス

侮辱ノ何タルヤニ付テハ已ニ第九十六條ニ於テ之ヲ説明シタリ而シテ彼ハ公務員ノ職務執行ニ對シテ爲シタル侮辱ヲ罰シタレトモ本條ハ一人ヲ侮辱スルモノヲ罰ス

ルモノトス

一私人ヲ侮辱スルニハ必ラス公然タラサルヘカラス然ラサレハ其人ニ對シテ不敬ニ涉リシヤ否ヤ又世人カ果シテ其事ヲ知得スルヤ否ヤ不分明ナリ故ニ公然タラサルハカラス

現行刑法第四百二十六條第十二號ヲ修正シタルモノニシテ同條ハ公然人ヲ罵詈嘲弄シタル者ニ關スル規定ナレトモ此等ノ手段ノ外尙ホ人ヲ誹毀スル方法アルヲ以テ改正法ハ廣ク人ヲ侮辱シタル場合ノ規定ヲ設ケタリ

第二百三十二條 本章ノ罪ハ告訴ヲ待テ之ヲ論ス

本條ハ親告罪ナルコトヲ示シタリ

本章ノ罪ヲ親告罪ト爲シタルハ被害者ノ名譽ヲ傷クルノ結果却テ被害者ヲ害スルノ結果ヲ生スルノ恐レアルヲ以テナリ

元來人ハ各々名譽ヲ保テ而シテ爲メニ信用ヲ得ルニアリ又人々ハ各々之カ弱點アルヘキモノナリ其人々ノ弱點ヲ捕ヘテ人ヲ惡シク云ヒ爲シ以テ其人ヲ害スルハ實ニ不德義千萬トス殊ニ第二百三十一條ノ如キ公然ト人ヲ誹毀ス實ニ惡ムヘキ行爲トス由來斯ノ如キ人ハ人ヲ誹毀シテ却テ自己ノ名譽ヲ博サントスル劣等人ナリ罰セサルヲ

得ス

現行刑法第三百六十一條ニ同シ

判決例

親告罪ノ私和ハ上告中ト雖モ其效ヲ有シ公訴ヲ消滅ス(二九、一二、一一)

誹毀ノ公訴ハ私和ニ依リテ消滅ス(二九、一一、一七)

誹毀罪ハ被害者ノ告訴ヲ待テ其罪ヲ論スヘキモノナルヲ以テ同時ニ數人ヲ誹毀シタル場合ト雖モ各被害者ニ對シ各一罪ヲ構成ス(三二、二二、二六)

第二十五章 信用及ヒ業務ニ對スル罪

本章ハ信用及ヒ業務ニ對スル罪ヲ規定ス

本章ノ罪ハ人ノ信用ヲ毀損シ又ハ人ノ業務ヲ妨害スル場合ニシテ名譽ヲ毀損セラレ、ニ續テ必要ナルモノトス

現行刑法ハ第二編第八章ニ商業及ヒ農工業ヲ妨害スル罪ト題シテ規定シタリ今本章ヲ設ケ之ヲ修正シタルモノトス

第二百三十三條 虚偽ノ風説ヲ流布シ又ハ偽計ヲ用ヒ人ノ信用ヲ毀損シ若クハ其業務ヲ妨害シタル者ハ三年以下ノ懲役又ハ千圓以下



ノ罰金ニ處ス

本條ハ信用ヲ毀損シ業務ヲ妨害スル罪ヲ規定シタリ

虚偽ノ風説ヲ流布シ又ハ偽計ヲ用ヒテ人ノ信用ヲ毀損シ若クハ其人ノ業務ヲ妨害シタルモノヲ罰スルニアリ

虚偽ノ風説ヲ流布スルトハ彼ノ人ハ山師テアルトカ又ハ已ニ受負ヒタル場合ニ於テ受負ヲ差止メラレタルトカ虚偽ノコトヲ世間ニ披露シテ名聲ヲ陷サシムルニアリ又偽計トハ詐欺ノ手段ヲ施シテ人ヲ錯誤ニ陥レ且利ヲ約スルカ如キ人心ヲ眩惑セシメ不正ヲ行フ所爲ナリ例ヘハ競買人ニ賄賂ヲ贈リテ取引ヲ中止セシメルカ如シ

業務ノ妨害ハ農商工業ヲ問ハス又如何ナル業務ヲ論セス苟モ妨害ヲ爲スニアリ

現行刑法第二百六十七條乃至第二百七十二條ニ於テ業務ノ妨害ヲ規定シタリ本條ハ其内威力ヲ用ユルモノハ次條ニ讓リ其他ハ之ヲ合シテ修正シタリ

第二百三十四條 威力ヲ用ヒ人ノ業務ヲ妨害シタル者亦前條ノ例ニ

同シ

本條ハ威力ヲ用ヒタル場合ヲ規定ス

威力トハ暴行脅迫ヲ爲シ恐喝ヲ以テ人ヲ畏怖セシムルニアリ例ヘハ他人ノ取引ヲ爲

スニ際シ傍ヨリ之ヲ中止セスンハ殺スヘシト迫ルカ如キ又ハ雇人等ニ對シ同盟罷工ヲ爲スヘシ然ラサレハ暴行ヲ加フヘシト迫リ以テ雇主ノ業務ヲ妨害スルカ如シ故ニ威力ヲ用ヒテ人ノ業務ヲ妨害スルハ其手段方法ハ之ヲ問ハス又直接ト間接トヲ論セス商農工業ニ妨害ヲ加ヘタルトキハ成立スルモノトス

第二十六章 窃盜及ヒ強盜ノ罪

本章ハ窃盜及ヒ強盜ノ罪ヲ規定ス

窃盜及ヒ強盜ハ其方法手段コソ異ナレ他人ノ財物ヲ奪取スル點ニ於テハ同一ナリトス而シテ一ハ窃カニ奪取シ一ハ暴行又ハ脅迫ヲ加ヘテ強奪ス其情狀ニ於テ重輕ノ差アリトス

故ニ何レニシテモ盜罪ニハ他人ノ財物ナルコト(一)奪取ノ所爲アルコト(二)不正ナルコト(三)奪取スルノ意思アルコト(四)ヲ必要トセリ

現行刑法ハ第二編第二章第一節第二節ニ之ヲ規定シタリシカ之ヲ合シテ一章トシ之ヲ修正シタルモノトス

現行法ハ窃盜又ハ強盜ニ關シ其目的ヲ以テ家宅ニ侵入シタル者ハ既ニ強盜又ハ窃盜ノ未遂ト爲スト雖モ解釋上多少不明ノ嫌ナキ能ハス因テ改正法ハ之ヲ改メ窃盜又ハ強盜ノ未遂ハ單ニ強窃盜ノ實行ニ著手シタル場合ニ於テノミ始メテ成立スルコト、爲シタリ

現行法第三百六十七條乃至第三百七十條、第三百七十二條乃至第三百七十四條ハ共ニ窃盜ノ情狀ニ因リ設ケタル區別ニシテ少シモ實益ナキノミナラス爲メニ却テ刑ノ範圍ノ狹隘ヲ感シ不便少カラサルヲ以テ改正法ハ斷然斯ノ如キ煩雜ナル規定ヲ廢棄シ汎ク之ヲ設ケ其情狀ハ一ニ裁判官ニ任シタリ

現行法第三百七十九條モ亦同一トス

### 第二百三十五條 他人ノ財物ヲ窃取シタル者ハ窃盜ノ罪ト爲シ十年以下ノ懲役ニ處ス

本條ハ窃盜罪ヲ規定セリ

自己以外ノ人ノ財物ヲ窃取シタル者ヲ窃盜ノ罪ト爲スト即チ他人ノ持チ居ル所ノ財物ヲ不正ニ自己ノ所持内ニ移スニアリ又財物トハ民法上ヨリ云フトキハ動産不動産ヲ包含シ只有形ノ物ノミヲ指ス併シナカラ刑法ニ於テハ第二百四十五條ニ於テ電氣

ノ如キモノニ付テハ矢張財物ト看做トセリ

現行刑法第三百六十六條乃至第三百七十條及ヒ第三百七十二條乃至第三百七十四條ノ規定ヲ合シ之ヲ修正シタルモノニシテ要旨ハ第三百六十七條以下ハ前述セシカ如ク一ノ情狀ニシテ適用上徒ニ混雜ヲ來タスノミナラス爲メニ刑ノ範圍ヲ狹メ却テ不當ノ刑ヲ科スル結果ヲ生スルヲ以テ改正法ハ總テ此等ノ情狀ノ認定ヲ裁判所ニ一任シ刑期ヲ廣クシ適宜ノ刑ヲ科スルコトヲ得セシメタリ又此外ニ尙ホ屋外窃盜ニ關シテハ明治二十三年法律第九十九號アリト雖モ是亦窃盜罪ニ過キサルヲ以テ之ヲ本條中ニ包含セシメタリ

#### 判決例

官私ヨリ封印等ヲナシ包括シタル物件ノ保管ヲ受クルモノ其封印ヲ解放シテ其物件ヲ取出シタルトキハ窃盜罪ヲ構成ス(二四、三、二)  
飲食店ハ衆人ノ出入スル所ナリト雖モ其室内ハ常ニ其店主人ノ監守ニ屬ス道路等ニ比スヘカラス假令來客ノ遺忘シ置キタルモノニ係ルモ亦其店主ノ管守内ニアルヲ以テ之ヲ盜取シタルトキハ窃盜罪ヲ構成シ遺失物拾得ヲ以テ論スヘカラス(二四、九、二二)

自己ノ家屋内ニ甲者カ遺忘シ置キタル財布アルヲ發見シ窃カニ之ヲ取リタルトキハ其物品所有主ハ甲者ナルコト分明ナレハ之ヲ以テ遺失物ナリト謂フヲ得ス既ニ他人ノ所有物ナルコトヲ知テ之ヲ窃取シタルトキハ即チ窃盜ヲ組成シタルモノニシテ其所有主ノ現ニ占有シ居ル物品ナリト否トニ依リ犯罪ノ成否ヲ判スヘキモノニアラス(二四、一二、一四)

土藏内ヨリ衣類ヲ窃取シ之ヲ土藏外ニ運搬シタル上ハ假令之ヲ持去ラサルモ窃盜罪ノ既遂トス(二五、三、七)

露店ハ家屋其他ノ建造物ニ屬セサルヲ以テ露店ヨリ物品ヲ窃取シタル所爲ハ贓金ニ依リテ刑法又ハ明治二十三年法律第九十九號ヲ適用スヘキモノトス(二六、二、二二)

人ノ遺骨ハ金錢ニ換得ラレサル物件ニアラス亦一種ノ有價物ナリ既ニ之ヲ有價物トシテ窃盜スルニ於テハ窃盜罪ニ問フヘキモノトス(二六、九、二八)(二九、一一、九)

登記印紙ノ貼用シアル名刺ハ無價物ニアラス之ヲ窃取セハ窃盜罪トス(二七、一〇、五)

入浴ノ客人カ浴室ニ置キ忘レタルモノハ遺失物ニアラスシテ保管者即チ浴室主人ノ占有ニ在ルヲ以テ他人カ之ヲ取リ去レハ窃盜罪トス(二七、一二、一一)

借用證書ハ有形有價ノ動産ナリ故ニ窃盜罪ノ目的物トナルナリ(二八、九、一七)(二九、七、二四)(三一、九、二六)

九、七、二四)(三一、九、二六)

債務ヲ辨濟スルト詐稱シ債權者ヲシテ債務證書ヲ出サシメタル上直チニ之ヲ自己ノ口中ニ差入レ遂ニ其形跡ヲ留メサルニ至ラシメタル所爲ハ窃盜罪トス(三一、一二、二六)

窃盜罪ノ構成ニハ他人ノ占有スル物件ヲ奪取スルヲ必要トセス他人ニ屬スル物件ナルコトヲ知テ窃カニ之ヲ自己ノ占有ニ歸セシムルヲ以テ足レリ(三三、五、二四)

軒下ニ釣リ下ケアル乾竿ニ掛ケタル物品ヲ家人ノ監守ノ際ニ乘シ窃取シタル所爲ハ通常窃盜ニシテ屋外窃盜ニアラス(三四、一二、三三)

電流ハ有體物ニアラサルモ五官ノ作用ニ依リテ其存在ヲ認識スルコトヲ得ヘキモノニシテ之ヲ容器ニ收容シテ獨立ノ存在ヲ有セシムルコトヲ得從テ他人ノ所持スル電流ヲ不法ニ奪取シテ之ヲ自己ノ所持内ニ置キタルモノハ窃盜罪トス(三六、五、二二)

鐵道乗車券ハ乗車ノ權利ヲ證明スヘキ要具ニシテ有價物ナリ(三七、一、二九)

瓦斯ハ一種ノ物體ナリ他人ノ製造ニ係ルトキハ刑法第三百六十六條ノ所謂他人ノ所有物ニ該當ス(三七、四、二八)

第二百二十六條 暴行又ハ脅迫ヲ以テ他人ノ財物ヲ強取シタル者ハ

強盜ノ罪ト爲シ五年以上ノ有期懲役ニ處ス  
前項ノ方法ヲ以テ財物上不法ノ利益ヲ得又ハ他人ヲシテ之ヲ得セ  
シメタル者亦同シ

■ 本條ハ強盜罪ヲ規定ス

第一項 暴行又ハ脅迫ヲ以テ他人ノ財物ヲ強取シタル者ヲ強盜ノ罪ト爲シタリ故ニ  
金錢ヲ出セ出サ、レハ切殺スト白刃ヲ示シテ金錢ヲ奪ヒ取ルカ如キハ強盜罪トス  
竊盜罪ト同シク其財物ハ有體物ニシテ動産不動産タルヘク又其財物ハ他人ノ物ナラ  
サルヘカラス

第二項 右同一ノ方法即チ暴行又ハ脅迫ヲ用ヒ以テ財産上不法ノ利益ヲ自己ニ於テ  
取得シ又ハ他人ヲシテ之ヲ取得セシメタルモ亦強盜ノ罪トス例ヘハ甲者アリ乙ニ對  
シ汝ノ家屋ヲ貸與セヨ然ラサレハ今汝ノ家ニ放火セント迫ルヲ以テ乙者ハ之ニ恐レ  
家ヲ甲者ニ貸與シタルカ如シ又甲者ニ於テ乙者ニ對シ家ヲ丙者ニ貸スヘシ然ラサレ  
ハ傷害ヲ加フヘシト云ヒ以テ乙者ヲシテ茲ニ關係セサル丙者ニ對シテ家ヲ交付シ貸  
渡シタルカ如シ

現行刑法第三百七十八條ヲ修正シタルモノニシテ且第二項ヲ加ヘ財産上ノ利益ヲモ取

得スル場合ヲ設ケタルモノトス

判決例

賭博ノ勝者カ敗者ノ有ニ歸シタル金品ヲ強奪シタルトキハ強盜トス(三九、七、五)

第二百三十七條 強盜ノ目的ヲ以テ其豫備ヲ爲シタル者ハ二年以下  
ノ懲役ニ處ス

■ 本條ハ豫備ノ所爲ヲ罰スルコトヲ規定ス

強盜ヲ爲スノ目的ヲ以テ其豫備ヲ爲スモノハ之ヲ罰スヘシ元來豫備ノ所爲ハ原則ト  
シテハ罰セス只其害ノアルニ於テ之ヲ罰ス今ヤ強盜ノ如キ其害甚シ依テ其豫備ノ  
行爲ヲモ罰シ大ニ未然ニ防止スルモノトス此事ニ付テハ第七十八條、第一百十三條、第  
二百一條ニ規定シタルト同一ノ理由トス

現行刑法ニ於テハ本條ノ規定ナシ更ニ其必要アルヲ以テ之ヲ新タニ設ケタルモノトス  
第二百二十八條 竊盜財物ヲ得テ其取還ヲ拒キ又ハ逮捕ヲ免レ若ク  
ハ罪跡ヲ湮滅スル爲メ暴行又ハ脅迫ヲ爲シタルトキハ強盜ヲ以テ  
論ス

■ 本條ハ一種ノ強盜ヲ規定ス

竊盜財物ヲ得テ

第二編 第三十六章 竊盜及ロ強盜ノ罪

- 一 其財物ノ取還ヲ拒ク爲メ
- 二 逮捕ヲ免レンカ爲メ
- 三 罪跡ヲ湮滅センカ爲メ

暴行又ハ脅迫ヲ爲シタルトキハ強盜ヲ以テ論スルモノトス其所爲ニ付テハ暴行又ハ脅迫ニ於テハ前後アリト雖モ已ニ財物ヲ強ヒテ奪ハントスルニ外ナラサレハ強盜ト爲スヘキヲ至當トス

現行刑法第三百八十二條ニ少シク修正ヲ加ヘタルモノニシテ其趣旨同一タリ現行法ハ財物取還ノ場合ノミヲ規定スルモ逮捕ヲ免レ若クハ罪跡ヲ湮滅スルカ爲メノ所爲ハ之ヲ補修シタリ

**第二百三十九條 人ヲ昏醉セシメテ其財物ヲ盜取シタル者ハ強盜ヲ以テ論ス**

本條モ亦一種ノ強盜ヲ規定ス

藥酒其他ノ物品ヲ用ヒテ人ヲ昏醉セシメ精神ヲ喪失シ以テ抵抗力ヲ失ハシメ其者ノ財物ヲ盜取スルハ實ニ其情惡ムヘキモノタリ之レ強盜ヲ以テ論スル所以トス  
現行刑法第三百八十三條ト同一ノ趣旨ニシテ現行法ハ藥酒等ヲ用ヒトシテ醉迷セシム

ル方法ヲ示シタルモ改正法ハ之ヲ删除シ廣ク爲シタルモノトス

**第二百四十條 強盜人ヲ傷シタルトキハ無期又ハ七年以上ノ懲役ニ處ス死ニ致シタルトキハ死刑又ハ無期懲役ニ處ス**

本條ハ強盜人ヲ死傷シタル場合ヲ規定ス

強盜ニシテ其強奪ノ手段又ハ方法トシテ人ヲ傷シタルモノ又ハ死ニ致シタルカ如キハ其罪惡實ニ惡ムヘキモノナリ而シテ其財物ヲ強取シタルコトヲ必要トセス其強盜タルノ所爲アレハ足レリトス

現行刑法第三百八十條ニ同シ

判決例

強盜人ヲ殺傷シタル者トハ其強盜ヲナスノ前後ヲ論セス苟モ強盜ヲ爲シ其犯所ニ於テ人ヲ殺傷シタルモノヲ云フ(二四、一〇、一一)

強盜ノ目的ヲ以テ他人ノ家ニ侵入シ暴行ヲ加ヘタル以上ハ財物強取ノ事實アルト否トニ拘ラス強盜罪ナリトス而シテ此場合ニ於ケル負傷ノ所爲ハ當然強盜殺人罪ヲ成立ス(二九、三、一九)(三六、五、一一)

強盜人ヲ傷ケタルトキハ其殺傷ハ強奪ヲ遂クル爲メナルト逮捕ヲ免カル、爲メナル

トヲ問ハス強盜殺人罪トス(三〇、六、一一)  
人ヲ殺害シ以テ怨恨ヲ籌シ且金品ヲ強取センコトヲ決意シ終ニ其目的ヲ遂ケタル所  
爲ハ強盜殺人罪ナリ(三五、二、二七)

強盜ノ二人以上死ニ致シタルトキハ強盜ハ一個ナルモ死ニ致シタル被害者毎ニ各別  
ニ強盜殺人罪ヲ構成ス(三五、一一、六)

強盜ニシテ人ヲ死ニ致シタル上ハ其殺害行爲ノ毆打致死タルト謀故殺ナルトヲ問ハ  
ス又財ヲ得タルト否トヲ論セス已遂ノ罪トス(三七、六、二四)

刑法第三百八十條ハ結果ニヨリテ成立ス其殺害ノ意思ニ出タルト毆打トニ區別ナシ  
(二八、三、三〇)

強盜ノ目的ヲ以テ人ヲ傷シタルトキハ強盜傷人罪ヲ構成スルモノニシテ已ニ傷人ノ  
事實アル上ハ死ニ致スニ至ラザリシ事實カ障礙ニ因ルト中止ニ因ルト少シモ本罪成  
立ニ影響ナシ(三九、四、九)

第二百四十一條 強盜婦女ヲ強姦シタルトキハ無期又ハ七年以上ノ  
懲役ニ處ス因テ婦女ヲ死ニ致シタルトキハ死刑又ハ無期懲役ニ處  
ス

本條ハ強盜強姦罪ヲ規定ス

強盜ニシテ婦女ヲ強姦シタルトキハ無期又ハ七年以上ノ懲役ニ處スヘク因テ婦女ヲ  
死ニ致シタルトキハ死刑又ハ無期懲役ニ處スルモノトス

而シテ婦女ヲ傷シタルトキハ如何即チ強姦ノ結果トシテ只其情狀ヲ斟酌シテ前半文  
ニ依リテ處分スヘキモノトス

現行刑法第三百八十一條ト同一ノ趣旨トス唯後段ヲ設ケテ刑ヲ重クシタルナリ  
判決例

甲乙共ニ強盜ヲ爲スニ際シ乙者ヲ助ケテ強姦セシメタル所爲ハ強盜強姦ノ實行ニ加  
功シタルヲ以テ共ニ正犯トシテ論スヘシ(二八、六、一八)

第二百四十二條 自己ノ財物ト雖モ他人ノ占有ニ屬シ又ハ公務所ノ  
命ニ因リ他人ノ看守シタルモノナルトキハ本章ノ罪ニ付テハ他人  
ノ財物ト看做ス

本條ハ自己ノ財物ニ對シテ盜罪ノ成立スル場合ヲ規定ス  
自己ノ財物ト雖モ

一 他人ノ占有ニ屬シタルモノナルトキ例ヘハ自己ノ動産ヲ他人ニ質入ヲ爲シ置

キタルカ如キ又ハ他人ノ爲メニ留置權ヲ行使セラレツ、アルトキノ如キ又ハ自  
己ノ動産ナルモ他人ニ貸與シタルトキノ如シ

二 公務所ノ命ニ因リ他人ノ看守シタルモノナルトキ例ヘハ自己ノ酒ト雖モ稅務  
官ヨリ封印セラレ他人ノ看守セラレタルトキノ如キ自己ノ動産ヲ差押ヘラレ債  
權者カ之ヲ看守シツ、アルトキノ如シ

此場合ニ於テハ財物ノ所有權ハ自己ニアリト雖モ債權ノ爲メニ抵償ト爲サレタルモ  
ノニシテ其財物ノ上ニ債務ヲ負擔セラレアルモノナレハ決シテ自己ニ自由ニ爲スコ  
トヲ許サ、ルモノトス若シモ之ヲ竊盜スルカ盜強スルニ於テハ其損害ヲ蒙ルハ債權  
者ナリ故ニ此等ノ場合ニ於テハ他人ノ財物ト看做シ以上ノ各本條ニ依リテ處分スヘ  
キモノトス

現行刑法第三百七十一條ト同一ナリ現行法ハ竊盜ノ節ニ於テ規定シタルモ改正法ハ總  
テノ盜罪ニ適用セシムルコト、爲シタリ

判決例

稅務屬カ酒造稅法違反ノ證據トシテ帳簿ヲ差押ヘ之ヲ保有スル場合ニ於テ被差押者  
カ其竊盜ヲ教唆シタル所爲ニ對シテ刑法第三百七十一條ヲ適用セサルハ不法ナリ

(三三、五、一)

苟モ官署ノ命令ニ依リ他人ノ看守シタル物件ヲ竊取スルニ於テハ其命令ノ如何ニ拘

ラス刑法第三百七十一條トス(三五、七、一)

刑法第三百七十一條ノ差押ニ係ルト否トヲ問ハス官署ノ命令ニ因リ他人ノ看守中ニ  
アル自己ノ所有物ヲ竊取スルニ因リテ成立ス(三七、六、一〇)

刑法第三百七十一條ノ他人ノ看守シタル時トハ獨リ差押其他ノ權力行爲ニ依リテ所  
有者ノ物件ヲ取上ケタル官吏カ第三者ヲシテ之ヲ保管セシムル場合ニ限ラス其官吏  
カ自ラ保管スル場合モ亦之ヲ包含ス(三七、九、二七)

第二百四十三條 第二百三十五條、第二百三十六條、第二百二十八  
條乃至第二百四十一條ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

註 本條ハ未遂罪ヲ罰スルコトヲ規定ス

本條列記シタル各本條ハ實ニ其罪重シ依テ未遂罪ヲモ之ヲ罰スヘキモノトス

現行刑法第三百七十五條ト同一ナリ

第二百四十四條 直系血族、配偶者及ヒ同居ノ親族又ハ家族ノ間ニ  
於テ第二百三十五條ノ罪及ヒ其未遂罪ヲ犯シタル者ハ其刑ヲ免除

シ其他ノ親族又ハ家族ニ係ルトキハ告訴ヲ待テ其罪ヲ論ス  
親族又ハ家族ニ非サル共犯ニ付テハ前項ノ例ヲ用ヒス

本條ハ親族相盜ノ場合ヲ規定ス

第一項 本項ニ於テハ左ノ二種ニ區別シタリ

一 直系血族

二 配偶者

三 同居ノ親族又ハ家族

以上ノ三個ノ場合ニ於テ互ヒニ財物ヲ竊取シ又ハ竊取セントシタルトキニ於テハ其刑ヲ免除ス蓋シ他人ヲ害セス且一家ノ平和ヲ維持スル點ヨリシテ罪アルモ刑ヲ免除シタリ而シテ直系血族トハ自己ヨリ云ヘハ上父母祖父母曾祖父母高曾祖父母ヲ云ヒ下子孫曾孫玄孫マテニ及フヘシ而シテ養子ノ如キ繼父母嫡母等皆之レ血族ノ關係ヲ與ヘタル間柄トス

配偶者トハ夫婦互ヒノ間ヲ云フ

同居ノ親族トハ民法上ニ於ケル總テノ親族關係ヲ云フ又家族トハ戶主ノ親族ニシテ

其家ニアルモノ及ヒ其配偶者ヲ云フ

民法上ノ親族トハ

イ 六親等内ノ血族

ロ 配偶者

ハ 三親等内ノ姻族

トス養子ト養親及ヒ其血族ハ養子縁組ノ日ヨリ血族ト同一ノ親族關係ヲ生シ繼父母ト繼子ト又嫡母ト庶子トハ親子間ノ同一ノ親族關係ヲ生スルモノトス

四 以上ノ他ノ親族又ハ家族

以上ノ分ニ付テハ一乃至三ノ如ク深ク親族關係アラス故ニ罪刑共ニ免ルコトヲ得サルモ此場合ニ於テハ告訴ヲ待テ之ヲ論スルコト、爲シタリ蓋シ親族間ニ在テノ平和ヲ維持セシメンカ爲メナリ例ヘハ伯母ノ財物ヲ盜ムカ如キ又ハ從兄弟ノ金品ヲ竊取スルカ如キ類ナリ

第二項 第一項ノ親族間ノ相盜ハ之ヲ不問ニ付スルコトアルヘキモ若シモ他人カ其共犯ナリシトキハ其共犯タル他人ハ決シテ刑ヲ免セス又親告罪ニアラストス例ヘハ子カ他人ト共謀シテ實父ノ金ヲ取リタルトキハ子ハ第一項ニ依リテ免刑セラル、ニ他人ハ當然第二百三十五條ノ竊取トス其贓ヲ分ツト否トハ決シテ區別アルコトナク



只一ノ情狀トシテ刑ノ範圍ヲ以テ適宜ニ科スルノミ  
現行刑法第三百七十七條ヲ修正シタルモノトス現行法ハ直系血族ト同居ノ親族ハ其罪  
ヲ免スト規定スルモ其他ノ親族ニ付テハ何等規定ナシ然レトモ改正法ハ假令其他ノ  
親族ナリト雖モ通常人ト同シク之ヲ處分スルハ却テ無益ノ適用ヲ爲ス弊アリト認め  
其訴追ヲ親告ニ係ルモノト爲シタリ

第二項ハ同一ニシテ其趣旨亦同シ只財物ヲ分ツト否トノ區別アルノミ  
判決例

刑法第三百七十七條ハ父タリ子タル天然上ノ關係ヲ有スレハ戶籍上ノ親屬關係ニ拘  
ラサルモノトス(二五、二、一)

刑法第三百七十七條第二項ハ唯實行ノ正犯者ノミヲ意味スルニ非ス總テノ共犯者即  
チ教唆者從犯者ノ全體ヲ包括スル意義ナリ(二八、一〇、八)

親族相盜ハ竊盜罪アルモ之ヲ問ハストノ意ニシテ犯罪ヲ構成セストノ意ニアラス從  
テ其盜品ナルコトヲ知テ之ヲ寄藏シタル者ハ贓物寄藏罪ヲ構成ス(三四、一〇、二六)

### 第二百四十五條 本章ノ罪ニ付テハ電氣ハ之ヲ財物ト看做ス

本條ハ電氣ノ性質ニ付テ規定ス

民法上物ト稱スルハ有體物ニ限レリ故ニ刑法上ニ於テモ財物又ハ物トアルハ皆普通  
法ノ民法ニ於テ解ヲ求メサルヘカラス然ルトキハ刑法上ノ物モ亦有體物ナラサルヘ  
カラス然ルニ電氣ハ之レ有體物ニアラス左レトモ電氣ヲ往々竊取スルモノアリ故ニ  
本法ニ於テ殊ニ竊盜及ヒ強盜ノ罪ニ付テハ電氣モ亦財物ト看做スト定メ以テ之ヲ防  
止シタリ

法律已ニ之ヲ看做ストアル上ハ決シテ反對ノ證明ヲ許サ、ルモノトス

現行刑法ニ於テハ此條ノ如キ規定ナシ之レ當時未タ斯ノ如キ發達ヲ豫想セサルヲ以テ  
規定セサルニアリ

#### 判決例

電流ハ有體物ニアラサルモ五官ノ作用ニ依リテ其存在ヲ認識スルコトヲ得ヘキモノ  
ニシテ之ヲ容器ニ收容シテ獨立ノ存在ヲ有セシムルコトヲ得從テ他人ノ所持スル電  
流ヲ不法ニ奪取シテ之ヲ自己ノ所持内ニ置キタルモノハ刑法第三百六十六條ナリト  
ス(二六、五、一一)

### 第二十七章 詐欺及ヒ恐喝ノ罪

本章ハ詐欺及ヒ恐喝ノ罪ヲ規定ス

第二編 第三十七章 詐欺及ヒ恐喝ノ罪

詐欺ノ罪トハ第二百四十六條ニ規定スルカ如ク人ヲ欺罔シテ財物ヲ騙取シタルモノ  
ヲ云フ其欺罔トハ無實ノ成功ヲ希望セシメ其他偽計ヲ用ヒタルコトヲ云フ單ニ虚言  
ヲ吐キタルニ止マリ之ヲ信セシムヘキ他ノ何等ノ所爲若クハ狀況ノ加ハラサリシ場  
合ト止タ眞實ヲ告ケサリシノミニシテ毫モ虚偽ノ事實ヲ信セシメントシタル格段ノ  
行爲ナキ場合ハ欺罔ト云フヘカラス

恐喝ノ罪トハ第二百五十條ニ規定スルカ如ク人ヲ恐喝シテ財物ヲ交付セシムルモノ  
ヲ云フ其恐喝トハ無根ノ事故ヲ以テ畏怖セシメタルモノナリ

而シテ詐欺ト恐喝トニ付テハ尙ホ各本條ニ至リテ詳悉スト雖モ此二者ノ區別ニ付テ  
ハ大ニ注意セサルヘカラス二者ハ現行法ニ於テハ一個條ニ之ヲ規定シタルヲ以テ大  
ニ相類似スルモノアルカ如キモ單ニ取財ノ行爲カ受働的ナル點ニ於テ聊カ相類似ス  
ルノミ其犯罪ノ性質ハ恐喝取財ハ寧ろ強盜ニ近キモノニシテ詐欺取財トハ其間確然  
タル區別アルモノトス恐喝取財ニ在テハ強盜ノ如ク被害者ヲシテ加害者ノ行爲ニ恐  
怖シ其財物ヲ提出セシムルニアリ詐欺取財ニ在テハ被害者ヲシテ加害者ノ詐術ヲ眞  
事ナリト誤信シ其財物ヲ進ンテ提出スルニアリ故ニ此二者ノ間大ニ手段ヲ異ニスル  
ト同時ニ取財ノ點ニ付テモ恐喝取財ハ止ムコトヲ得スシテ被害者之ヲ提出シ詐欺取

財ニ在テハ被害者自ラ進ミテ提出スルノ差異アリ之レ第二百四十七條ニ在テハ騙取  
シトシ第二百五十條ニ在テハ交付セシメタル所以ナリ

現行刑法ニ於テハ第三編第二章第五節ニ規定シタルモノニシテ其中受寄財物ニ關スル  
規定ハ之ヲ除キ他ノ場合ヲ一章トシ且詐欺取財ト恐喝取財トヲ明ラカニ區別シタル  
モノトス

### 第二百四十六條 人ヲ欺罔シテ財物ヲ騙取シタル者ハ十年以下ノ懲 役ニ處ス

前項ノ方法ヲ以テ財産上不法ノ利益ヲ得又ハ他人ヲシテ之ヲ得セ  
シメタル者亦同シ

註 本條ハ詐欺取財ノ罪ヲ規定ス

第一項 人ヲ欺罔シテ財物ヲ騙取シタル罪ヲ詐欺取財ノ罪ト云フヘシ故ニ此罪ノ成  
立ニハ人ヲ欺罔スルコト(一)財物ナルコト(二)騙取スルコト(三)ノ三條件ヲ具備セ  
サルヘカラス

抑モ欺罔トハ有ヲ無ト云ヒ無ヲ有ト云ヒ以テ人ノ確信ヲ誤ラシムルコトヲ云フモノ  
ナリ而シテ其錯誤ヲ誘引スルノ方法ニ因ルモノト其錯誤ヲ利用スルモノトノ二アリ

例へハ甲ヨリ乙ニ支拂フ金額アリシヲ知リタル丙ハ乙ナリト詐ハリ甲ヨリ金圓ヲ受  
取リタルカ如キハ前者ニ屬ス又甲カ丙ヲ乙ナリト誤信シテ金圓ヲ支拂ヒタルヲ之ヲ  
正サスシテ乙ノ如ク裝ヒ受取リタルカ如キハ後者ニ屬ス

然レトモ單ニ期限ニハ返濟スヘキニ付金圓ヲ貸與セヨト云ヒ金ヲ借用シテ其期限ニ  
返濟セサルカ如キ逃亡スルノ考ヲ以テ雇人カ賃金ヲ前借シ主家ヲ出テタルカ如キ商  
業家カ良品ナリトシテ客ヲ欺クカ如キハ虚言ニハ相違ナキモ未タ以テ之ヲ信スヘキ  
偽計ヲ施シタル事實ナキヲ以テ詐欺取財ニハアラス必ラスヤ人ヲシテ確信ヲ誤ラシ  
ムルノ偽計ヲ施サ、レハ決シテ欺罔トハ云ハサルナリ

財物トハ已ニ窃盜及ヒ強盜ノ罪ノトキニモ一言シタルカ如ク總テ吾人ノ資産ヲ組成  
スル所ノ有體物ヲ總稱シ彼ノ動産又ハ不動産ハ之ヲ包含ス

騙取トハ自己ノ有ニ歸スルモノニシテ被害者ヨリ進シテ之ヲ提出セシメ加害者之ヲ  
承諾上收受スルモノナリ俗ニ之ヲカタリトルト云ヘリ即チ目的タル財物ヲ自己ノ手  
ニ歸セシムルニアリトス

第二項 人ヲ欺罔シテ財産上不法ノ利益ヲ得又ハ他人ヲシテ利益ヲ得セシメタルト  
キハ直接ニ財物ヲ騙取セス又自ラ財物ヲ騙取セサルモ第一項ト同一トス之レ當然ニ

シテ其被害者ノ地位ニ於テハ財物ヲ騙取セラレ財産上不法ノ利益ヲ收受セラル、點  
ニ於テハ決シテ區別アルコトナケレハナリ尙ホ此事ハ次ノ判決例ニ於テモ之ヲ詳悉  
スルコトヲ得ヘシ

現行刑法第三百九十條中ニアル一部分ニシテ人ヲ欺罔シ財物若クハ證書類ヲ騙取シタ  
ル罪ノ規定ヲ修正シタルモノトス現行法ハ本罪ノ目的物ヲ財物若クハ證書類ト爲ス  
ト雖モ其意義不明ニシテ其狹キニ失スルヲ以テ單ニ財物トシテ證書類ニ拘ラス一切  
ノ財物ヲ包含セシメタリ

次ニ本條ハ第一項ニ於テ財物ニ關スル規定ヲナシ第二項ニ於テ其他ノ財産上ノ利益  
ニ關スル規定ヲ設ケタルモノトス

判決例

甲者遺忘シタル物品ヲ乙者ハ丙者ノ所有ト誤信シ丙者ニ渡シタルニ丙者ハ黙シテ  
之ヲ受取リタル所爲ハ乙者ノ提供ニ任セ黙シテ受取リ其所有ト信セシメタルハ即チ  
欺罔ノ所爲アリテ騙取シタルモノナレハ詐欺取財罪ヲ構成ス(二三、一二、二二)  
例令名ヲ賭博ニ藉ルト雖モ之ヲ以テ詐欺ノ手段トナシ金圓ヲ欺罔騙取シタル時ハ詐  
欺取財トス(二三、一二、五)(二四、六、一一)

委託金ヲ占有秘藏シ之ヲ強奪セラレタリト不實ノ告訴ヲナストキハ其告訴ト同時ニ  
詐欺ノ目的ヲ遂ケタルモノトス(二四、八、六)

詐欺ノ手段タル欺罔ノ程度ハ被害者ノ精神ニ生セシムル效力ニ在リ被害者ノ過失如  
何ヲ問フヘキモノニアラス(二五、三、三二)

官吏カ未タ工事ニ著手セサル以前ニ於テ落成シタルカ如ク假裝シ官ヨリ金圓ヲ受取  
リ請負人ト後日工事ヲナスノ約束ヲ結ヒ且現金存在スルモ騙取罪成立ス(二五、九、  
二六)

債主ヲ欺テ自己ノ外假設シタル虛無ノ人名ヲ連署セル連借證書ヲ交付スルノ所爲ハ  
私書偽造行使罪ヲ構成ス而シテ此偽造證書ヲ他人ニ交付シテ金圓ヲ得タルノ所爲ハ  
詐欺取財罪トス(二六、五、四)

虛偽ノ貸借ニ基ク公正證書ヲ利用シテ金員ヲ騙取スルノ所爲ハ詐欺取財ナリ(二六、  
六、一九)

刑法第三百九十條ノ所謂人ヲ欺罔スルトハ被害者其人ヲ欺罔スルニ止マラス公證人  
ヲ欺キ無實ノ證書ヲ作ラシメ又此無實ノ證書ヲ以テ執達吏ヲシテ幼者ノ財産ヲ差押  
セシメタルハ即チ欺罔ノ事實ナリ(二八、一、一七)

詐欺取財ノ罪ハ人ヲ欺罔スルノ手段カ財物騙取ノ以前若クハ同時ニアルコトヲ要ス  
若シ財物ノ授受アリシ後欺罔ノ手段ヲ行フ者ハ例令當初ヨリ惡意アルモ詐欺ヲ以テ  
義務ヲ免ル、コトヲ計ルニ過キシテ詐欺取財ノ罪ヲ構成セス(二七、四、二)

金員貸與ノ依頼ヲ奇貨トシ證書ノ騙取ヲ企テ依頼者所有ノ建家賣渡ノ公正證書ヲ調  
製セシメテ一時貸シ與レト欺キ之ヲ交付セシメタルハ即チ豫期ノ企望ヲ達シタルモ  
ノニシテ證書騙取罪ヲ構成ス(二七、七、二三)

詐欺取財罪ハ被害者ヨリ直接ニ財物ノ交付ヲ要セス(二七、一〇、五)  
不動産ト雖モ或ル手段方法ヲ以テ之ヲ騙取スルニ於テハ刑法第三百九十條ニ規定ス  
ル犯罪ヲ構成ス(二七、一一、二五)

刑法第三百九十條ハ欺罔セラル、人ト騙取セラル、人ト同一ナルヲ要セス故ニ欺罔  
カ騙取ニ關連スル場合ニハ欺罔セラル、人ト騙取セラル、人ト異ナルモ詐欺取財ノ  
罪ヲ組成ス(二七、一二、三)

刑法第三百九十條ニ財物トハ廣ク財産ヲ包括シ不動産ノ騙取モ含蓄ス而シテ不動産  
騙取ノ既遂ハ所有權ヲ移轉セシムレハ足ルカ故ニ實體ノ占有ヲ要セス(二八、二、一五)  
自己ノ所有ニ歸セサル地所ヲ所有ノ如ク假裝シテ書入抵當ト爲スハ詐欺取財ノ手段